県立病院改革プラン取組状況報告書

福島県病院局　　　　平成２２年７月

～目次～

第１　改革プランの基本的な考え方

１　県立病院概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P　１

２　改革プランの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P　２

第２　評価方法

１　自己評価方法について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P　３

２　自己評価基準について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P　３

第３　自己評価

１　県立病院の在り方

（１）矢吹病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P　４

（２）会津医療センター（仮称）（喜多方病院・会津総合病院）・・・・・P　６

（３）宮下病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P　８

（４）南会津病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P１０

（５）大野病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P１２

２　行動計画

（１）基本方針１：良質な医療サービスの提供・・・・・・・・・・・・P１４

（２）基本方針２：収益確保と費用削減による健全な病院経営・・・・・P２３

（３）基本方針３：医療提供体制の充実強化・・・・・・・・・・・・・P３５

（４）基本方針４：職員の資質向上と人材育成・・・・・・・・・・・・P４２

（５）基本方針５：地域との連携共生・・・・・・・・・・・・・・・・P５０

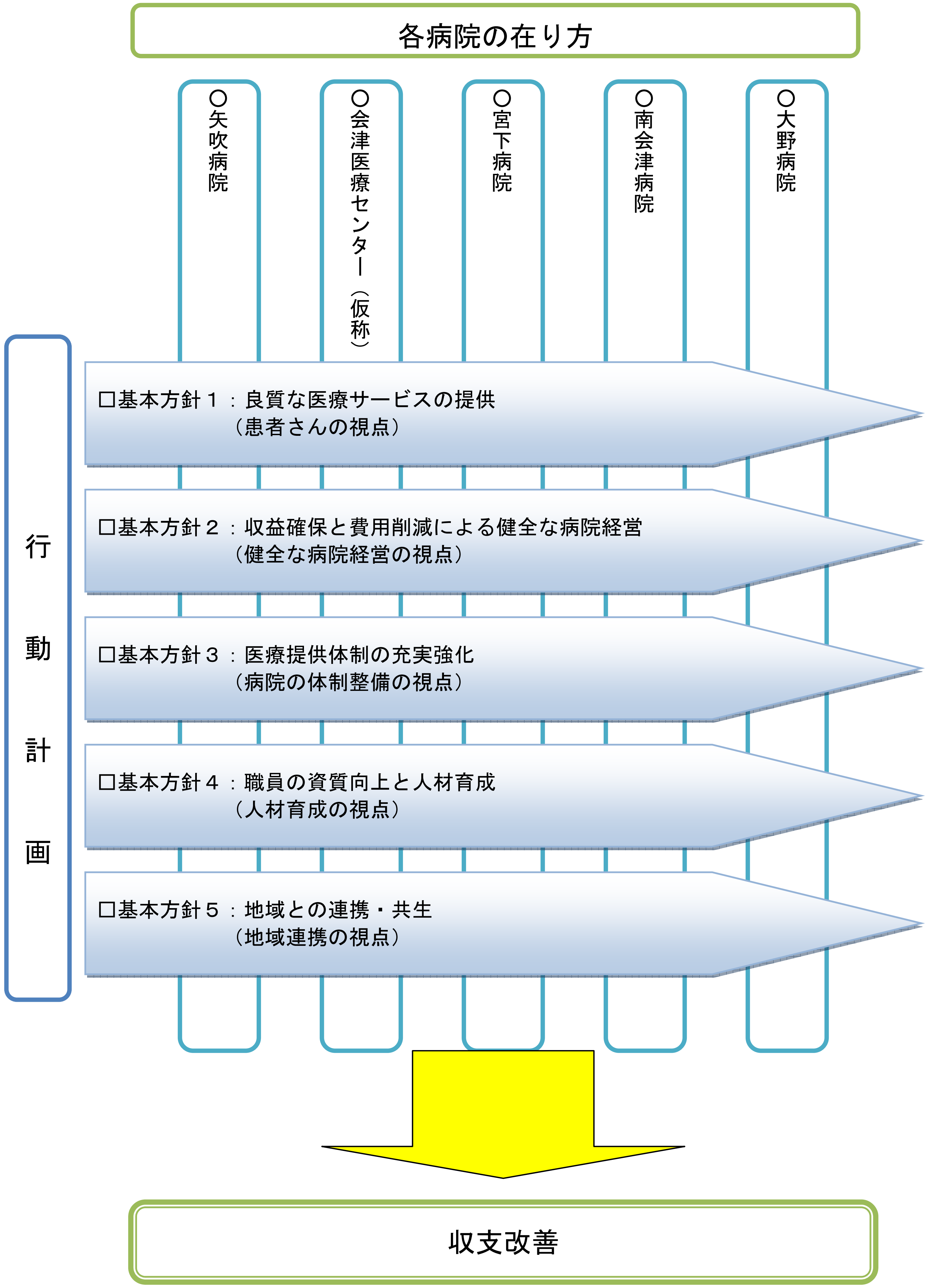
３　収支計画

（１）平成２１年度県立病院事業会計決算の概要・・・・・・・・・・・P６０

（２）県立病院事業の収支計画について・・・・・・・・・・・・・・・P６１

（３）各病院の収支計画について・・・・・・・・・・・・・・・・・・P６２

（参考）福島県県立病院病院別経営指標一覧・・・・・・・・・・・・・P６８



福島県立病院は、昭和２４年に日本医療団から譲り受けた７病院１７診療所を主体として発足し、その後医療行政の一環として、地域における病院の設置、他の公共団体に対する移管等を行い、現在は６病院となっている。

（平成２２年６月１日現在）

病院名	開設年月	標榜診療科名 (　)は非常勤医師の診療科 【　】は休診中の診療科	病床数					看護体制	職員数							
			一般	結核	精神	感染症	計		医師	看護	薬剤	給食	医療技術職	事務	その他職員	計
矢　吹	昭和 30 年 11 月	神経精神科 内科・(歯科)			206		206	15 対 1 看護補助加算 1	6	88	3	6	9	6	1	119
喜多方	昭和 24 年 7 月	内科・外科 (整形外科)・(皮膚科)・(眼科)	50				50	10 対 1	4	39	3	3	6	8	0	63
会津総合	昭和 28 年 6 月	内科・循環器科・呼吸器科 消化器科・外科・整形外科 神経内科・皮膚科・麻酔科 耳鼻いんこう科・神経精神科 リハビリテーション科・歯科 (産婦人科※産科は休診) (泌尿器科)・(眼科)・(放射線科) 【心臓血管外科】・【小児科】	204	50	47	8	309	(一般) 7 対 1 (結核) 15 対 1 看護補助加算 1 (精神) 15 対 1 看護補助加算 2	21	173	9	17	30	17	2	269
宮　下	昭和 26 年 11 月	内科・外科 (整形外科)・(皮膚科) (耳鼻いんこう科)・(神経精神科)	32				32	7 対 1	5	21	2	1	3	5	0	37
南会津	昭和 24 年 7 月	内科・外科・整形外科 耳鼻いんこう科・眼科・麻酔科 (神経内科)・(小児科) (産婦人科)・(皮膚科) (神経精神科)	100				100	7 対 1	12	79	4	1	12	7	0	115
大　野	昭和 26 年 12 月	内科・消化器科・外科 整形外科・小児科・麻酔科 (眼科)・(呼吸器科)・(泌尿器科) 【産婦人科】	146			4	150	7 対 1	11	74	4	8	16	7	1	121
合計			532	50	253	12	847		59	474	25	36	76	50	4	724

1　策定の主旨

◆県立病院事業は、平成１６年４月から地方公営企業法の全部適用に移行し、平成１９年３月末に３病院１診療所を廃止・移譲して６病院体制となった。福島県病院事業経営改善計画（平成１９年３月２６日行財政改革推進本部県立病院改革部会報告。以下「経営改善計画」という。）に基づき、医療機能の充実強化や経営改善に取り組んできた。

◆しかしながら、医師不足の深刻化等により、医療提供体制の維持が極めて厳しく、医療機能を十分に発揮できない状況にあり、また、常勤医師の退職や短期交替等に伴う診療体制の変更等による患者数の減少や、診療報酬のマイナス改定の影響などにより、多額の赤字が生じるなど、これまでにない厳しい経営状況となった。

◆こうしたことから、県として、平成１９年１２月の国の「公立病院改革ガイドライン」の趣旨を踏まえ、県立病院の在り方を再整理するとともに、経営改善計画の取組みを加速し、『地域に必要とされる質の高い医療の提供と病院経営の健全化』を基本目標とする「福島県県立病院改革プラン」を平成２１年５月に策定した。

2　県立病院の在り方

◆地域に必要な医療を安定的かつ継続的に提供できる体制の構築を図ることを基本として、以下の見直しを行う。

病院名	果たすべき役割	経営形態
矢吹病院	民間病院では処遇困難な患者の受入れなどの精神医療の提供	県立病院として経営
会津医療センター（仮称）（会津総合と喜多方）	１　「診療」・「教育」・「研究」の３つの機能を柱とする ２　地域医療の確保や人材の育成等の拠点と位置づける	公立大学法人県立医科大学の附属病院に移行
宮下病院	へき地における医療提供	県立病院として経営
南会津病院	へき地における医療提供	県立病院として経営
大野病院	１　医療拠点としての中核的機能 ２　二次救急医療への対応	双葉厚生病院と統合する方向で検討

3　行動計画

◆**「親切・信頼・進歩」**という県立病院基本理念の下、政策医療の確保を始め、地域に必要とされる質の高い医療の提供と病院経営の健全化に向け、以下の５つの基本方針により取り組む。

基本方針	主な取組
１　良質な医療サービスの提供	・電子カルテ導入（会津総合）【２１年３月導入】 ・透析機器の増設（南会津）　など
２　収益確保と費用削減による健全な病院経営	・常勤医師の確保や未利用財産の売却等 ・病棟再編・病床削減の実施（喜多方･宮下･南会津）　など
３　医療提供体制の充実強化	・県立医科大学等との連携強化 ・医師紹介事業者の活用など医師確保の充実強化 ・医師の処遇改善策の実施　など
４　職員の資質向上と人材育成	・各専門分野のスペシャリストの育成 ・民間実務経験者の採用　など
５　地域との連携共生	・国保診療所への診療応援　など

4　収支計画

◆上記の基本方針に基づき、病院経営の健全化に向けた目標を設定し、具体的な取組みを確実に実行する。

【経営健全化に向けた収支目標】

目標１：単年度赤字の漸次解消を図り、平成２５年度までに収支均衡を目指す。

目標２：平成２３年度までに資金不足の解消を目指す。

5　計画期間

（１）改革プラン全体　　　　　　：５年間（平成２１～２５年度）

（２）経営健全化等に向けた行動計画：３年間（平成２１～２３年度）

6　進行管理

（１）進捗状況については、毎年、取組状況及び自己評価結果を、有識者で構成される「県立病院事業経営評価委員会」から助言・意見をいただくとともに、ホームページ等で公表する。

（２）診療報酬の改定や患者の動向など、県立病院を取り巻く環境の変化に対応するため、必要に応じ、適切な見直しを行う。

1　自己評価方法について

◆平成２１年５月に「福島県県立病院改革プラン」を策定し、地域に必要とされる質の高い医療の提供と病院経営の健全化を図るため、具体的な実施手順や数値目標を定め、各病院の行動計画に基づいてさらなる経営改善・充実強化、患者サービスの向上や医療安全対策の強化を図った。

◆また、県立病院の在り方を踏まえた改革を進めながら、「親切・信頼・進歩」という県立病院基本理念の下、ＢＳＣ（バランスド・スコアカード）の考え方を活用し、５つの基本方針に基づく具体的な取組みを実行した。

◆これらの実施状況については、下記の『県立病院の在り方』、『行動計画の基本方針１～５に掲げる１１の共通目標』、『全体の収支計画』に対して、それぞれ５段階の評価基準により自己評価を行った。

	評価項目		目標達成 自己評価	取組状況 自己評価
在り方	矢吹病院		－	○
	会津医療センター（仮称）（喜多方病院・会津総合病院）		－	○
	宮下病院		－	○
	南会津病院		－	○
	大野病院		－	○
行動計画	基本方針１	◇医療の質の向上	－	○
		◇患者サービスの向上	○	○
	基本方針２	◇収益の確保	○	○
		◇未収金の発生防止と早期回収の強化	○	○
		◇費用の見直し	○	○
	基本方針３	◇診療体制及び経営基盤の強化	○	○
		◇医療安全対策の強化	○	○
	基本方針４	◇人材の育成と確保	○	○
		◇職員の意識改革	○	○
	基本方針５	◇地域医療機関等との連携	○	○
		◇県民への情報提供	－	○
収支計画	県立病院事業の収支計画		○	○
	矢吹病院		○	－
	喜多方病院		○	－
	会津総合病院		○	－
	宮下病院		○	－
	南会津病院		○	－
	大野病院		○	－

2　自己評価基準について

◆平成２１年度の改革プランの進捗状況については、次の２つの観点から自己評価を行った。

①平成２１年度目標値の『達成状況』

②目標値を達成するための『取組状況』（積極性の有無）

目標値達成状況の自己評価		取組状況の自己評価	
【５】	目標値を上回った 達成度１００％以上１２０％未満	【５】	極めて積極的に行われている
【４】	目標値を達成できた 達成度９０％以上１００％未満	【４】	積極的に行われている
【３】	目標値をほぼ達成できた 達成度７０％以上９０％未満	【３】	取り組んでいる
【２】	目標値を下回った 達成度５０％以上７０％未満	【２】	消極的である
【１】	目標値を大きく下回った 達成度５０％未満	【１】	実施に至っていない

◆各分野で設定している共通目標指標については、その達成状況をわかりやすくするため、下記の基準により評価を行った。

＊目標値達成度指標＝当該年度実績値／当該年度目標値×１００

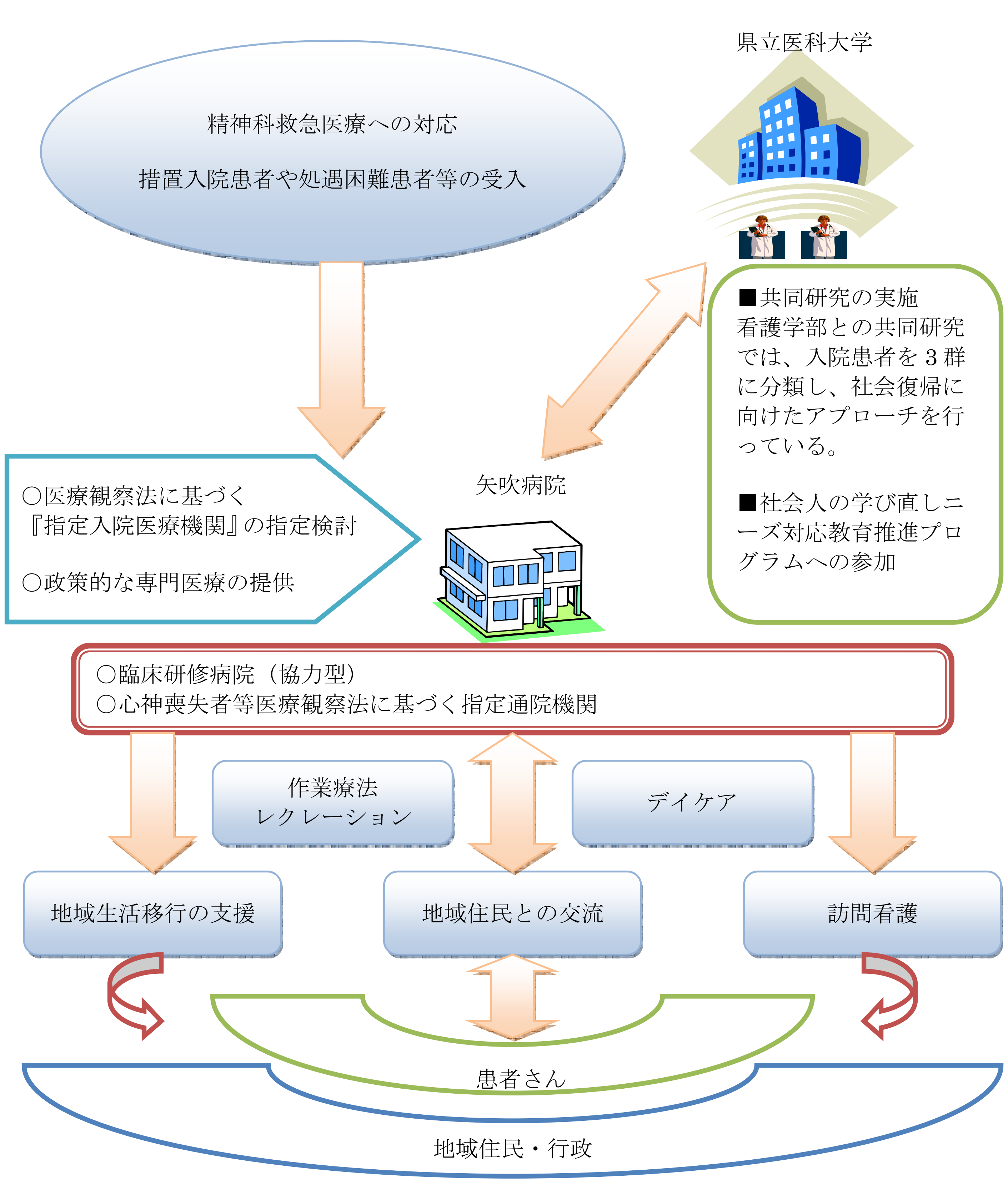
１　矢吹病院

（医師数：６人・病床数２０６床・精神単科病院）

	改革プランの内容		平成２１年度の取組状況及び自己評価
役割	果たすべき役割	○措置入院患者や民間病院では受入が難しい処遇困難患者等の受入れなどの精神医療提供	取組状況自己評価　【３】　取り組んでいる
役割	経営形態	○県立病院として経営	
医療機能	①措置入院患者や処遇困難患者の受入体制の充実強化	○措置入院患者や民間病院では受入が難しい処遇困難患者等の受入体制の充実強化を図る。	◆　１４床の保護室が常時満床のため、少しでも空床を確保し処遇困難患者の受入を行うため、隔離期間の短縮に努力した。 ◆　満床状態を少しでも緩和するため、引き続き保護室使用率の減少を検討した。 措置入院患者数：３名　／　処遇困難患者数：２名
医療機能	②心神喪失者等医療観察法に基づく患者への支援	○心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者に対する医療の確保と社会復帰への支援を行うため、現在の心神喪失者等医療観察法に基づく「指定通院医療機関」に加え、指定入院医療機関としての指定についても検討を行う。	◆　医療観察制度の趣旨に基づき、公的医療機関として触法精神障害者の社会復帰を支援するため、ハーフサイズの病床を有する他県の医療観察法病棟を視察し、「医療観察法に基づく指定入院医療機関」の整備に向けた調査を行った。 →医師を始めとする他職種職員の必要人員の確保が最大かつ緊急の課題
医療機能	③患者の地域生活移行への支援	○「入院医療中心から地域生活中心へ」という精神保健医療福祉改革ビジョンの基本的な考え方を踏まえ、患者の地域生活移行を引き続き進めるとともに、退院後も患者が地域の中で安心して暮らしていけるよう支援を強化する。	◆　精神科リハビリテーションの各種取組みや退院促進事業（在院期間短縮検討会）等に加えて、市町村担当部門や民間事業者、保健福祉事務所等と連携しながら、「精神障がい者地域生活移行支援特別対策事業」に取り組んだ。 →１１名の患者を対象として退院促進に向けて取り組み、３名が退院に至った。受け入れる施設が少ないことや長期入院患者を退院させることの困難さなどの課題を改めて感じる一方、当事業により得られたノウハウやネットワークについては、今後の退院促進援助に活用して行く。
医療機能	④政策的な専門医療の実施	○県内の精神医療をリードする役割を果たすため、県立医科大学等との連携強化を図りながら、児童思春期、ストレスケア等の政策的な専門医療の実施に向けて検討する。	◆　具体的な検討までには至っていない。 →県立医科大学、保健福祉部などの関連機関と連携しながら検討を行っていく。
医療機能	⑤精神科救急医療への対応	○精神科救急医療システム指定医療機関（救急輪番制）に指定されており、引き続き救急医療を実施する。	◆　精神科救急医療システム指定医療機関（救急輪番制） 毎月、５～６回の救急輪番対応を実施した。県中・県南ブロックにおいて２病院が救急輪番から外れたため、担当回数が増加した。 今後、保健福祉部と福島県精神科病院協会の協力を得ながら、対応策を講じて行く。
医療機能	⑥臨床研修病院としての研修・教育機能の展開	○県立医科大学や白河厚生総合病院等と連携しながら、臨床研修病院（協力型）として、臨床研修医や学生への研修、教育を行う	◆　県立医科大学附属病院、白河厚生総合病院、公立岩瀬病院、奥羽大学歯学部附属病院の協力型臨床研修病院としても指定されている。今後も、臨床研修医等への研修、教育を実施していく。 平成２１年度実績　５名　白河厚生総合病院（後期研修医） ◆　精神医療従事者の教育研修機関として、作業療法士養成校から６名の学生を受け入れ、臨床実習教育を行った。
規模	○地域生活支援体制の充実・強化を図り、入院患者の地域生活移行を促進するため、心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関としての指定も視野に入れながら、平成２４年度に４病棟から３病棟とする病棟再編を実施する。		◆　心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関としての指定について継続して検討を行っていく。

矢吹病院の医療機能	指定入院医療機関の概要

矢吹病院の医療機能

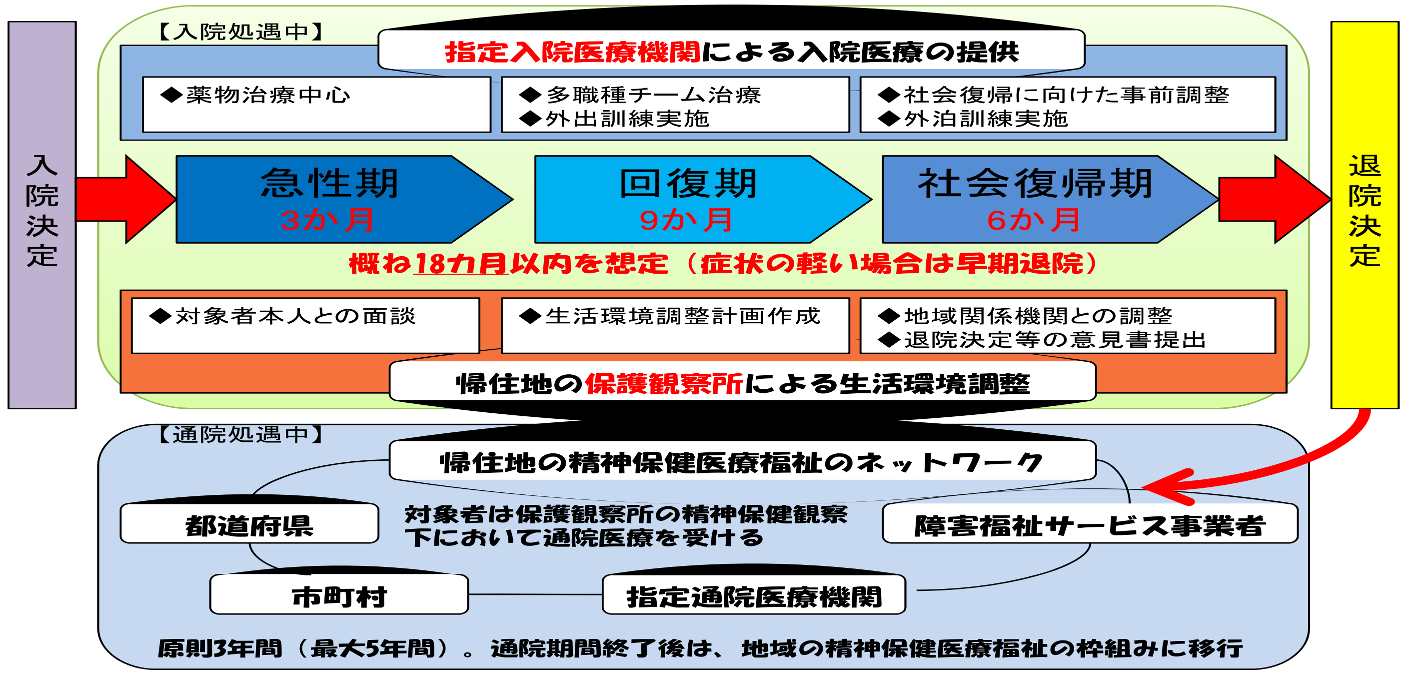


指定入院医療機関の概要

◆医療観察法について

心神喪失等で重大な他害行為を行った者に対して、継続的かつ適切な医療並びにその確保のため必要な観察及び指導を行うことによって、症状の改善及び同様の行為の再発防止を図り、その社会復帰を促進するよう、対象者の処遇を決定する手続き等を定めるもの。

◆医療観察法に基づく入院から社会復帰の流れ（厚生労働省資料参照）



◆指定入院医療機関の整備状況

◇指定入院医療機関は、国、都道府県、特定独立行政法人、特定地方独立法人、国立大学法人が設置する医療機関に限定。（非公務員型独立行政法人は対象外）

◇指定入院医療機関の確保については、全国で720床程度を目標

【指定入院医療機関の整備状況】（平成２２年３月現在）

	整備目標	稼働中		整備中		合計	
		箇所数	病床数	箇所数	病床数	箇所数	病床数
国	420床	13	386床	5	92床	18	478床
都道府県	300床	7	98床	6	123床	13	221床
合計	720床	20	484床	11	215床	31	699床

◇医療観察法の病床は、都道府県関係での整備の遅れを背景として必要病床数の整備が進んでおらず、対象者が居住していた地域から離れた遠方の指定入院医療機関に入院している事例が増加している。

2　会津医療センター（仮称）（喜多方病院・会津総合病院）

（医師数：喜多方病院４人・会津総合病院２１人　病床数：喜多方病院５０床・会津総合病院３０９床）

改革プランの内容

役割	果たすべき役割	１「診療」・「教育」・「研究」の３つの機能を柱とする。 ２　地域医療の確保や人材の育成等の拠点と位置づける。
役割	**経営形態**	**○公立大学法人県立医科大学の附属病院に移行**
医療機能	**①診療機能等の在り方**	○会津地方全体の医療水準の維持・向上を図るため、へき地医療をはじめとする政策医療並びに地域特性に対応した医療を提供するとともに、県立医科大学附属病院として新たに備える教育研究機能を発揮し、本県医療の向上にも貢献することを基本として、医科大学と更に協議を進め、診療機能等の在り方を決定する。
医療機能	**②診療科の決定**	○現在、会津総合病院と喜多方病院に勤務する医師と附属化後に医科大学から配置可能な医師等による体制を総合的に考慮して、診療科を決定する。 ※医科大学からは、「総合内科」、「地域・家庭医療科」、「東洋医学科」、「血液内科」等の新たな診療科の設置についての提案がある。
医療機能	**③政策医療の実施**	○二次救急医療、結核・感染症医療、へき地医療支援（へき地医療拠点センター病院）等の政策医療を実施する。
医療機能	**④地域連携**	○地域の医療機関との連携やネットワークの構築を図る。
医療機能	**⑤臨床研修病院等としての研修・教育機能の展開**	自治医科大学等と連携しながら、臨床研修病院として臨床研修医への研修を行うほか、大学附属病院として学生等の教育にも活用する。
規模		○２３０床程度（一般 200 床、結核 14 床、感染 8 床、集中 4 床）
規模		**○喜多方病院の経営改善に向けて、診療圏の人口動向や今後の患者数見込み等を踏まえ、平成 21 年度に病床数を削減（135 床→50 床）する。（実施済）**

平成２１年度取組状況及び自己評価

取組状況自己評価	【４】	積極的に行われている

１　会津医療センター（仮称）の整備について

◆　実施設計及び運営・医療情報システム、医療器械について継続して検討するとともに、県立医科大学附属病院化に伴う病院機能等の検討を行い、仮称を「会津医療センター」に変更した。

◆　平成２１年１０月から、病院入口に係る国道１２１号の右折レーン整備に着手した。

２　新たなシステム導入について

◆　教育研究機能を発揮するためには、広く県外から医師を確保することが重要であるため、県立医科大学では、『教員に対して医療職としての給与体系を適用すること』や、『任期付雇用制度の導入』によって、他の大学や病院を退職した優秀な医師を招聘できる仕組みを構築した。

３　会津医療センター（仮称）の概要

◆　地域全体で圏内の医療を支える「地域完結型」の医療を基本的な考え方として、適切な医療を提供し、患者及び職員双方が魅力を感じることができる病院を目指していく。

診療科	◇２３科（院内標榜の診療科を含む） 内科、総合内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、血液内科、生活習慣病科、東洋医学科、地域・家庭医療科、外科、整形外科、心身医療科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科、放射線科、麻酔科、病理診断科、歯科
病床数	２３０床程度（一般２００床程度、ＩＣＵ・ＣＣＵ４床、結核１４床、感染症８床）
主な機能等	（１）診療機能 ①現在の会津総合病院及び喜多方病院の診療科を継続することを基本 ②地域に不足する診療科を新たに設置 ③結核・感染症医療等、政策医療の継続実施 （２）教育・研究機能 診療機能との密接な関連の中で、県立医科大学本体ではできない教育や研究に取り組むことで、地域で必要とされる医療人の育成や住民に身近な課題の解決に寄与していく。 学部教育：医学部生の実習、卒後臨床研修及び後期研修生の積極的受入 研究部門：会津大学との医工連携、疫学、地域・家庭医療学

４　平成２２年度の取組みについて

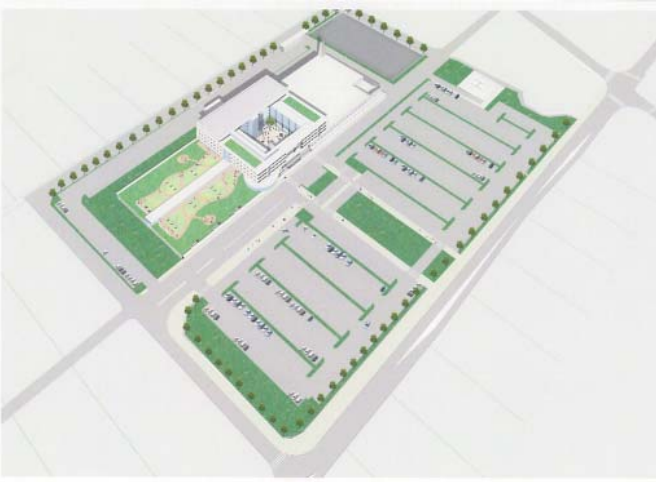
◆実施設計を完了し、建築工事の発注、工事着工を行うとともに、センターの運営方法等について検討する。

会津医療センター実施設計イメージ

○外観イメージ

○敷地概要

・所在地　　会津若松市河東町谷沢　地内
・敷地面積　約５０,０００m²
・用途地域　指定なし（市街化調整区域）
・容積率　　２００%以下
・建ペイ率　６０%以下



○建築概要

・建築面積　約９,４００m²（附属施設除く）
・延床面積　約２２,７００m²
・階数　　　６階
・構造　　　鉄筋コンクリート造（免震構造）

○開所予定

平成２５年２月

○施設概要

◆施設の特徴等

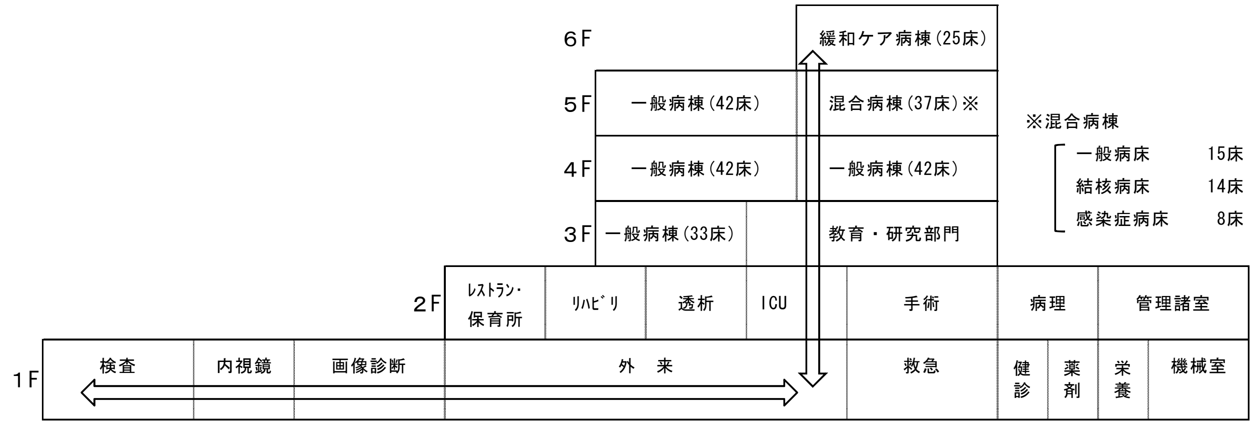
【平面計画、ゾーニング】

・外来患者さんの診察、検査、処置までを１階のフロアで完結できるようにしています。
・建物中央部に低層階と病棟階をつなぐ縦動線を確保することにより、機能的な運営が可能となります。
・建物中央部に中庭（光の庭）を設け、病院全体に自然光・自然通風を取り入れ、明るく開放的な空間とします。

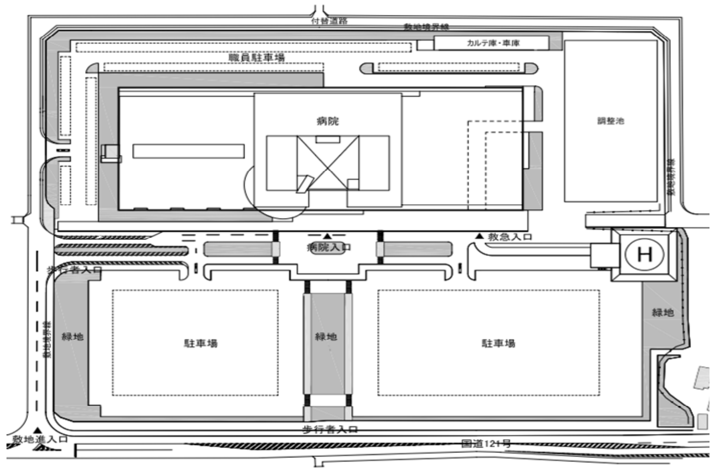
【積雪に対する考え方】

・救急車の寄り付き、時間外患者の入口、薬品等搬入口などを屋内通路に向けて設けることで、冬の季節風・積雪から守られた出入となります。
・雪をフラットな屋根に堆積させ、落雪させないようにします。
　なお、屋上の排水に配慮し、屋根に適切な勾配を設けます。

◆断面イメージ



○配置図面



3　宮下病院

（医師数：５人　病床数３２床）

	改革プランの内容		平成２１年度取組状況及び自己評価		
役割	果たすべき役割	**〇へき地における医療提供**	取組状況自己評価	【３】	取り組んでいる
	経営形態	**〇県立病院として経営**			

医療機能

①急性期医療の実施

〇県医療計画において「へき地医療拠点病院」に指定されており、当診療圏唯一の病院として緊急の内科的・外科的処置に対応する医療機能を確保し、会津総合病院や開院後の会津医療センター（仮称）の支援を受けながら、この地域に不足している、高齢者に多い運動器や感覚器の疾患に対応する医療（整形外科、眼科、耳鼻咽喉科等）を提供する。

◆　県内で高齢化率が一番高い地域特性に対応した医療の提供

診療科	開設日	体制
内科	〇毎日	常勤
外科	〇毎日	常勤
整形外科	〇第２・第４水曜日	非常勤（会津総合病院）
神経精神科	〇隔週水曜日	非常勤（会津総合病院）
耳鼻いんこう科	〇第２・第４金曜日	非常勤（会津総合病院）
皮膚科	〇隔週木曜日	非常勤（会津総合病院）

②へき地における医療の確保

〇へき地医療拠点病院として、国保診療所への派遣機能を維持するとともに、訪問診療・訪問看護等により住民の医療を確保するなど、県内で最も高齢化率が高い地域特性に対応した医療を提供する。

◆　へき地医療拠点病院として、国保診療所等への診療応援

柳津町国民健康保険診療所	毎週月曜日	４６回／年
金山町国民健康保険診療所	毎週火曜日から金曜日	１９２回／年
特別養護老人ホーム桐寿苑	毎週金曜日（管理医として）	４７回／年

◆在宅医療を継続して実施

訪問診療	２回／月	７３件／年
訪問看護	１回／週	７０件／年

③臨床研修協力施設としての研修・教育機能の展開

〇県立医科大学や自治医科大学等と連携しながら、臨床研修協力施設として、臨床研修医や学生への研修、教育を行う。

◆　臨床研修医や学生への研修、教育

項目	内容	参加人数
家庭医研修プログラム	県立医科大学６年生のホームステイ	３名
へき地医療体験研修	地域医療に関心を持つ県内外の医学部生	１５名
地域医療現場見学	医学部進学を希望する会津地区の高校２年生	１３名

＊　県立医科大学家庭医研修プログラムに基づくホームステイ研修については、宮下病院等後援会の協力を得て実施した。

④地域住民の健康増進への支援

〇地域の医療機関や介護施設等とも連携しながら、健康診断、人間ドック等による疾病の予防、早期発見・治療等を通じて、地域住民の健康増進への支援を行う。

◆　地域住民の健康増進への支援

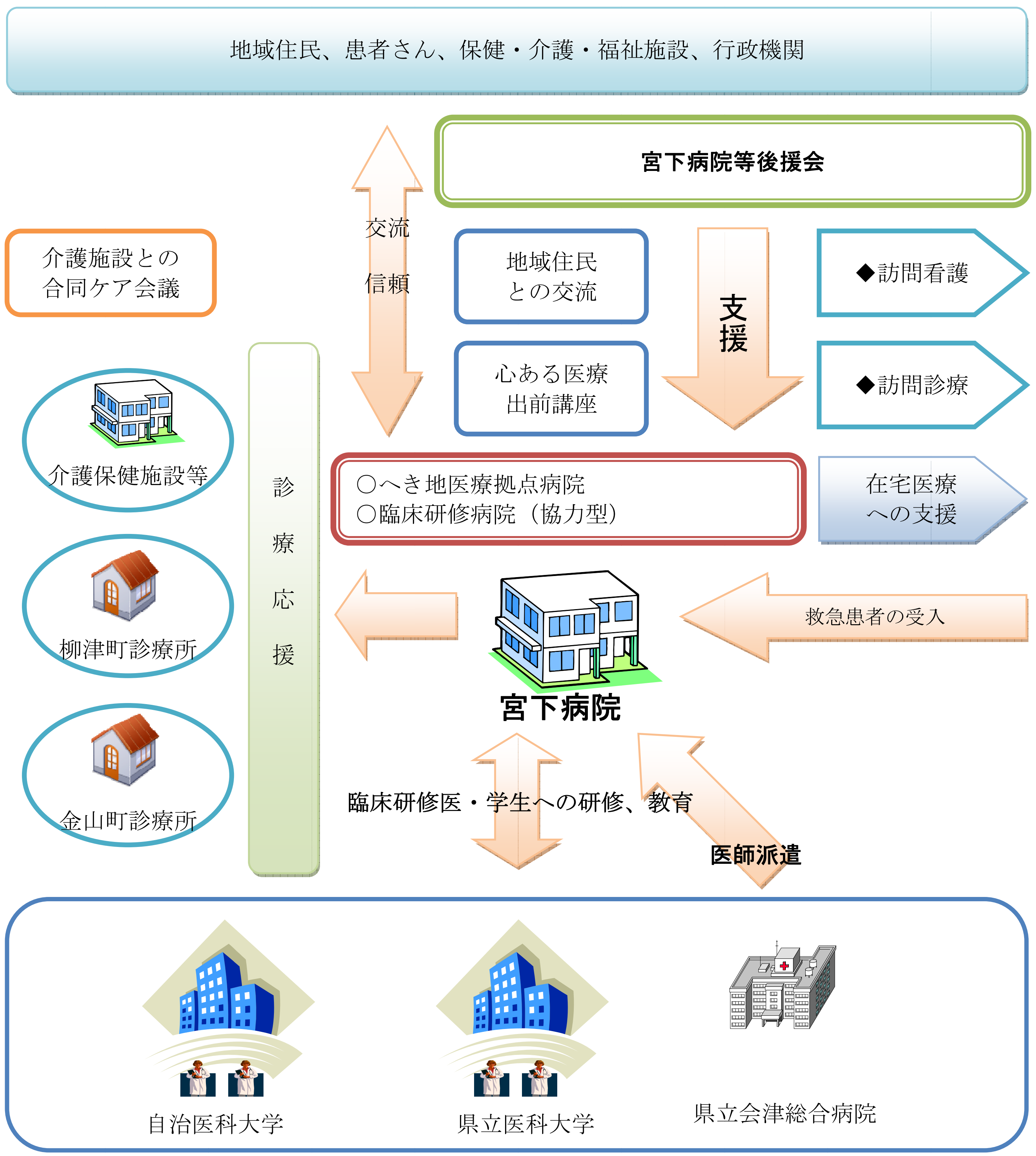
特別養護老人ホーム桐寿苑の夏祭参加	ボランティアとして看護師が７名参加
健康診断・人間ドック事業の実施	健康診断（２１４名）・人間ドック事業（２３名）
院内健康教室の開催	転倒予防・インフルエンザ予防教室　７回／年（６６名） 高血圧予防教室　６回／年（６９名）
心ある医療「出前講座」の開催	年２４回（６６７名参加）
医療・保健・福祉関係機関連絡会	年２回
介護施設との合同ケア会議	毎月

規模

〇診療圏の人口動向や今後の患者数見込み等を踏まえ、平成 21 年度に病床数を削減（55 床→32 床）する。（実施済）

平成２１年４月１日付けで５５床から３２床に病床変更を行った。

宮下病院の医療機能



地域医療再生計画の活用

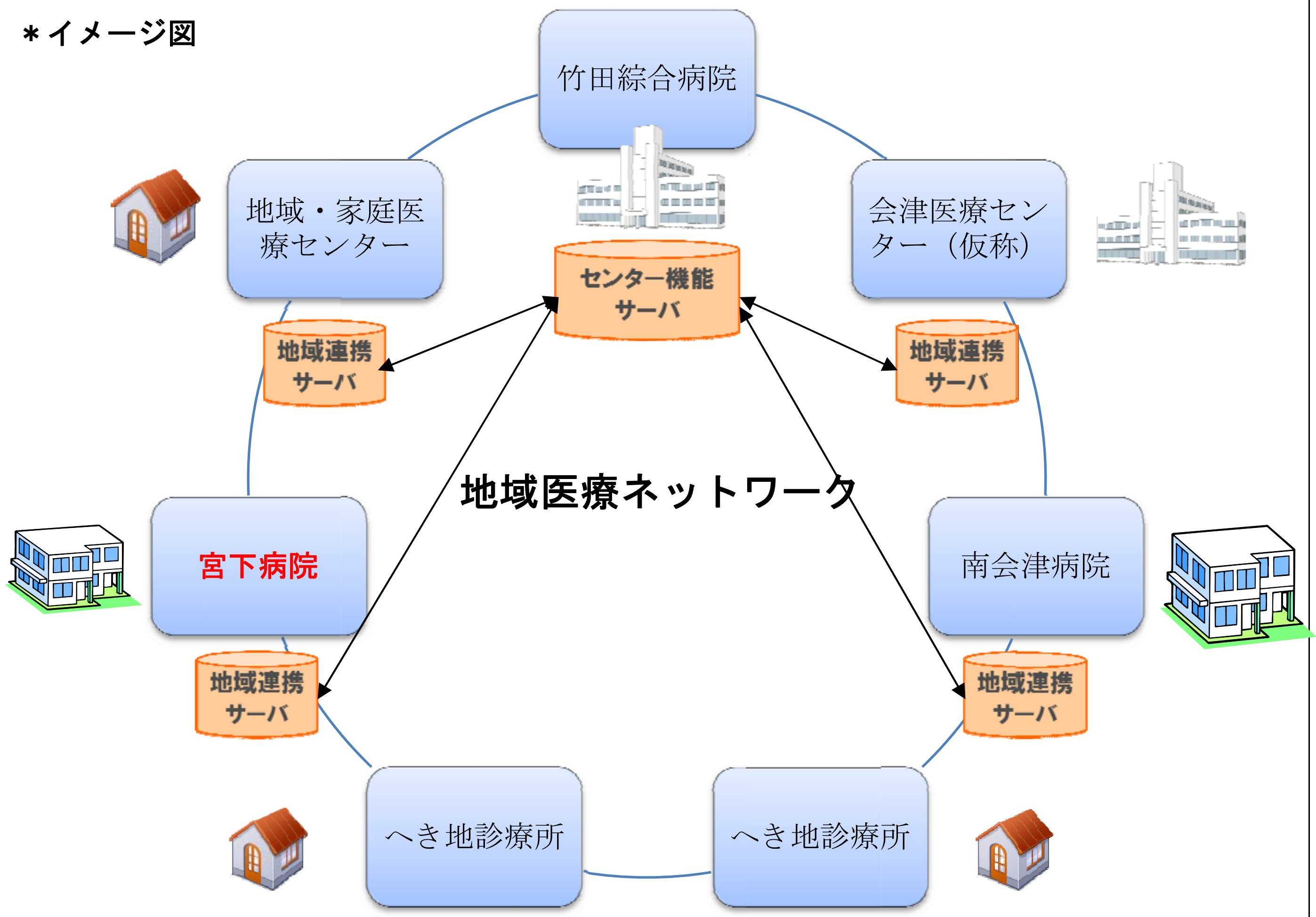
○平成２１年度に策定された「福島県地域医療再生計画」（会津・南会津医療圏）に掲げる下記の事業を活用しながら、宮下病院の機能向上を図っていく。

◆地域医療連携ネットワークシステム導入事業（Ｈ２２～Ｈ２５）

地域医療支援病院であり地域周産期母子医療センターを有する竹田綜合病院と県立会津総合病院や只見町朝日診療所を始めとするへき地診療所をネットワークシステムで結び、患者さんの利便性向上を図りながら、検査や処方、画像データの診療情報の共有化を行い、医療機関どうしの地域連携を促進して、急性期から在宅まで一貫した質の高い診療を行う。

なお、電子カルテシステムが未整備の病院・へき地診療所については、電子カルテシステムの導入を併せて行う。

＊イメージ図



4　南会津病院

（医師数：１２人　病床数１００床）

<table>
<tr><th></th><th colspan="2">改革プランの内容</th><th colspan="3">平成２１年度取組状況及び自己評価</th></tr>
<tr><td rowspan="2">役割</td><td>果たすべき役割</td><td>○へき地における医療提供</td><td rowspan="2">取組状況自己評価</td><td rowspan="2">【３】</td><td rowspan="2">取り組んでいる</td></tr>
<tr><td>経営形態</td><td>○県立病院として経営</td></tr>
<tr><td rowspan="7">医療機能</td><td>①急性期医療の実施</td><td>○南会津地域保健医療圏における唯一の病院として、入院・専門外来に係る医療機能を確保し、会津総合病院や開院後の会津医療センター（仮称）の支援を受けながら、急性期医療を実施する。</td><td colspan="3">◆　新たな診療科の開設
<table><tr><th>診療科</th><th>診療日</th><th>体制</th></tr><tr><td>眼科</td><td>○３日／週</td><td>常勤</td></tr><tr><td>神経精神科</td><td>○１日／月</td><td>非常勤（会津総合病院）</td></tr><tr><td>産婦人科</td><td>○毎週水・木曜日</td><td>非常勤（小野木クリニック・会津中央病院）</td></tr><tr><td>小児科</td><td>○４日／週</td><td>非常勤（県立医大・竹田綜合病院）</td></tr></table>＊地元から要望の強い診療科については、非常勤体制ではあるが開設を行った。</td></tr>
<tr><td>②へき地における医療の確保</td><td>○へき地医療拠点病院として、公的診療所への派遣機能の維持など、へき地医療を提供する。</td><td colspan="3">◆　へき地医療拠点病院として、国保診療所等への診療応援
<table><tr><td rowspan="2">只見町国民健康保険朝日診療所</td><td>整形外科応援　２回／月</td><td>２４回／年</td></tr><tr><td>当直応援</td><td>７回／年</td></tr></table>◆　坂下厚生病院への眼科の診療応援を行った。</td></tr>
<tr><td>③救急医療への対応</td><td>○県医療計画において第二次救急医療機関に位置付けられており、引き続き救急医療を実施する</td><td colspan="3">◆　時間外患者３，８４１人、救急車６９１台を受け入れ、診療圏唯一の病院として役割を果たした。
◆　新型インフルエンザの流行時期に対しては、日直医を１名増やすなどして対応したほか、南会津郡医師会と診療委託契約を締結し、人的応援を得るための体制整備を図った。</td></tr>
<tr><td>④災害時医療への対応</td><td>○大規模災害時に多発する重篤救急患者への救命医療に対応するため、地域災害医療センターとして、引き続き災害時医療を実施する。</td><td colspan="3">◆　大規模な災害は発生しなかったが、新たに院内の災害対策委員会に作業部会を設け、９月１４日と１１月２７日に訓練を実施したほか、休日の非常時通報訓練を実施した。</td></tr>
<tr><td>⑤総合的な医療提供体制の確立</td><td>○広大な面積を有する診療圏において、患者の利便性を考慮する必要があることから、地域の中核病院として、二次医療を中心に、診断・治療からリハビリテーションに至る総合的な医療提供体制の確立を目指す。</td><td colspan="3">◆　透析設備については、１２台から１９台とした。（平成２２年４月～）
◆　地域リハビリテーション広域支援センターとして、地域リハビリの向上に努めた。
◆　今後は、療養病床の導入可能性について研究するとともに、産婦人科、小児科の常勤医の配置に努める。</td></tr>
<tr><td>⑥臨床研修病院としての研修・教育機能の展開</td><td>○県立医科大学や自治医科大学等と連携しながら、臨床研修病院（協力型）として臨床研修医や学生への研修、教育を行う。</td><td colspan="3">◆　臨床研修医や学生への研修、教育
<table><tr><th>項目</th><th>内容</th><th>参加人数</th></tr><tr><td>臨床研修医の受け入れ</td><td>地域保健･医療の科目での研修（平成２２年３月）</td><td>１名</td></tr><tr><td>ホームステイ型研修</td><td>県立医大</td><td>３名</td></tr><tr><td>院外ＢＳＬ研修</td><td>自治医科大学</td><td>１名</td></tr></table>◆　臨床研修病院（協力型）として、臨床研修医や学生への研修、教育を積極的に行っていく。
＊ＢＳＬ（bed side learning）＝実地臨床の現場での実習</td></tr>
<tr><td>⑦地域住民の健康増進への支援</td><td>○地域の医療機関や介護施設等とも連携しながら、健康診断、人間ドック等による疾病の予防、早期発見・治療等を通じ、地域住民の健康増進への支援を行う。</td><td colspan="3">◆　人間ドック１０１人を受け入れ、前年の３８人から約２.５倍となった。さらに、精密検査に予約制を導入し、人間ドック後のフォローも行った。
◆　今後は、人間ドックの女性受入れや精密検査体制の更なる充実に努めていく。</td></tr>
<tr><td>規模</td><td colspan="2">○診療圏の人口動向や今後の患者数見込みなどを踏まえ、平成 21 年度に３病棟から２病棟へ病棟再編し、病床数を削減（150 床→100 床）する。（実施済）</td><td colspan="3">◆平成２１年３月末日に、１５０床から１００床に病床変更を行った。</td></tr>
</table>

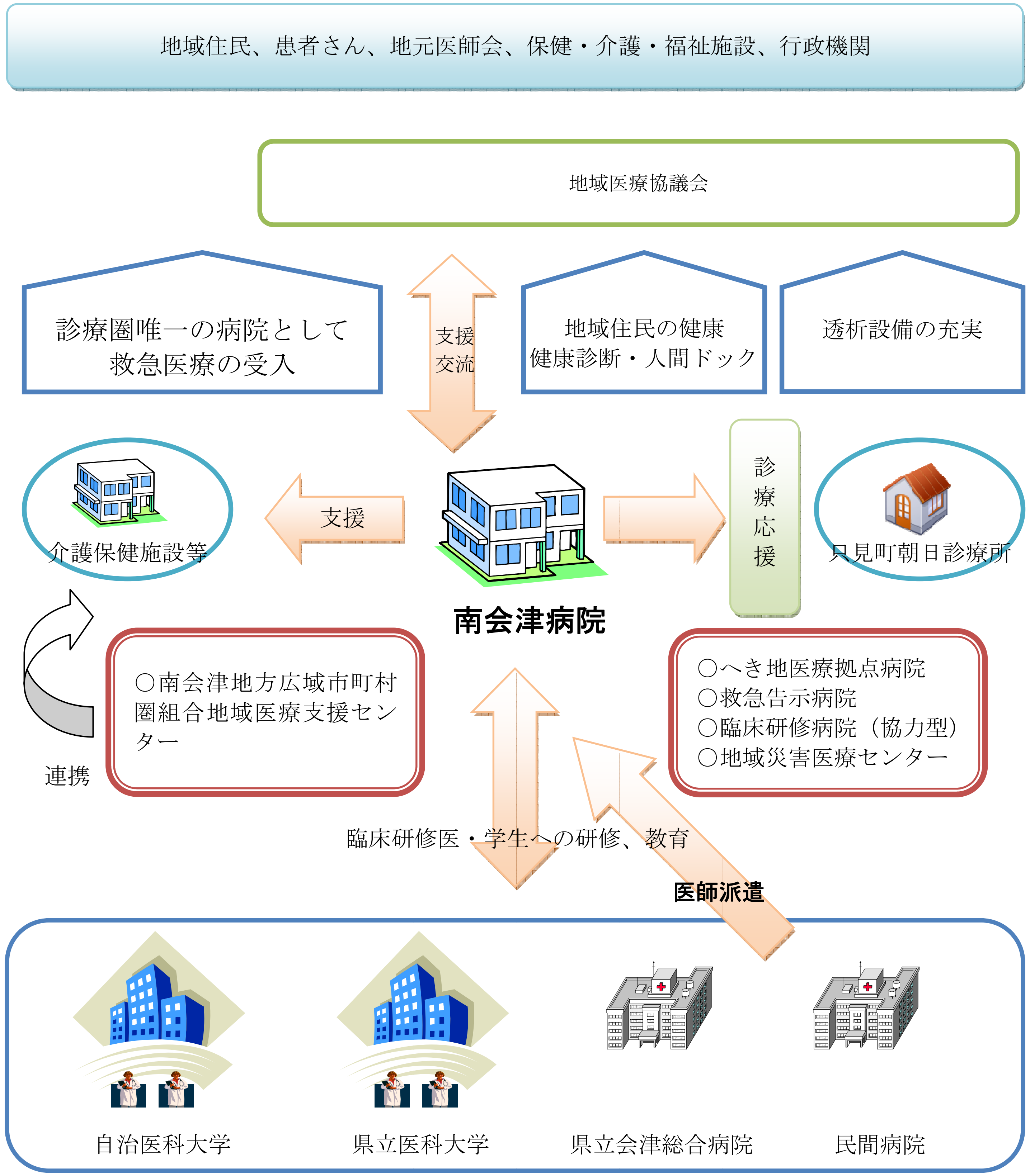
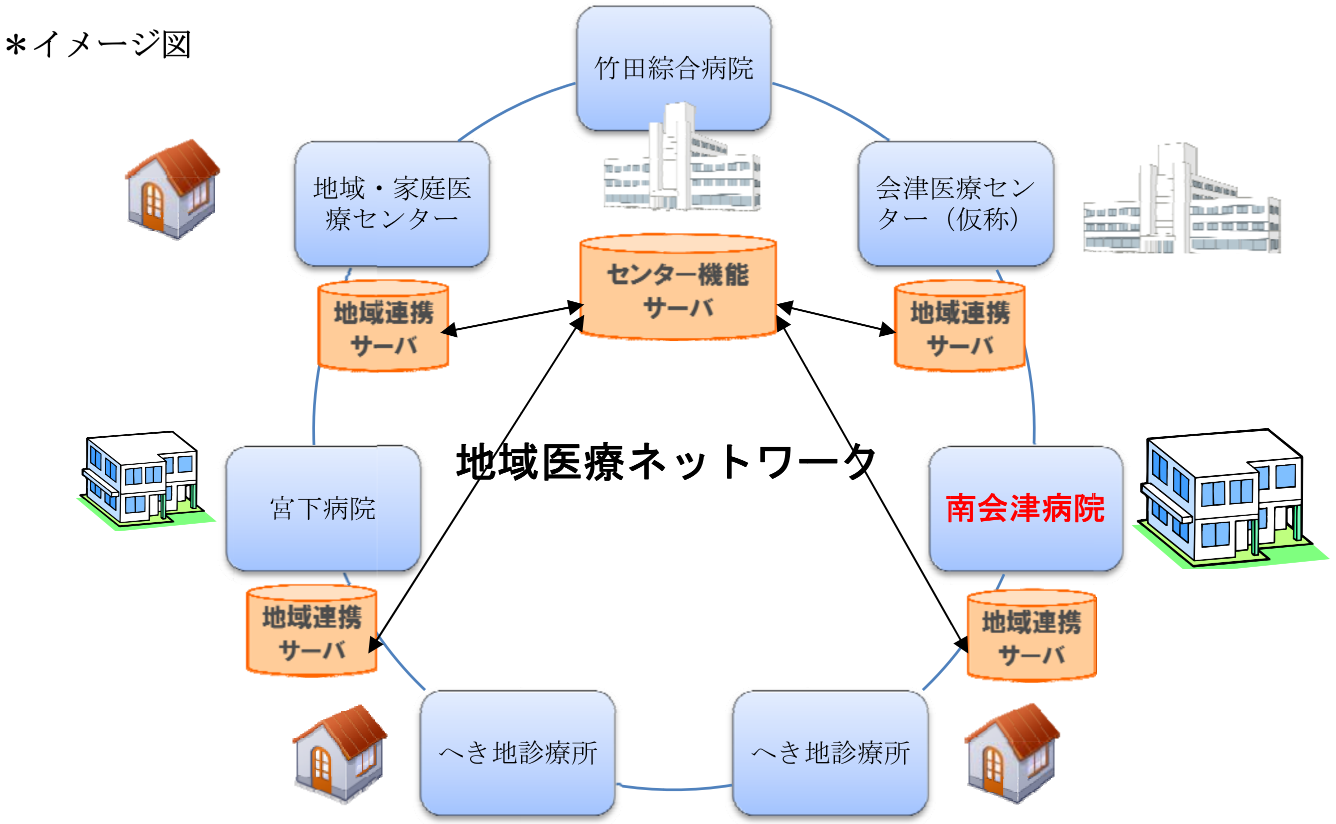
南会津病院の医療機能	地域医療再生計画の活用
	○平成２１年度に策定された「福島県地域医療再生計画」（会津・南会津医療圏）に掲げる下記の事業を活用しながら、南会津病院の機能向上を図っていく。 **◆地域医療連携ネットワークシステム導入事業（Ｈ２２～Ｈ２５）** 地域医療支援病院であり地域周産期母子医療センターを有する竹田綜合病院と県立会津総合病院や只見町朝日診療所を始めとするへき地診療所をネットワークシステムで結び、患者さんの利便性向上を図りながら、検査や処方、画像データの診療情報の共有化を行い、医療機関どうしの地域連携を促進して、急性期から在宅まで一貫した質の高い診療を行う。 なお、電子カルテシステムが未整備の病院・へき地診療所については、電子カルテシステムの導入を併せて行う。 ＊イメージ図  **◆南会津病院機能向上事業（Ｈ２２～Ｈ２５）** 南会津医療圏唯一の病院である県立南会津病院の機能向上を図りながら、会津医療圏の民間病院との連携と役割分担を進めるため、特に予防医療及び回復期の患者の受入に必要な医療機器の整備等を行います。

Figure text for image 1:

Figure text for image 2:

5　大野病院

（医師数：１１人　病床数１５０床）

改革プランの内容

役割	果たすべき役割		○医療拠点としての中核的機能・二次救急医療への対応
	経営形態		○福島県厚生農業協同組合連合会が運営する双葉厚生病院と統合する方向で検討
医療機能	統合により目指すもの	①診療機能の強化と医療サービスの向上	○病院の機能強化や診療体制の充実等により、常勤医師のいる診療科の増加、複数医師の診療体制による診療内容の充実、併科受診の容易性の向上など医療サービスの向上を図る。
		②救急医療など政策医療の充実	○病院の機能強化や診療体制の充実等により、救急患者の受入幅を拡大し、双葉郡内の搬送率を高めるなど、双葉地域の救急医療の向上を図る。
		③医師の勤務環境の向上等による医師の確保	○医師の適正配置等により、医師の勤務環境を向上させ、新たな医師の確保を図る。
	病院機能の在り方	○統合に向けた詳細計画の策定に当たっては、県、福島県厚生農業協同組合連合会、大野病院及び双葉厚生病院の院長、地元町村会、地元医師会等から構成される（仮称）計画策定委員会を設置して、検討を行う。	

大野病院の経営改善

○診療圏の人口動向や今後の患者数見込みなどを踏まえ、平成２２年度に３病棟から２病棟へ病棟再編を検討する。

平成２１年度取組状況及び自己評価

取組状況自己評価	【４】	積極的に行われている

１　双葉地域医療の充実強化に向けた方向性

◆　双葉地域は、中小規模の病院が多いことなどを背景に医師不足が深刻化し、救急搬送の多くを隣接する相馬地域やいわき地域に依存するなど、救急医療が逼迫している状況にある。

◆　このため、双葉地域医療の安定的な確保を図るため、関係機関等の代表者で構成される「双葉地域医療の充実強化に向けた推進会議」等の意見を踏まえながら、統合病院の医療機能等について検討し、「県立大野病院と双葉厚生病院の統合に係る基本計画」を策定した。

日時	内容
【第１回推進会議】２１年６月１０日	○これまでの経過、今後のスケジュール、意見交換
【第２回推進会議】２１年７月２８日	○大野病院と双葉厚生病院の統合のあるべき姿について
【第３回推進会議】２１年９月２４日	○統合病院の充実強化の具体化について
【第４回推進会議】２１年１２月１日	○双葉地域医療の充実強化に向けた医療機能の具体化
【第５回推進会議】２２年　２月８日	○大野病院と双葉厚生病院の統合に係る基本計画素案

２　双葉地域医療の充実強化に向けた実行方策

◆　県立大野病院と双葉厚生病院を統合し、双葉地域の中核病院としての整備を図り、**『地域内で完結できるような救急医療』**の体制を構築する。

◆　統合の時期は、平成２３年４月とし、経営主体はＪＡ福島厚生連とする。

【統合時の医療提供体制】

主要機能	大熊町施設（救急機能強化）	双葉町施設（外来機能強化）
標榜診療科	（入院・外来） 内科、消化器内科、呼吸器科、外科、整形外科、眼科 （外来） 小児科、麻酔科、泌尿器科、放射線科	（入院・外来） 内科、産婦人科、精神科 （外来） 外科、眼科、整形外科、小児科、心臓血管外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、形成外科、地域・家庭医療科、ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科
病床数	一般１５０床（うち感染症４床）	一般１２０床・精神１００床

○平成２２年度の取組みについて

◆　県とＪＡ厚生連で基本協定書の締結を行うとともに、平成２３年４月１日の統合へ向けて医療体制の整備を図っていく。

◆　また、継続的な地域医療の確保を図るためには、地域医療を地域全体で支える仕組みが不可欠であり、地域医療再生計画等を活用しながら具体的な取組みを進めていく。

県立大野病院と双葉厚生病院の統合に係る基本計画の概要	双葉地域医療の充実強化に向けて

県立大野病院と双葉厚生病院の統合に係る基本計画の概要

1　基本的な考え方

○県立大野病院と双葉厚生病院を統合し、双葉地域の中核病院としての整備を図る。

2　最重点目標

○地域内で完結できるような救急医療

＊救急搬送（2,４００件（Ｈ２０））における管内搬送率を段階的に向上させる。

	平成２０年	平成２３年	平成２５年
管内搬送率 （管内搬送件数）	５６.７％ （1,３６１件）	７０％ （1,６８０件程度）	８０％ （1,９２０件程度）

3　重点目標

○子どもから高齢者までが安心して受けられる医療（患者の視点）
○急性期から慢性期、在宅等まで切れ目のない医療等の提供（疾病の視点）
○市街地から中山間地域までをカバーする医療等の提供（地域の視点）

4　県立大野病院と双葉厚生病院の統合
（1）統合時期：平成２３年４月
（2）経営主体：ＪＡ福島厚生連

5　統合病院の機能発揮に向けた対応
（1）地域医療再生計画の具体化
・救急専用病床の新設、多目的医療用ヘリの導入　など
（2）統合における諸課題解決に向けた対応
・県は、今後とも双葉地域医療の充実強化に向けて努力する。
・今後、ＪＡ福島厚生連との間で、移行期間の設定や具体の人的・財政的支援措置について協議し、基本協定を締結する。
（3）医師にとって魅力ある病院づくり・地域づくり
・医師が従事したい、若い研修医が勉強したいと思うような環境整備を図る。
（4）時代の変化や地域住民のニーズへの対応
・入院機能の集約化や研修機能病院の整備など、医師にとって魅力的な病院づくりを目指す。

6　地域全体で医療を支える取組の推進

双葉郡内の病院や診療所、介護・福祉・保健施設等との連携を強化するとともに、地域全体で地域医療を支えていく機能を醸成し、取り組んでいく仕組みを検討する。

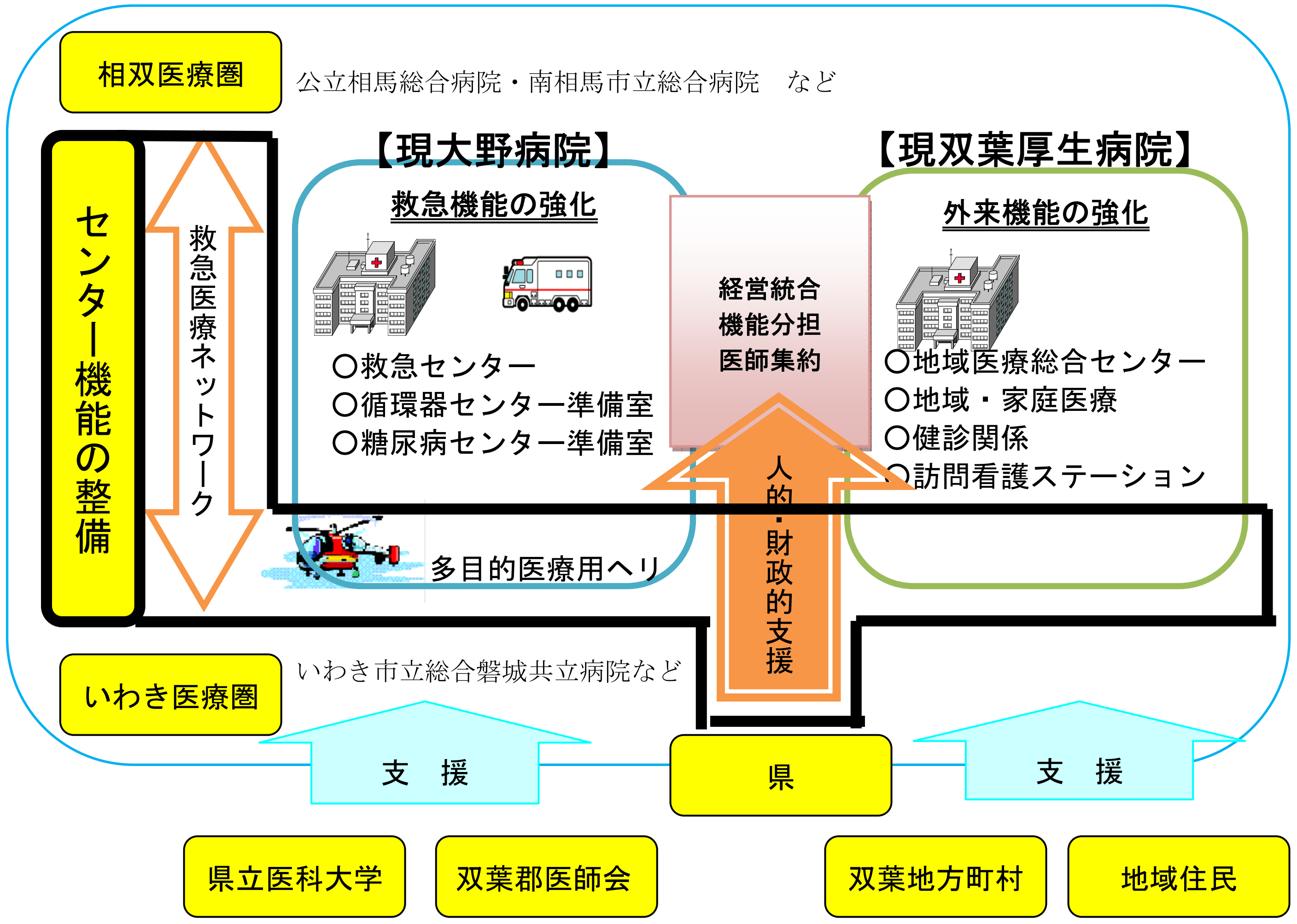
双葉地域医療の充実強化に向けて

1　「推進会議」の継続的開催
→県が、「双葉地域医療の充実強化に向けた推進会議」を継続して開催し、将来に向けて双葉地域医療に責任を果たしていく。

2　「推進会議」への地域住民の参画
→「双葉地域医療の充実強化に向けた推進会議」の委員として地域住民代表に参画していただき、住民の声を医療政策に反映させる。

3　センター機能の整備
→県として、双葉地域医療の充実強化に向けたコーディネート機能を発揮。
①　統合病院の円滑な移行・地域医療再生計画の具体化
②　救急医療ネットワークなど医療関係機関の連携体制
③　地域全体で医療を支えていく機運づくり　　など

4　ＪＡ福島厚生連への人的・財政的な支援
①　人的支援　：センター機能の整備（上記）、医師確保への連携した取組み
②　財政的支援：政策医療をはじめ、地域医療機能の維持向上への支援
③　施設　　　：現大野病院施設の無償貸与　　など



基本方針１：良質な医療サービスの提供（患者さんの視点）

改革プラン方針		平成２１年度取組状況及び自己評価			
地域住民の医療ニーズに的確に対応しながら、『質の高い医療サービスの提供』と『安らぎのある落ち着いた医療環境を提供できる患者サービスの向上』を通じ、患者さんの満足度の向上を図る。					
目標１	医療の質の向上	目標値達成状況評価		取組状況評価	
		【－】	目標値は設定していないため	【４】	積極的に取り組んでいる

〔政策医療や予防医療の充実〕

民間医療機関等では対応が困難なへき地医療や精神・感染症医療等政策医療を安定して提供するとともに、保健・医療・福祉の連携により、県医療計画に定める４疾病５事業※や生活習慣病対策などの予防医療等の充実を図る。

※　４疾病５事業
- ４疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病）
- ５事業（救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児医療）

○平成２１年度の取組状況

１　政策医療や予防医療の実施について

病院名	取組状況
宮下病院 南会津病院	◆　「へき地医療拠点病院」として、医師確保を図りながら、地域住民が安全・安心に暮らせるように医療の提供を行うとともに、国保診療所等への医師派遣を行って、相互連携を深めながら地域住民の健康増進を図った。
矢吹病院	◆　心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関の検討を行うため、県外調査を実施した。 調査対象病院：国立病院機構小諸高原病院（平成２１年１１月）
会津総合病院	◆　会津地域での結核・感染症医療を担うとともに、「へき地医療拠点センター病院」として、喜多方・宮下・南会津病院に診療応援を行った。
喜多方病院	◆　平成２１年４月から血液専門外来を標榜するなど、会津地域を中心に血液疾患患者の受入を行った。

	宮下病院	南会津病院
Ｈ２１年度医師派遣回数	２８５回	３１回

応援先病院名	診療科	応援日
喜多方病院	整形外科	○隔週月曜日
宮下病院	整形外科	○第２・第４水曜日
	神経精神科	○隔週水曜日
	耳鼻咽喉科	○第２・第４金曜日
	皮膚科	○隔週木曜日
南会津病院	神経精神科	○月１回
	神経内科	○毎週金曜日

大野病院	◆　常勤医師が減少した中でも、できる限り救急患者の受入を行い、地域の二次救急医療機関としての対応を図った。 【救急車搬送受入状況】

項目	Ｈ２１	Ｈ２０
搬送総数	２,３０３人	２,４００人
管内搬送	１,３９６人（６０.６％）	１,３６１人（５６.７％）
うち大野病院受入	５２６人（３７.７％）	４５４人（３３.６％）
管外搬送	９０７人（３９.４％）	１,０３９人（４３.３％）

＊（双葉地方広域市町村圏組合消防本部調べ）

各病院	◆　新型インフルエンザの時期については、発熱外来の設置など対応を図った。 ◆　地域住民の健康増進を図る目的から、限られた医療資源の中で、各市町村の特定健診やがん検診、生活習慣病健診、人間ドックなどを積極的に実施した。 【健康診断実施人数】（７,８３９人）

矢吹	喜多方	会津総合	宮下	南会津	大野
283 人	3,179 人	2,037 人	237 人	788 人	1,315 人

［病院活性化による医療の質的向上］

　全スタッフが一丸となって「ＮＳＴ（栄養サポートチーム）」に代表される医師とコメディカルスタッフとの連携したチーム医療に取り組むとともに、病院内部の様々な委員会の活性化を図ることにより、医療の質を確保する。

［病院機能評価の取得］

　病院機能評価の取得を通じて、病院機能の向上を図るとともに、患者さんの権利や安全・安心を確保するための体制整備を行う。

［説明責任の発揮］

　患者さんとの信頼関係を構築するため、治療内容等について十分に説明を行い、患者さんの意見を尊重しながら同意を得た上で治療を実施するインフォームド・コンセントの充実を図る。

２　医療の質の向上について

◆　医療環境が変化する中で患者様のニーズを的確に踏まえ、質の高い医療を効率的に提供していくためには、組織体としての病院機能の一層の充実・向上が必要なため、会津総合病院や大野病院ではＮＳＴを実施し、医師とコメディカルが連携したチーム医療を推進した。

３　病院機能評価取得について

◆　県立６病院のうち３病院が第三者機関である財団法人日本医療機能評価機構からＶer４又は５の認定を受けており、継続して質の高い医療を効率的に提供していくため、Ｖer６への認定更新を目指して、訪問審査の受審、自己評価等の点検や課題整理を行った。

病院名	Ｖer４又は５認定期間	Ｖer６認定へ向けた取組み
矢吹病院	１７年３月～２２年３月	平成２２年２月に訪問審査を受審
南会津病院	１８年３月～２３年３月	平成２２年度認定に向けて自己評価による点検を実施
宮下病院	１９年２月～２４年２月	平成２３年度認定に向けて院内で検討を開始

４　説明責任の発揮について

◆　良質な医療の提供を図るため、委員会の定期的な開催やクリニカルパスや服薬指導等を通じて、治療・検査内容等の丁寧な説明を行うように心がけるなど、インフォームド・コンセントの徹底により患者さんが現在受けている診療内容を十分に理解した上で治療を受けられるように取り組んだ。

目標２	患者サービスの向上	目標値達成状況		取組状況評価	
		【５】	目標値を上回った	【３】	取り組んでいる

［実践的な接遇能力向上］
患者さんの立場を考えて行動することができる心ある職員となることを目指し、患者さんを尊重した言葉遣いや応待を実践するロールプレイなどの実践的な学習方法などを取り入れた接遇研修会を定期的に開催し、職員の接遇能力の向上を図る。

［病院全体の業務改善］
患者さんにより良質なサービスを提供するため、待ち時間の短縮を始めとする業務改善に職員が一丸となって取り組む。

〇平成２１年度の取組状況

１　接遇能力向上について

- ◆　患者サービスの一層の充実を図るため、各病院で接遇向上委員会等を定期的に開催し、外部講師を招いたり、ロールプレイングを取り入れた研究会を積極的に行うなど、病院全体で接遇向上に取り組んだ。
- ◆　外来患者と入院患者に対する年１回の患者アンケートの実施により、患者のニーズや意見を把握し、そのニーズに的確に対応するため、院内アメニティ、案内・掲示板などの見直しを行い、患者サービスの向上を図った。
- ◆　地域住民の方に病院ボランティアとして参加していただき、来院者の案内等に協力していただいた。（会津総合病院）

項目	矢吹	喜多方	会津総合	宮下	南会津	大野
接遇向上委員会	毎月	毎月	毎月	毎月	１回	４回
接遇研修会	２回／年	１回／年	３回／年	３回／年	２回／年	５回／年
患者満足度指数（*）	７２％	６９％	６６％	８６％	９１％	８２％

（*）患者アンケート調査結果

- ◆　矢吹病院と宮下病院では、無料送迎バスを運行し外来患者の通院の利便性の向上を図った。

【無料送迎バス利用者数】

	Ｈ２１	Ｈ２０	運行概要
矢吹病院	4,198 人	4,619 人	矢吹病院～矢吹駅間　　　（病院発５便・駅発２便）
宮下病院	4,239 人	3,803 人	宮下病院～三島・金山町間（病院発３便・三島・金山発３便）

２　業務改善について

- ◆　予約診察の実施や会計時間の短縮を図るとともに、待ち時間の苦痛を少しでも和らげるため、四季折々の季節の風物詩やきれいな花などを通して、より心豊かに和やかに過ごしていただくための癒しの空間づくりを行った。

〇共通目標指標

患者満足度

＊外来患者と入院患者に対する年１回の患者アンケート調査結果

２１年度目標値	２１年度実績値	２２年度目標値	２３年度目標値
７６％以上	７７.４％	８０％以上	８５％以上

□目標１：医療の質の向上（各病院の取組状況）

<table>
<tr><th>番号</th><th>取組機関</th><th>アクションプラン</th><th>取組内容</th><th>平成２１年度取組状況</th><th>取組評価</th></tr>
<tr><td>1</td><td>共通取組</td><td>◇病院機能評価の認証更新</td><td>医療の質の向上と信頼の確立を目的として、財団法人日本医療機能評価機構が中立的な立場で医療機関の機能を評価・審査する病院機能評価の認定更新を図る。</td><td>
□病院機能評価について
<table>
<tr><th>病院名</th><th>実施状況</th></tr>
<tr><td>矢吹病院</td><td>○Ver６.０認定更新に向けて、自己評価による自己点検を行い、２２年２月１７日～１８日に訪問審査を受審</td></tr>
<tr><td>宮下病院</td><td>○医療の質の向上を図り、地域から信頼される病院であるため、財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価の Ver６.０の認定更新を目指す。
（Ver５.０の認定期間Ｈ２４.２.１７まで）</td></tr>
<tr><td>南会津病院</td><td>○Ver６.０の認定更新に向けて、自己評価による点検を実施した。
（Ver５.０の認定期間Ｈ２３.３.１９まで）
<table>
<tr><td>平成２０年１２月～３月</td><td>Ver.5 の自己評価回答書により点検を実施</td></tr>
<tr><td>平成２１年９月３０日</td><td>Ver.6 により小項目ごとに担当者（対応者・確認者）を決定し運営委員会で周知</td></tr>
</table>
○現状把握と課題の抽出
<table>
<tr><td>平成２１年１０月３０日</td><td>対応者による自己評価回答書（素案）の作成</td></tr>
<tr><td>平成２１年１１月３０日</td><td>確認者との調整及び回答書の事務部への提出</td></tr>
</table>
○課題に対する対応策の検討
<table>
<tr><td>２２年１月８日</td><td>改善手法の検討と回答書の事務部への提出</td></tr>
<tr><td>平成２２年
１月１８日～　２６日</td><td>院長ヒヤリング対象項目の選定</td></tr>
<tr><td>平成２２年
２月２日～８日</td><td>院長ヒヤリング（30 小項目）</td></tr>
<tr><td>平成２２年２月～随時</td><td>改善手法の４月以降の本格実施に向けた試行</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>
</td><td>5</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td>◇インフォームド･コンセントの充実</td><td>良質な医療の提供を図るため、患者さんに対する的確な診断と治療はもとより、診断内容、治療計画さらには副作用やリスク等を含めて十分説明し、患者さんが理解、納得した上で治療行為を選択していくインフォームド・コンセントの充実を図る。</td><td>
□各病院の状況
<table>
<tr><th>病院名</th><th>実施状況</th></tr>
<tr><td>矢吹病院</td><td>○インフォームド・コンセント委員会を定期的に開催し、入院時の情報収集の際、患者・家族の負担を軽減するための工夫など改善を行った。今後も継続的に委員会を開催して、情報提供による安心・安全な医療の提供を行っていく。</td></tr>
<tr><td>喜多方病院</td><td>○患者さんに対しては、検査及び治療内容を十分に説明を行い納得していただけるように院内全体で取り組んだ。</td></tr>
<tr><td>会津総合病院</td><td>○カルテを電子化したことにより、診療情報の共有化が可能となり、インフォームドコンセント、チーム医療の充実など医療の質の向上に努めた。</td></tr>
<tr><td>宮下病院</td><td>○統一した看護計画の策定や治療内容等に関する説明様式の見直しを行った。
・せん妄ケア看護計画の策定
・入院時退院支援スクリーニングシートの策定
・輸血同意書及び血漿分画製剤同意書の改正</td></tr>
<tr><td>南会津病院</td><td>○患者さんに対しては、治療計画等を含めて十分に説明を行うように努めた。</td></tr>
<tr><td>大野病院</td><td>○クリニカルパスの実施や薬剤師による服薬指導等を通して、患者さんが理解、納得するよう充実に努めた。</td></tr>
</table>
</td><td>4</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○１２月に実施した患者満足度調査においては、「満足、やや満足」と回答した割合が前年度の７３．６％に対し８１．５％と７．２ポイント高い評価を得た。
○クリニカルパスは、白内障、鼠径ヘルニア、ポリペクトミー、整形間接鏡、レミケードについて実施した。</td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td>矢吹病院</td><td>◇訪問看護の充実検討</td><td>今後とも新規退院患者などへのきめ細かな訪問看護を実施する。</td><td>○訪問看護は、１日平均７．２人と対象患者数が増加しており、３名（２１年度より専従職員を１名増員）のスタッフが他部門からの協力を得ながら実施している。
【訪問看護実施件数】訪問看護登録者数６３名（Ｈ２１年４月現在）<table><tr><td>平成２１年度</td><td>平成２０年度</td><td>平成１９年度</td></tr><tr><td>１,８２０件</td><td>１,７７６件</td><td>１,４０５件</td></tr></table></td><td>5</td></tr>
<tr><td>4</td><td></td><td>◇デイケア（社会復帰訓練）の充実検討</td><td>料理や手芸、スポーツ、季節ごとの行事などのプログラムなどを行うなど、デイケアの充実強化を図る。</td><td>○デイケアについては、ショートケアは増加しているものの、デイケア全体では患者数が減少している。外来部門である訪問看護・デイケアは、「入院医療中心から地域生活中心へ」という基本的な考え方に沿った患者の地域生活移行促進の観点から、他部門の協力を得ながら充実強化に努めていく。
【デイケア実施状況】<table><tr><td>平成２１年度</td><td>平成２０年度</td><td>平成１９年度</td></tr><tr><td>３,７９０件</td><td>３,９５４件</td><td>３,８４０件</td></tr></table></td><td>4</td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td>◇心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関としての指定検討</td><td>触法精神障害者の専門的入院治療と社会復帰を支援する医療体制の充実に向けて検討する。</td><td>○医療観察法に基づく「指定入院医療機関」に向けては、看護師やコメディカルによる積極的な情報収集や、研修会参加などの準備を進めた。
○平成２１年１１月５日～６日に、国立病院機構小諸高原病院を訪問し、指定入院医療機関の整備にあたっての調査を行った。
○小諸高原病院は、矢吹病院が医療観察法で想定しているハーフサイズの病床で運営を行っており、病棟施設の構造や規模、セキュリティ対策、職員の勤務体制や宿日直体制、地域に対する説明など、今後の整備に向けて様々な観点から情報収集を行った。</td><td>3</td></tr>
<tr><td>6</td><td>喜多方病院</td><td>◇受診枠の拡大による健康診断及び人間ドック充実</td><td>地域の要望に対応するため、１日当たりの受診枠を拡大して、健康診断・人間ドック事業を充実する。</td><td>○１日の受入枠の拡大、年間の受入時期の見直し及び受入体制の充実を行った。
【実施状況】<table><tr><td>項目</td><td>平成２１年度</td><td>平成２０年度</td></tr><tr><td>健康診断件数</td><td>３,１７９人</td><td>２,８５４人</td></tr><tr><td>医療相談収益</td><td>２５,２６９千円</td><td>２２,７８５千円</td></tr></table></td><td>5</td></tr>
<tr><td>7</td><td>会津総合病院</td><td>◇電子カルテシステム導入による医療の質の向上</td><td>患者さんに対する画面上での説明や待ち時間の短縮による患者サービスの向上のほか、データベースに蓄積された診療情報を症例研究に活用することで、質の高い医療を提供する。</td><td>○カルテを電子化したことにより、診療情報の共有化が可能となり、インフォームドコンセント、チーム医療の充実など医療の質の向上に努めた。
○オーダリングシステムとの連携により、検査・処置、投薬その他における患者誤認の防止や会計処理の迅速化にもつながった。</td><td>5</td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td>◇チーム医療の推進</td><td>医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師などが一体となり、多職種で各疾患治療に応じた栄養管理を適切に実施するＮＳＴ（栄養サポートチーム）の充実を図るなど、チーム医療の推進を図る。</td><td>○高度な臨床栄養管理を適切に実施するため、栄養サポートチーム（ＮＳＴ）の充実を図りチーム医療の推進を図った。
○平成２１年度課題・目標管理において、循環器内科の医師が中心となりコメディカルと共同して、心臓カテーテル検査に関する診療と看護のレベルアップを目指した取り組みを行った。</td><td>5</td></tr>
<tr><td>9</td><td>宮下病院</td><td>◇診療圏域内唯一の病院として質の高い安定的な医療の提供</td><td>地域の方々が安全に安心して暮らしていけるよう、診療圏域内唯一の病院として、常勤医師の確保・定着に向けた取組みを強化していくとともに、県立医科大学や会津総合病院等との連携を強化しながら、高齢化が急速に進展する地域特性に対応した医療を継続して提供する。</td><td>○常勤医師を５名（内科・外科）確保し、へき地医療拠点病院として、地域の診療所や介護施設への診療応援を継続して実施し、患者情報の共有化を図りながら相互協力・連携を深めた。
○会津総合病院からの非常勤医師による整形外科、神経精神科、耳鼻科、皮膚科の外来開設を実施した。
【診療応援実施状況】<table><tr><td>柳津町国民健康保険診療所</td><td>毎週月曜日に代診医１名派遣</td><td>４６回／年</td></tr><tr><td>金山町国民健康保険診療所</td><td>毎週火曜日から金曜日まで代診医１名派遣</td><td>１９２回／年</td></tr><tr><td>特別養護老人ホーム桐寿苑</td><td>毎週金曜日に管理医として医師１名派遣</td><td>４７回／年</td></tr></table></td><td>4</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>10</td><td rowspan="2"></td><td>◇訪問診療・訪問看護による在宅医療への支援</td><td>地域の保健・医療・福祉関係機関との連携を強化しながら、訪問診療・訪問看護の充実を図り、在宅医療への支援を強化する。</td><td>○へき地医療拠点病院として、訪問診療や訪問看護を通じて、在宅で療養を続ける地域の方々を支援する取組を継続し、県内で最も高齢化率が高い地域特性に対応した医療の提供を実施した。
【実施状況】
<table>
<tr><th>項目</th><th>平成２１年度</th><th>平成２０年度</th></tr>
<tr><td>訪問診療</td><td>７３件（2回／月）
対象者１０名</td><td>１０７件（2回／月）
対象者１３名</td></tr>
<tr><td>訪問看護</td><td>７０件（1回／週）
対象者４名</td><td>６４件（1回／週）
対象者４名</td></tr>
</table></td><td>3</td></tr>
<tr><td>11</td><td>◇健康診断・人間ドック事業の充実</td><td>健康診断を担当する内科医師を配置するとともに、受診項目の充実や料金体系の見直しを行い、健康診断・人間ドック事業の拡充を図る。</td><td>○地域の医療機関や介護施設等とも連携しながら、健康診断、人間ドックによる疾病の予防、早期発見・治療等を通じて、地域住民の健康増進への支援を行った。
【実施状況】
<table>
<tr><th>項目</th><th>平成２１年度</th><th>平成２０年度</th></tr>
<tr><td>健康診断件数</td><td>２３７人</td><td>３０９人</td></tr>
<tr><td>うち人間ドック</td><td>２３人</td><td>１９人</td></tr>
<tr><td>医療相談収益</td><td>4,０８０千円</td><td>4,７８０千円</td></tr>
</table></td><td>3</td></tr>
<tr><td>12</td><td rowspan="2">南会津病院</td><td>◇透析器機の増設による透析機能の強化</td><td>透析患者の利便性向上や透析患者の増に向けて、透析設備の増設を図る。</td><td>○南会津地域の維持透析の充実を図るため、透析室の増床工事を行うとともに透析機器を購入し、3月末までに従来の１２台から7台増設して１９台とした。
【実施状況】
<table>
<tr><th>項目</th><th>平成２１年度</th><th>平成２０年度</th></tr>
<tr><td>実患者数</td><td>３２人</td><td>３１人</td></tr>
<tr><td>外来透析体制</td><td colspan="2">月・水・金（午前・午後）、火・木・土（午前）</td></tr>
</table></td><td>5</td></tr>
<tr><td>13</td><td>◇健康診断・人間ドック事業の充実</td><td>地域の要望に対応するため、平成 20 年度より開始した人間ドックの受診枠を拡大して充実を図る。</td><td>○人間ドック受入枠の拡大（週２日→週３日）や新たな契約により、受診者数が増加した（３８人→１０１人)。
○オプション検査（特に脳ドック、腫瘍マーカー）の受診者数が順調に増加した。
【実施状況】
<table>
<tr><th>項目</th><th>平成２１年度</th><th>平成２０年度</th></tr>
<tr><td>健康診断件数</td><td>７８８人</td><td>６５４人</td></tr>
<tr><td>うち人間ドック</td><td>１０１人</td><td>３８人</td></tr>
<tr><td>医療相談収益</td><td>１２,４３５千円</td><td>9,４６１千円</td></tr>
</table></td><td>5</td></tr>
<tr><td>14</td><td>大野病院</td><td>◇内科医師の確保による健康診断事業の充実</td><td>特定検診・特定保健指導や地域のニーズに対応できる健康診断事業の実施・充実に努める。</td><td>○健康診断については、内科医師の退職に伴い、健康診断の受入れを一時縮小せざるを得なかった。
○外科については、乳がん検診を積極的に受け入れ、前年度対比で２．８％増の７６１件実施した。
【実施状況】
<table>
<tr><th>項目</th><th>平成２１年度</th><th>平成２０年度</th></tr>
<tr><td>健康診断件数</td><td>1,３１５人</td><td>1,３３４人</td></tr>
<tr><td>うち人間ドック</td><td>実施していない</td><td>実施していない</td></tr>
<tr><td>医療相談収益</td><td>9,９０２千円</td><td>１０,５６０千円</td></tr>
</table></td><td>4</td></tr>
</table>

□目標２：患者サービスの向上（各病院の取組状況）

<table>
<tr><th>番号</th><th>取組機関</th><th>アクションプラン</th><th>取組内容</th><th>平成２１年度取組状況</th><th>取組評価</th></tr>
<tr><td>15</td><td>共通取組</td><td>◇患者アンケート調査や接遇向上委員会による接遇の向上</td><td>患者アンケート調査やご意見箱の設置などにより、患者さんのニーズや意見を把握できる体制を整えるとともに、定期的に接遇向上委員会を開催し、接遇技術の向上を図るための研修会やロールプレイ等の学習会を企画するなど、患者さんの立場に立った接遇サービスの向上を図る。</td><td>○各病院の取組状況
<table>
<tr><th>病院名</th><th>取組状況</th></tr>
<tr><td>矢吹病院</td><td>○外来・病棟に設置してある投書箱への意見に対するフィードバックや接遇向上委員会、研修会の実施により接遇の向上に努めた結果、患者満足度は、昨年度を上回った。
（６１％→７２％）
○接遇研修会
<table>
<tr><td>・外部講師を招聘した研修会（クレーム対応の基本的スタンス、入院時説明等のポイントなどをテーマに研修を実施した。）</td></tr>
<tr><td>・クレーム応対に関する接遇研修会（平成２１年１１月２４日）</td></tr>
<tr><td>・入院時説明に関するロールプレーイング（平成２２年２月２４日）</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>喜多方病院</td><td>○接遇向上セミナー
<table>
<tr><td>「接遇は心からのおもてなし」　（平成２１年１０月１５日）</td></tr>
</table>
○サービス向上委員会
「御意見箱」に寄せられた意見等を協議するため、随時開催。</td></tr>
<tr><td>会津総合病院</td><td>○患者満足度調査の結果
入院が６５％、外来が６７％（前年度比で、外来は５％上昇、入院は同じ割合）
【主な取組み】
<table>
<tr><td>アンケートの実施</td><td>テーマ「当院に希望するものは何か」
（平成２１年６月、患者及び家族を対象に実施）</td></tr>
<tr><td>接遇向上委員会</td><td>１１回開催
（接遇向上のための具体的対応策を検討）</td></tr>
<tr><td>院内研修会</td><td>３回実施
（接遇向上のため全職員を対象に実施）</td></tr>
<tr><td>投書箱の設置</td><td>来院者からの苦情や要望等を受け付け、対応を院長名で院内掲示板に掲示。</td></tr>
<tr><td>病院ボランティア</td><td>６名
（外来受付等における来院者の案内等）</td></tr>
</table>
○病院の「基本理念及び行動指針」を院内各所に掲示しているほか、全職員のネームプレート裏側にも明記して、全職員がその実現に努めている。</td></tr>
<tr><td>宮下病院</td><td>○患者満足度調査結果（調査期間：平成２２年２月１日～平成２２年２月１２日）
【調査結果】
<table>
<tr><th>区分</th><th>調査項目</th><th>満足</th><th>やや満足</th><th>普通</th><th>やや不満</th></tr>
<tr><td rowspan="3">入院</td><td>医療サービス</td><td>７３.３％</td><td>２０.０％</td><td>６.７％</td><td>０％</td></tr>
<tr><td>職員の対応</td><td>６８.３％</td><td>１１.７％</td><td>２０.０％</td><td>０％</td></tr>
<tr><td>情報提供</td><td>７１.４％</td><td>１４.３％</td><td>１４.３％</td><td>０％</td></tr>
<tr><td rowspan="3">外来</td><td>医療サービス</td><td>７４.２％</td><td>１０.３％</td><td>１５.５％</td><td>０％</td></tr>
<tr><td>職員の対応</td><td>７８.８％</td><td>１１.３％</td><td>９.６％</td><td>０.２％</td></tr>
<tr><td>情報提供</td><td>７１.１％</td><td>１５.５％</td><td>１３.４％</td><td>０％</td></tr>
</table></td></tr>
</table></td><td>4</td></tr>
</table>

<table>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>
<table>
<tr>
<td></td>
<td>○接遇研修会
<table>
<tr><td>４月３日</td><td>新・転入者オリエンテーション（病院職員としての接遇、職場のエチケット）</td></tr>
<tr><td>７月２４・３０日</td><td>接遇研修Ⅰ（よりよいコミュニケーション、ロールプレイング）</td></tr>
<tr><td>３月１５・２３日</td><td>接遇研修Ⅱ（言葉遣いを見直してみよう）</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
<tr>
<td>南会津病院</td>
<td>○アンケート調査の実施
入院患者回答数２４件（平成２１年１１月３０日～１２月１１日）
外来患者回答数８３件（平成２１年１２月　７日～１１日）
○院長主導による経営改善推進事業
<table>
<tr><td>テーマ</td><td>組織文化・職務満足と患者満足度－病院多施設調査</td></tr>
<tr><td>実施方法</td><td>委託（委託先　京都大学 大学院医学研究科）</td></tr>
<tr><td>目的</td><td>職員の意識改革の基礎とするとともに、患者満足度について外部からの調査を実施するため。</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
<tr>
<td>大野病院</td>
<td>○患者満足度調査の結果
８１．５％（前年度比で、７．３％上昇）
※外来は７２％（入院は９１％）と低いことが今後の課題
○接遇研修会
<table>
<tr><td>前期</td><td>２回開催</td><td>テーマ「接遇の基本」（参加率７６．２％）</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>３回開催</td><td>不当要求に対する研修会（参加率７９％）</td></tr>
</table>
※前期、後期いずれかに参加した職員の割合　９０．６％。
○ご意見箱
投書に対しては、ほぼ回答を公表した（４回）。
○アメニティの向上
<table>
<tr><td>新型インフルエンザへの対応（病院東側発熱外来入り口のマット敷設、栄養相談室及び病院西側救急入口風除室の発熱外来化、患者待合スペースの変更）</td></tr>
<tr><td>病院食の展示場所の変更（見やすい正面玄関入り口付近に変更）</td></tr>
<tr><td>寄贈工芸美術品の展示コーナーの設置（正面玄関入口付近）</td></tr>
<tr><td>院内案内表示・掲示板の見直し</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>
</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>16</td>
<td></td>
<td>◇外来待ち時間の短縮</td>
<td>外来予約システムの見直しを行うことで、予約診療の充実・拡充を図るとともに、外来待ち時間の短縮を推進し、患者さんが満足できる医療の提供に努める。</td>
<td>□各病院の取組状況
<table>
<tr><th>病院名</th><th>取組状況</th></tr>
<tr><td>矢吹病院</td><td>○予約患者の割合は目標を上回っている。
○平均待ち時間についても昨年よりも１分３０秒程度短くなった。</td></tr>
<tr><td>会津総合病院</td><td>○平成２１年３月からオーダリングシステムの導入により、会計待ち時間の短縮及び伝票搬送負担の軽減など患者サービスの向上並びに受付・会計業務の簡略化等部門業務の効率化につながった。</td></tr>
<tr><td>宮下病院</td><td>○予約診察の実施（内科、外科）
○待ち時間を活用した院内イベントや院内健康教室の開催</td></tr>
<tr><td>南会津病院</td><td>○看護部において、平成２１年１２月７日～１１日に待ち時間調査を行い、原因分析、今後の対策等について検討した。
○エントランスにおけるテレビの設置位置の変更や小児科待合いへの折り紙設置など、待ち時間の苦痛軽減に努めている。</td></tr>
</table>
</td>
<td>3</td>
</tr>
</table>

17				大野病院：○内科医師の入院、退職や整形外科医の定年退職後の後任の不補充等から、内科及び整形外科において予約を断念した。 ○内科については平成２２年１月、３月に医師の増員が図られたため、予約の再開等外来待ち時間の短縮について検討を行った。	
17	喜多方病院	◇送迎バスの運行検討	会津統合病院（仮称）への移行準備や患者サービスの充実を図るため、送迎バスの運行を検討する。	○会津医療センター（仮称）における送迎バスの検討として、地元バス会社との意見交換を実施した。	2
18	宮下病院	◇無料送迎バスの効率的な運行	外来患者の利便性の向上を図るため、無料送迎バスの効率的な運行に努める。	○外来患者の利便性の向上を図るため、無料送迎バスを運行している。今後とも地域からの要望や利用状況を踏まえ、行き先や運行時刻の見直しを行うなど、効率的な運行に努めていく。 【運行状況】 ・三島町間方・浅岐・大谷方面 ・三島町大石田・西方・沼田・大登方面 ・三島町滝谷・桧原方面 ・金山町川口・三島町早戸方面 ・金山町大栗山・沼沢・川口・三島町早戸方面 迎え乗車数：２，１８８人（１日平均９．０人） 送り乗車数：２，０５１人（１日平均８．５人）	4
19		◇院内イベントの開催	入院患者や当院への来院者が快適で安らぎのある時を過ごしていただけるよう、四季折々の飾り付けを行うとともに、院内コンサートを開催するなど、「癒しのある空間」の提供に努める。	○入院患者をはじめ、来院される方々が、四季折々の季節の風物詩に触れ、より豊かに和やかに過ごしていただけるよう、季節ごとに飾り付けを行い、コンサートを開催するなど、癒しの空間づくりに努めた。 ○病院敷地内に季節の草花を植えて、また、切り花として院内に飾り、憩いの空間づくりに努めた。 ○院内イベントの実施状況 ５月１２日：◇看護の日イベント（参加者約７５名） ７月：◇七夕飾り ７月７日：◇七夕コンサート（参加者約６０名） ９月：◇お月見飾り １２月１６日：◇クリスマスコンサート（参加者約８０名） １２月：◇クリスマス飾り １月：◇正月飾り ３月：◇雛飾り	5

基本方針２：収益確保と費用削減による健全な病院経営（健全な病院経営の視点）

<table>
<tr><td colspan="2">改革プラン方針
良質で安全な医療を継続的に提供していくためには、健全な病院経営の確立が前提であることから、医師確保をはじめ、経営基盤の確立に向けた多様な取組みを行う。</td><td colspan="4">平成２１年度取組状況及び自己評価</td></tr>
<tr><td rowspan="2">目標１</td><td rowspan="2">収益の確保</td><td colspan="2">目標値達成状況評価</td><td colspan="2">取組状況評価</td></tr>
<tr><td>【５】</td><td>目標値を上回った</td><td>【３】</td><td>取り組んでいる</td></tr>
</table>

［医療機能の充実］
医師確保による医療機能の充実を図るとともに、適切な施設基準の取得や診療報酬請求漏れの防止、査定率減少に取り組む。

患者数の増加を図るため、健康診断の充実や特定保健指導の取組みを通じて、生活習慣病対策など予防医療に力を入れるとともに、透析などの特殊外来や訪問診療・訪問看護の充実に取り組む。

［先進医療機器の導入］
質の高い医療の提供や収益確保を図るため、計画的に先進医療機器の導入を行う。

○平成２１年度の取組状況
１　医療機能の充実
◆　地域に必要とされる質の高い医療の提供と病院経営の健全化を行うために、医師の確保を継続して行った。

【常勤医師数】　（各年度５月１日現在・単位：人）

病院名	平成 22 年 5 月 1 日	平成 21 年 5 月 1 日	平成 20 年 5 月 1 日	平成 19 年 5 月 1 日
矢吹病院	6	6	6	6
喜多方病院	4	4	5	5
会津総合病院	２１	２１	２６	２６
宮下病院	5	5	5	5
南会津病院	１２	１１	１４	１３
大野病院	１１	8	１０	１０
合　計	５９	５５	６６	６５

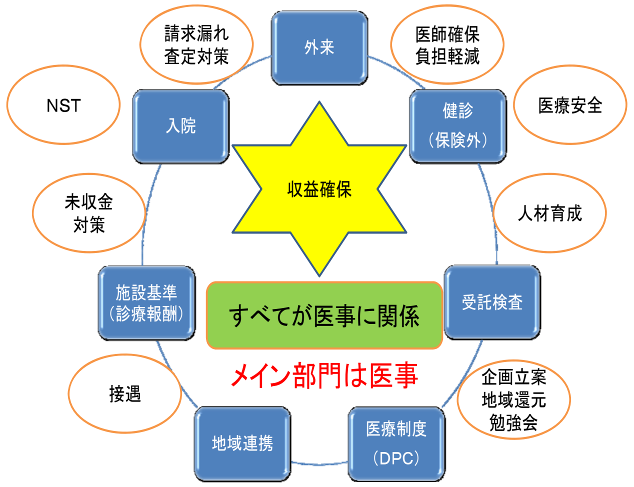
◆　収益確保プロジェクトチームを設置し、診療報酬制度や契約関係などの観点から、外部講師による講演や収益確保・費用削減に向けた検討を行い、委託費用、人材育成、地域貢献の視点など、医事業務の在り方についての論点を整理をした報告書を取りまとめた。

【収益確保プロジェクト実施状況】

構成員	各県立病院医事業務担当職員 及び病院局担当職員
開催回数	５回（７・８・１２・２・３月）

【論点整理項目】

実行方策１	○医事業務委託内容の整理
実行方策２	○民間実務経験者の採用
実行方策３	○ジェネラリストの育成
実行方策４	○職員配置とローテーション
実行方策５	○医事業務実践本の作成
実行方策６	○地域貢献への視点
実行方策７	○効率的な医事業務委託費用



◆ 在宅医療への支援を強化するため、矢吹病院、宮下病院では、訪問看護・訪問診療を実施

【訪問看護・訪問診療実施状況】

病院名	部門	平成２１年度	平成２０年度
矢吹病院	訪問看護	１,８２０件	１,７７６件
宮下病院	訪問看護	７０件	６４件
	訪問診療	７３件	１０７件

◆ 会津総合病院では、平成２１年７月から『ＤＰＣ対象病院』となり包括請求を開始し、「ＤＰＣ包括請求にかかる対応指針」を作成し、在院日数の適正管理、クリニカルパスの拡大、術前検査等の見直し、ジェネリック薬品の推進を行い、良質な医療の提供を実施した。

◆ 南会津病院では、南会津地域の維持透析の充実を図るため、透析室の増床工事を行って１２台から１９台とし、透析患者の利便性向上を図った。

また、『ＤＰＣ準備病院』として、厚生労働省の「ＤＰＣ導入の影響評価に係る調査」に参加し、データの提出を行った。

【透析実施状況】

項目	会津総合病院	南会津病院
外来透析	◇週３回（月・水・金の午前） ＊医師は常勤医師、医大非常勤医師	◇月・水・金（午前・午後） 火・木・土（午前） ＊医師は常勤医師
透析台数	◇１２台	◇１９台 ＊１２台＋７台（平成２２年４月～）
年平均実患者数	◇平成２１年度８名 平成２０年度９名	◇平成２１年度３２名 平成２０年度３１名

◆各市町村の特定健診やがん検診をはじめ、生活習慣病予防健診、人間ドック等の健康診断の受入を行い、新たな収益確保を図るとともに、地域住民の予防医療への貢献も積極的に行った。

【健康診断実施状況】　（単位：人・千円）

病院名	平成２１年度		平成２０年度		平成１９年度	
	件数	収益	件数	収益	件数	収益
矢吹病院	283 人	2,681 千円	286 人	2,702 千円	259 人	2,380 千円
喜多方病院	3,179 人	25,269 千円	2,854 人	22,784 千円	2,537 人	19,423 千円
会津総合病院	2,037 人	22,122 千円	1,652 人	24,924 千円	2,348 人	19,462 千円
宮下病院	237 人	4,080 千円	309 人	4,780 千円	345 人	5,123 千円
南会津病院	788 人	12,435 千円	654 人	9,461 千円	486 人	6,158 千円
大野病院	1,315 人	9,902 千円	1,334 人	10,560 千円	916 人	8,792 千円
合　計	7,839 人	76,489 千円	7,089 人	75,211 千円	6,891 人	61,338 千円

［外部意見の導入］

多様な取組みにより経営基盤の確立を図るため、病院経営の専門家など外部の方の意見を積極的に取り入れる。

◆　収益確保を図るため、未利用になっていた病院事業財産の売却を行った。

【売却実施状況】　　（単位：千円）

対象物件	状況	売却価格
喜多方病院院長公舎跡地	宅地 290.18㎡	5,350 千円
南会津病院院長公舎跡地	宅地 570.47㎡	6,150 千円

【今後売却予定】

対象物件	状況	売却時期
旧本宮診療所院長公舎	宅地 339.34㎡	平成２２年度
旧三春病院医師公舎	宅地 194.34㎡ 宅地 203.23㎡	平成２２年度

２　**外部意見の導入**

◆　県立病院事業の今後の病院経営の在り方についての検討を行うため、経営状況分析の専門家、学識経験者、医療関係者等の有識者で構成する第三者機関である「県立病院事業経営評価委員会」を平成２１年５月に開催し、「改革プラン」についての意見・助言をいただき、「県立病院改革プラン」の策定を行った。

○共通目標指標

経常収支比率

＊（経常収益（医業収益＋医業外収益））／経常費用（医業費用＋医業外費用））＊１００

２１年度目標値	２１年度実績値	２２年度目標値	２３年度目標値
８６%以上	８７.３%	８８%以上	９４%以上

目標２	未収金の発生防止と早期回収の強化	目標値達成状況		取組状況	
		【５】	目標値を上回った	【３】	取り組んでいる

［医療相談の実施］
　新たな未収金発生の抑制を図るため、高額療養費制度などの周知徹底や医療費に関する面談を行うなど、全職員の共通認識の下で医療相談を積極的に実施する。

［未収金マニュアルの活用］
　喫緊の課題である未収金残高の削減に向けて、県立病院医業未収金マニュアルを活用し、新たな未収金発生を防止するとともに、現存する未収金の早期回収に努める。

［効果的な未収金対策の推進］
　未収金回収については、電話や文書での督促、自宅訪問などを継続的な実施により、早期回収に向けた効果的な対策を推進する。

○平成２１年度の取組状況

１　医療相談の実施

◆　限度額適用認定証の交付手続きや高額医療費など法的制度の活用などの周知徹底や、医療費に関する個別の医療相談を継続して行い、各部門が連携して未収金対策に取り組んだ。

２　未収金マニュアルの活用

◆　県立病院事業未収金マニュアルに基づき、未収金回収については電話や文書での督促、自宅訪問による早期徴収を実施し、長期間保険証が未提示の者については、保険情報の確認のため関係機関に調査を依頼して住所の特定を行うとともに、未収金の圧縮に努めた。

【未収金残高状況】　（単位：人・件・千円）

病院名	Ｈ２１年度末			Ｈ２０年度末		Ｈ１９年度末	
	実人数	件数	金額	件数	金額	件数	金額
矢吹病院	10	48	3,223	35	3,843	21	2,266
喜多方病院	23	25	770	20	1,460	29	1,692
会津総合病院	960	1,530	53,822	1,360	52,448	1,377	55,217
宮下病院	7	19	339	19	390	3	66
南会津病院	140	455	8,896	435	9,601	342	8,762
大野病院	245	423	11,347	543	12,975	640	18,056
病院局	45	74	9,757	119	13,659	159	22,980
合　計	1,430	2,574	88,153	2,531	94,374	2,571	109,039

３　効果的な未収金対策の推進

◆　各病院の未収金実務者の担当者会議を開催し、各病院の未収金対策の取組状況や支払い督促の実施手続きについて検討を行った。

◆　会津総合病院や南会津病院では、県外患者の多くなるゴールデンウィークと年末年始には委託職員の配置による医療費計算・収納業務を行い、未収金発生防止に努めた。

◆　病院局においては、未収金徴収嘱託員を採用し、３病院１診療所の廃止に伴う未収金において、効果的な催告・督促の実施や連帯保証人に対しての催告を行いながら出張徴収を実施して未収金回収に努め、悪質な滞納者に対しては支払い督促申立を行い回収を行った。

○共通目標指標

過年度未収金残高

２１年度目標値	２１年度実績値	２２年度目標値	２３年度目標値
９３百万円	８８百万円	９０百万円	８８百万円

<table>
<tr><td colspan="2">改革プラン内容</td><td colspan="4">平成２１年度自己評価</td></tr>
<tr><td rowspan="2">目標３</td><td rowspan="2">費用の見直し</td><td colspan="2">目標値達成状況</td><td colspan="2">取組状況</td></tr>
<tr><td>【２】</td><td>目標値を下回った</td><td>【３】</td><td>取り組んでいる</td></tr>
</table>

［人件費の抑制］

更なる総人件費の抑制を図るため、給与費の抑制や、病棟・病床数の見直し、業務の効率化による職員配置の適正化、委託の推進などに取り組む。

［診療材料・医薬品の費用削減］

更なる材料費の削減を図るため、平成２０年度に導入した新型ＳＰＤにより、医薬品・診療材料費の共同購入や適正管理を徹底する。

○平成２１年度の取組状況

１　人件費の抑制

◆　患者数の動向や病棟再編の実施状況等に応じた看護職員、医療技術職員及び事務職員等の配置見直しを行い、委託化の推進を図るなど定員管理の適正化に努め、総人件費の抑制を図った。

【給与費の状況】

項目	平成２１年度	平成２０年度	対前年度増減
給与費	8,344,629 千円	8,310,258 千円	34,371 千円
うち退職手当除く	7,193,418 千円	7,656,733 千円	▲463,315 千円

【職員数状況】　（各年度末現在）

項目	平成２１年度	平成２０年度	対前年度増減
総職員数	775 人	810 人	▲35 人

【病床再編状況】

病院名	実施内容
喜多方病院	・平成２１年４月に１３５床から５０床に削減し、病棟再編を行った。
宮下病院	・平成２１年４月に５５床から３２床に病床削減を行った。
南会津病院	・平成２１年３月に１５０床から１００床への病床削減を行った。

２　診療材料・医薬品の費用削減

◆　医薬品・診療材料の購入費は、大きな比重を占めていることから、ＳＰＤ導入を行い、適正な管理を実施するとともに、採用品目における価格交渉の強化による廉価購入やジェネリック薬品の採用拡大、不良在庫削減に努めるなど経費削減を図った。

◆　薬品費については、ジェネリック医薬品等の新規薬品の導入検討や期限切れ間近の薬品の使用促進、同種同効薬の見直し、デッドストックの防止、在庫管理の徹底等を図った。

【材料費の状況】

項目	平成２１年度	平成２０年度	対前年度増減
材料費	1,498,914 千円	1,857,281 千円	▲358,367 千円
うち薬品費	844,377 千円	1,039,837 千円	▲195,460 千円
うち診療材料費	547,753 千円	691,214 千円	▲143,461 千円

［日常的な経費節減］

日常的な経費の削減を図るため、光熱水費の更なる節減や価格変動に応じた契約単価の見直しによる燃料費の削減、委託業務における業務内容の見直しなどを行う。

３　日常的な経費削減

◆　委託料については、医療機器の保守料など仕様の見直しを行い委託額の縮減に努めた。

消耗品費については、コピー用紙をはじめとして購入量の多い物品について廉価品の購入に努めた。

光熱水費についても、少しでも収支の改善を図るため職員の意識改革を図りながら経費削減に努めた。

【経費の状況】

項目	平成２１年度	平成２０年度	対前年度増減
経費	1,689,261 千円	1,790,164 千円	▲100,903 千円
うち消耗品費	47,823 千円	62,201 千円	▲14,378 千円
うち光熱水費	157,155 千円	169,028 千円	▲11,873 千円
うち委託料	908,079 千円	919,054 千円	▲10,975 千円

○共通目標指標

職員給与比率（一般病院）

＊職員給与費／医業収益＊１００

２１年度目標値　９７％以下

２１年度実績値　１０６.９％

２２年度目標値　９２％以下

２３年度目標値　８７％以下

□目標１：収益の確保（各病院の取組状況）

<table>
<tr><th>番号</th><th>取組機関</th><th>アクションプラン</th><th>取組内容</th><th>進捗状況</th><th>取組評価</th></tr>
<tr><td>1</td><td>共通取組</td><td>◇常勤医師の確保</td><td>関係機関等と連携しながら、常勤医師を確保することで、安定的な診療体制の確立を図る。</td><td>□常勤医師（平成２２年５月１日現在　５９人）
<table>
<tr><th>病院名</th><th>医師数</th><th>取組状況</th></tr>
<tr><td>矢吹病院</td><td>６人</td><td>○常勤医師数については、今後も引き続き確保に向けた取り組みを継続する。
○臨床研修医については、白河厚生総合病院より５名の研修医を受け入れた。</td></tr>
<tr><td>喜多方病院</td><td>４人</td><td>○内科医１名が非常勤となった。</td></tr>
<tr><td>会津総合病院</td><td>２１人</td><td>○管理型臨床研修病院として研修医を受入れ、臨床研修協力病院とともに臨床研修を行った。（平成２１年度２名（自治医大卒）、平成２２年度２名（自治医大卒）を受入予定）
○臨床研修医の受け入れにより、指導医の資質向上が図られるとともに、地域医療の質が向上し、それに伴う患者数の増加が期待される。
○平成２２年５月時点での常時勤務している医師（研修医を除く）は、内科９名、外科３名、整形外科２名、精神科２名、皮膚科１名、耳鼻咽喉科１名、麻酔科１名、婦人科１名、歯科１名の計２１名であり、このうち３名は県立医科大学会津医療センター準備室教授として当院に着任した医師（内科２名、外科１名）となっている。</td></tr>
<tr><td>宮下病院</td><td>５人</td><td>○内科医４名、外科医１名</td></tr>
<tr><td>南会津病院</td><td>１２人</td><td>○前年度との比較では、小児科医１名減、家庭医１名減、眼科医１名増で１減となった。また、年度前半は兼務地勤務が１名あったため１１名であった。
○臨床研修医は３月に１名受け入れた。</td></tr>
<tr><td>大野病院</td><td>１１人</td><td>○８月に常勤内科医師１名が退職したが、１月に内科、外科各１名、３月も各１名が増員された。
○外来診療機能を確保（当直を含む）するため、医科大学や医師会、病院等に対し診療応援等の協力を要請した。
○双葉厚生病院からの診療応援については、これまでの外科や眼科に加え、１２月から毎週木曜日に糖尿病専門医の派遣を受け、標榜はしていないが糖尿病外来を開設した。２３年４月には統合も控えていることから、これまで以上に双葉厚生病院との相互協力関係を築いていく。
○地域の診療所からは、胃内視鏡検査のため毎週月、水曜日に医師の派遣を受けた。</td></tr>
</table></td><td>4</td></tr>
<tr><td>2</td><td>矢吹病院</td><td>◇看護補助加算１の算定</td><td>看護補助加算１の算定を開始し、より高い入院基本料等加算の取得により、収益増を図る。</td><td>○平成 20 年 11 月から「看護補助加算２」から「看護補助加算１」を取得している。</td><td>5</td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td>◇外来患者に対する精神科作業療法の実施</td><td>精神科作業療法については、入院患者を対象に実施しているが、今後、外来患者のニーズを把握し、外来部門とＯＴ部門の連携方法等の具体策について検討する。</td><td>○外来の精神科作業療法については、検討に時間を要したことや対象者がいなかったことなどから年度内実施には至らなかったが、22 年度は既に実施している。</td><td>2</td></tr>
<tr><td>4</td><td>会津総合病院</td><td>◇コメディカルスタッフの確保</td><td>リハビリテーションに関する施設基準への対応を図るため、コメディカルスタッフ（ＯＴ（作業療法士）・ＰＴ（理学療法士））の確保を図る。</td><td>○理学療法士を採用し、リハビリテーションの充実を図った。</td><td>3</td></tr>
<tr><td>5</td><td></td><td>◇ＤＰＣ・電子カルテ・クリニカルパスの有効活用等による入院収益の増</td><td>疾病ごとの入院収入と投下医療資源についての管理を強化し、収益増を図るため、電子カルテ機能を十分に活用するとともに、クリニカルパスの作成見直しを行う。</td><td>○平成２１年３月からオーダリングシステムを導入し、発生源入力による請求漏れの削減等につながった。
○平成２１年７月入院分から医療費のＤＰＣ請求を開始し、それに併せて「ＤＰＣ包括請求にかかる対応指針」を作成し、在院日数の適正管理、クリニカルパスの作成拡大、術前検査等の見直し、注射等の手術中実施へのシフト、基準作成による抗生剤使用量の抑制、ＮＳＴ活動の推進による薬剤等使用量の抑制、抗生剤・高額薬剤・</td><td>4</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>造影剤を中心としたジェネリック化の推進を行ってきた。
○平成２１年７月以降にＤＰＣによる請求を行ったものについて、出来高払いにより算定した場合と比較してみると、月平均約４５０万円の増収になっているものの、手術件数が減少したことによる影響により入院の診療単価は３１,２５５円と対前年度に比較して５,２６８円下がった。</td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td>宮下病院</td><td>◇診療科目の充実（再掲）</td><td>診療科目の充実を図るなど、県立医科大学や会津総合病院等との連携を強化しながら、県内で高齢化率が一番高い地域の特性に的確に対応した医療を提供。</td><td>○再掲</td><td>4</td></tr>
<tr><td>7</td><td></td><td>◇訪問診療の充実による外来患者の確保</td><td>訪問診療等の充実により、患者サービスの向上や外来患者の確保を図る。</td><td>○へき地医療拠点病院として、訪問診療や訪問看護を実施するとともに、平成２１年７月からは地域包括支援センターや介護施設との合同ケア会議を定期的に開催するなど、在宅療養を続ける地域の方々を支援する取組みを継続し、外来患者の確保を図った。</td><td>3</td></tr>
<tr><td>8</td><td></td><td>◇無料送迎バスの効率的な運行（再掲）</td><td>外来患者の利便性向上や収益増に向けて、無料送迎バスの効率的な運行を図る。</td><td>○再掲</td><td>4</td></tr>
<tr><td>9</td><td>南会津病院</td><td>◇ＤＰＣ病院への移行による収益の確保</td><td>ＤＰＣ（包括支払制度）病院への移行に向けて、引き続きＤＰＣ準備病院としてデータの収集等を行う。</td><td>○ＤＰＣ準備病院として今年度も引き続きデータ提出したほか､病院間のデータ比較による医療の質と効率の向上を目指して京都大学 大学院医学研究科の主催するＱＩＰ（Quality Indecator/Imporvement Project）に参加し、特にＤＰＣ移行時の当院の課題について把握した。
○その結果、当院の規模、地域における役割等を考慮すると、いわゆる都市部の急性期のみを扱う大病院と異なり、ＤＰＣ移行により収益減となる可能性が高い。</td><td>3</td></tr>
<tr><td>10</td><td></td><td>◇透析器機の増設による透析機能の強化（再掲）</td><td>透析患者の利便性向上や透析患者の増に向けて、透析設備の増設を図る。</td><td>○再掲</td><td>5</td></tr>
<tr><td>11</td><td>大野病院</td><td>◇薬剤管理指導の効率的な実施</td><td>収益の確保を図るため、薬剤管理指導を効率的に実施する。</td><td>○薬剤指導管理料については、入院患者の減少による影響から算定額が減少した。
なお、２１年７月末から薬剤師が４名から３名配置となったが、平成２２年度においても、できる限り薬剤管理指導の充実に取り組んでいく。</td><td>3</td></tr>
<tr><td>12</td><td></td><td>◇亜急性期入院医療管理料の導入</td><td>新たな収入の確保を図るため、急性期治療を経過した患者に対し、在宅復帰支援に向けた亜急性期病床を設置する。</td><td>○亜急性期入院医療管理料については、平成２１年１０月１日に導入を行った。
○収入は目標の５,０００千円に対し、２,４３７千円にとどまった。</td><td>3</td></tr>
<tr><td>13</td><td>病院局</td><td>◇県立病院収益確保プロジェクトの実施</td><td>平成２２年度診療報酬制度改定やＤＰＣ導入への対応、地域連携の強化による患者確保などに向けた対策を講じるため、経営改善に向けて組織されている病院経営検討会に、実務担当者レベルのメンバーを加え発展させ、定期的に部門横断的な検討を行い、具体的に取り組む。</td><td>○経営改善に向けた対応策を検討するため、実務担当者レベルで収益確保プロジェクトチームを立ち上げ、診療報酬制度や契約関係などの様々な角度から、収益確保や費用削減に向けた検討を集中的に行い、外部から講師を招くなどして意見交換を行い、お互いに知恵を出し合いながら収益確保につながる対策を検討した。
<table>
<tr><th>回数</th><th>実施日</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>第１回</td><td>７月２９日</td><td>◇収益確保の観点から見る医事業務の姿について
◇医事業務委託内容、医療クラーク、施設基準、ＤＰＣについて</td></tr>
<tr><td>第２回</td><td>８月２５日</td><td>◇医事業務委託内容について
◇講演「収益確保に向けた医事部門の在り方と医事業務委託について」</td></tr>
<tr><td>第３回</td><td>１２月３日</td><td>◇医事業務の論点整理について
◇診療報酬改定、インフルエンザ対応、病院経営セミナーについて</td></tr>
<tr><td>第４回</td><td>２月２４日</td><td>◇これからの医事業務の在り方論点整理について
◇診療報酬改定について</td></tr>
<tr><td>第５回</td><td>３月２４日</td><td>◇改革プラン進行管理について
◇診療報酬改定、収益確保プロジェクト報告書、経営改善推進事業</td></tr>
</table></td><td>5</td></tr>
<tr><td>14</td><td></td><td>◇未利用財産の売却</td><td>病院事業財産を活用することにより収益確保を図るため、公舎跡地等未利用財産の売却を進める。</td><td>○再掲
○病院事業財産で未利用になっていた喜多方病院と南会津病院の公舎跡地の売却を行い、収益確保を図った。</td><td>5</td></tr>
<tr><td>15</td><td></td><td>◇外部意見による経営評価</td><td>県立病院事業の経営改善に向けた取組状況について、有識者で構成される第三者機関である県立病院経営評価委員会の評価を受けるなど、多様な意見を取り入れながら一層の経営健全化を図る。</td><td>○再掲
○経営状況分析の専門家、学識経験者、医療関係者等で構成する「県立病院事業経営評価委員会」を５月に開催し、「県立病院改革プラン」についての意見・助言をいただいた。</td><td>5</td></tr>
</table>

□目標２：未収金の発生防止と早期回収の強化（各病院の取組状況）

<table>
<tr><th>番号</th><th>取組機関</th><th>アクションプラン</th><th>取組内容</th><th>進捗状況</th><th>取組評価</th></tr>
<tr><td>16</td><td>共通取組</td><td>◇未収金の発生防止と早期回収の強化</td><td></td><td>□各病院の取組状況
<table>
<tr><th>病院名</th><th>実施状況</th></tr>
<tr><td>矢吹病院</td><td>○未収金対策の早期着手に努め、電話催告や出張徴収の他、２１年度は文書督促等を９回実施した。
○院内の組織的な取組みを推進するため、平成２２年１月に未収金対策プロジェクトチームを設置し、各部門が連携して未収金の縮減に取り組んだ。
○限度額適用認定証の交付を受けることで入院費の窓口負担額が低減されることから制度の周知に努めた。</td></tr>
<tr><td>喜多方病院</td><td>○新たな未収金発生防止を図るため、高額医療制度など法的制度の活用などの周知徹底や医療費に関する個別面談を行った。
○県立病院未収金マニュアルのほか、新たに喜多方病院未収金マニュアルを作成し、電話や文書による督促、出張徴収などを継続的に実施した。</td></tr>
<tr><td>会津総合病院</td><td>○過年度医業未収金の回収については、事務局職員（管理職含む）が電話督促や自宅訪問などを行い早期回収に努めた。</td></tr>
<tr><td>宮下病院</td><td>○過年度未収金回収額は４２千円であり、休日・休診日等の未収金額は０千円であった。
○電話による納付依頼件数３９件、督促状・催告状の送付件数９１件、自宅訪問等による納付依頼件数１０件であった。</td></tr>
<tr><td>南会津病院</td><td>○医療費が高額になる見込みの入院患者については、医療相談員が早期に介入し、高額療養費事前申請制度の紹介等により、高額未収金の発生防止に努めた。
○県外患者の多くなるゴールデンウィークと年末年始には委託職員による医療費計算・収納業務を行い、受診当日の収納に努めた。
○長期未収の透析患者については、社会福祉協議会の医療貸付を活用し、２名６２万円の回収に成功した。
○従来の文書催告に加え、担当者及び臨時職員が定期的に電話催告を行い、未収金の回収に努めた。
○長期間保険証が未提示のままになっている患者については、保険者から直接保険情報の提供を受けて保険請求を行うことにより、未収金の圧縮に努めた。</td></tr>
<tr><td>大野病院</td><td>○未収金対策会議を開催し、事務部及び看護部が連携して未収金発生の未然防止に努めた。
○過年度未収金の回収金額は目標の７３％にとどまったが、新たな未収金の発生防止や未納者の所在の確認、電話及び訪問による納付交渉等を実施し、さらに行方不明や訪問、役場調査等により生活保護等納付資力がないなどの確認ができた不良債権については、整理、促進に努めた。</td></tr>
</table></td><td>4</td></tr>
<tr><td>17</td><td>病院局</td><td>◇未収金担当者会議の開催</td><td>実務者レベルの会議を定期的に開催し、実効性のある効果的な滞納防止策や回収策を検討し、各病院の共通的な取組みとして実施する。</td><td>○平成２１年１１月２５日に未収金担当者等会議を実施し、定期監査結果、各県立病院における取組み、支払い督促について検討を行った。</td><td>3</td></tr>
</table>

□目標３：費用の見直し（各病院の取組状況）

<table>
<tr><th>番号</th><th>取組機関</th><th>アクションプラン</th><th>取組内容</th><th>進捗状況</th><th>取組評価</th></tr>
<tr><td>18</td><td>共通取組</td><td>◇業務委託内容の見直しによる委託費削減</td><td>委託業務の契約内容等についてゼロベースで見直しを行うとともに、入札方式や複数年契約の検討、医療機器の調達における保守管理を考慮した契約実施などにより、委託費用の削減に取り組む。</td><td>□各病院の取組状況
<table>
<tr><th>病院名</th><th>実施状況</th></tr>
<tr><td>矢吹病院</td><td>○委託料については、医療機能評価業務委託契約を新規に締結したほか、医事業務に係るカルテの中央管理、再診の予約業務実施等により増加した。</td></tr>
<tr><td>喜多方病院</td><td>○常勤医を嘱託医に変更したことにより、委託料が増加した。</td></tr>
<tr><td>会津総合病院</td><td>○医事電算システム保守点検料の減額により、委託料が減少した。</td></tr>
<tr><td>宮下病院</td><td>○委託仕様書の見直しを行い、削減可能なものと削減できないものとを峻別し、８４７千円を削減した。
○今後さらなる委託仕様の見直しを行い、経費節減につなげていく。
　なお、機器の保守管理については、修繕で対応した方が安価な場合も考えられるため、機器個々の状況を把握し年間保守管理委託契約が必要かどうかの検討を行っていく。</td></tr>
<tr><td>南会津病院</td><td>○委託料については、小児科医の非常勤化に伴い他病院と診療委託契約を行った。
　また、事務部（医事）の職員減に伴って医事の委託業務を増加させた。
○各種業務委託で経費削減に努めたほか、患者数見合いの単価契約等で昨年度より減となったものがあり、結果的には２５２千円（０.１%）の微増にとどまった。</td></tr>
<tr><td>大野病院</td><td>○委託料については、仕様の見直しを行い、２２,２５４千円（１１%）を削減した。</td></tr>
</table></td><td>3</td></tr>
<tr><td>19</td><td></td><td>◇消耗品費や光熱水費等の削減</td><td>消耗品や光熱水費等の経費削減を図るため、職員の意識改革を進める。</td><td>□各病院の取組状況
<table>
<tr><th>病院名</th><th>実施状況</th></tr>
<tr><td>矢吹病院</td><td>○冷房の温度設定２８度と病棟のエアコンの適切な使用を徹底させるなど、電気料については、冷夏の影響もあって使用量では２４,１８６kw（３.２%）の削減、使用料金も１,５４９千円（１１.７%）を削減した。

○水道については、節水コマを蛇口に取り付け水圧を下げ、出る水の量を制限した。そのため、使用量が対前年比２,３１１m^3(８.９%)の削減、使用料金５８３千円(８.７%)を削減した。

○ボイラーの運転を単に自動制御運転管理に委ねるだけでなく、外気温の変化に応じて手動でバルブを調整することによりきめ細かくボイラーの運転管理を行った。重油については、使用量は対前年比２,８００Ｌ（１.７%）の削減となり、燃料費は燃料単価の低下もあって４,７５１千円（３２%)を削減した。

○引き続き経費節減に努めるとともに、管理棟・病棟・作業療法棟の照明器具が経年劣化していることから、今後、段階的に照明器具の改修工事を行い電気料を節減する。
　さらに、委託業務の契約内容の見直しや業務の集約化などを進めて、委託料の圧縮に努めていく。</td></tr>
<tr><td>喜多方病院</td><td>○節減効果は、執行額ベースで消耗品費３４７千円、光熱水費１,３４０千円、燃料３,２４７千円、修繕費３４８千円を削減した。

○今後とも、常に執行方法のみ直し始め、経費の節減に努めていく。
　なお、施設が老朽化してきているので、会津医療センターへの移行まであと３年間で、何処まで維持管理・補修が必要なのか、経費の執行面で今後の一番の課題となっている。</td></tr>
</table></td><td>4</td></tr>
</table>

<table>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>
<table>
<tr><td>会津総合病院</td><td>○電子カルテ導入に伴う印刷物の減等により、消耗品費が対前年度に比べ9,７８８千円（４２.２％）を削減した。

○平成２１年１２月から電力受給契約を変更（契約ワット数７００kw→６７０kw)し、電気基本料の削減を図り年間４８５千円を削減した。

○燃料費についても、Ａ重油単価の引き下げなどで１０,４９５千円を削減した。

○職員に対して、今後も引き続き各種経費の削減について周知・徹底するとともに、「職員提案制度」等により効果的な経費削減方法を検討していく。</td></tr>
<tr><td>宮下病院</td><td>○職員の意識改革による光熱水費、消耗品等の削減に努め、光熱水費は６５１千円を削減した。

○旅費では、出張の際の公用車の利用、複数名の同乗を職員に周知徹底し、８２６千円を削減した。

○燃料費については、１,０９２千円を削減した。
今後とも、収支の改善が図られるよう経費の見直しを継続していく。</td></tr>
<tr><td>南会津病院</td><td>○消耗品費については、コピー用紙をはじめとして購入量の多い物品については、従来の購入物品にこだわることなく廉価品の購入に努め1,４５１千円（１４.６％）を削減した。

○光熱水費については、館内照明の一部と駐車場照明の一部を消灯するなどして経費削減に努め1,７０９千円（6.7％）を削減した。

○今後も一層の経費節減に努め、空調関係については引き続き設定温度の調整等を行って灯油の使用量の削減に努めるほか、照明の一部を使用しないなど電気料の削減を図っていく。</td></tr>
<tr><td>大野病院</td><td>○主任者会議等を通じ、経費の削減やエコオフィス推進について周知した他、院内広報紙「ほすぴたる通信」に県立病院改革プランの特集を組み、職員の意識改革に努めました。

○光熱水費については、時間外の照明、事務機器の節電等エコオフィスの推進に努め、３,１１２千円（９％）を削減した。

○消耗品については、購入品目の絞り込みや適正在庫に努め、購入数量や時期の適正化の検討を行い1,６３５千円（１７％）を削減した。</td></tr>
</table>
</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>20</td>
<td></td>
<td>◇新型ＳＰＤによる医療費等の削減</td>
<td>材料費の削減を図るため、平成２０年度に導入した新型ＳＰＤにより、医薬品・診療材料費の共同購入や適正管理を徹底する。</td>
<td>□各病院の取組状況
<table>
<tr><th>病院名</th><th>実施状況</th></tr>
<tr><td>矢吹病院</td><td>○平成２０年８月から稼働した福島県立病院物品管理業務（新型ＳＰＤ業務）委託により医薬品費及び診療材料費の削減を図っているところであるが、薬品費については、ＳＰＤの効果は見られるものの、高額医薬品の使用等により薬品費は増加しており、１,１９９千円の増となった。

○診療材料費については検査試薬の診療材料費扱い及び機器更新に伴う試薬増などにより９８４千円の増加となった。

○適正な在庫管理に努めるとともに、福島県立病院物品管理業務（新型ＳＰＤ業務）委託などにより材料費のなお一層の削減を図っていく。</td></tr>
</table>
</td>
<td>4</td>
</tr>
</table>

				喜多方病院	○後発医薬品の採用は、薬事委員会等で話し合い、可能なものから切り替えた。 ○適正な在庫管理につとめ、不用な在庫を抱えないようにするとともに、使用した材料の請求漏れ防止にも努めた。 ○入院患者数の増加や化学療法、血液疾患患者の増加で材料費全体で前年度より増加した。	
				会津総合病院	○平成２１年７月からのＤＰＣ開始に伴い、医療原価を下げるために薬事委員会において後発品採用品目の導入拡大を行った結果、平成２０年度の後発品採用率（金額ベース）５.８３％と比較して、平成２１年度は１０.２９％と目標数値の１０％を達成した。 ○平成２１年７月から平成２２年３月までの９か月間で先発品を使用した場合とのコスト差は約８３９万円であった。	
				宮下病院	○薬品費については、６，９１６千円の減少となった。 ○後発医薬品の採用は、８３品目（１７.６％）である。 ○診療材料費については、３，１８３千円の増加となったものの、薬品使用効率及び医業収益に対する割合が改善された。 ○今後も新型ＳＰＤシステムを活用し、他病院で使用している安価な診療材料や後発医薬品への切り替えを進め、期限切れの近い薬品情報を周知し期限切れを少なくするなど、使用効率の改善を図っていく。	
				南会津病院	○診療材料については、新ＳＰＤ方式導入前と比較して４.９％の削減（１月末現在） ○物品管理委託業者にも働き掛けを行い、同等品・類似品がある場合には廉価品への移行を随時進めた。 ○薬品費については、毎月薬事委員会を開催し、同種同効薬の見直しやデッドストックの防止、在庫管理の徹底等を図った。	
				大野病院	○薬品については、薬事委員会を開催し、ジェネリック医薬品等の新規薬品の導入検討や期限切れ間近の薬品の使用促進に努めた。 ○診療材料については、診療材料購入検討委員会を開催し、効率的な診療材料の導入や安価な同等品への切り替え、在庫の使用促進に努めた。 ○新型ＳＰＤによる診療材料の効率的な在庫管理の徹底に努めた。	
21	喜多方病院	◇病棟再編の実施	診療圏の人口動向や今後の患者数見込み等を考慮し、病棟再編を実施する。		○平成２１年４月より、病床数を１３５床から５０床に削減し、１病棟体制とした。	5
22	宮下病院 南会津病院	◇病床削減の実施	診療圏の人口動向や今後の患者数見込み等を考慮し、病床数の削減を実施する。		○平成２１年４月から、病床数を５５床から３２床に削減した。（宮下） ○平成２１年３月末に、病床数を１５０床から１００床に削減した。（南会津）	5
23	病院局	◇総人件費の抑制	更なる総人件費の抑制を図るため、給与費の抑制や、病棟・病床数の見直し、業務の効率化による職員配置の適正化、委託の推進などに取り組む。		○患者数の状況に応じた看護職員や医療技術職員等の配置の見直し、事務職員配置の見直し、病棟再編を行い、総人件費の抑制を図った。	4

基本方針３：医療提供体制の充実強化（病院の体制整備の視点）

改革プラン方針		平成２１年度取組状況及び自己評価			
地域住民に安全で安心な医療を提供し、信頼される病院を目指していくため、これからの県立病院を担う専門的な知識を持った医師の確保・育成、診療体制の充実を図るとともに、医療安全対策の一層の強化を図る。					
目標１	診療体制及び経営基盤の強化	目標値達成状況評価		取組状況評価	
		【５】	目標値を上回った	【４】	積極的に行われている

［医師確保等の充実強化］
県立医科大学等との連携や医師紹介事業者の活用、公募による医師確保策の充実強化を図るとともに、医師の給与の見直しや勤務環境の改善などの処遇改善を行い、医師にとって魅力ある職場づくりを行う。
また、医師確保緊急対策プログラム（※）に基づき、医師確保に取り組む。
※　県の地域医療対策協議会で検討され、平成２１年度から実施

［医療の質と調和した経営改善］
「医療の質」、「経営の質」の両面においてバランスがとれた病院経営を進めるため、５つの視点（患者さんの視点・健全な病院経営の視点・病院の体制整備の視点・人材育成の視点・地域連携の視点）に沿った基本方針に基づく経営改革を実施する。

○平成２１年度の取組状況
１　医師確保等の充実強化について
【常勤医師数】（単位：人）

病院名	H21.5	H21.9	H22.1	H22.3	H22.6
矢吹病院	6	6	6	6	6
喜多方病院	4	4	4	4	4
会津総合病院	２１	２１	２０	２０	２１
宮下病院	5	5	5	5	5
南会津病院	１１	１１	１２	１２	１２
大野病院	8	7	9	１１	１１
合　計	５５	５４	５６	５８	５９

◆　県立医科大学の支援を受けて、平成２５年２月開院予定の会津医療センター（仮称）となる会津総合病院や平成２３年４月にＪＡ厚生連と統合を予定している大野病院への医師確保を前倒しで行った。

◆　将来、県立病院に勤務する意志のある医学部生に対して修学資金の貸与を行うとともに、現状への理解や現場医師との交流を深めてもらうため、８月２４日～２５日に南会津病院で修学資金貸与者との交流会を実施した。

◆　県立病院に勤務している医師と病院事業管理者をはじめとした病院局幹部職員との意見交換会を実施し、医師が安心して働ける勤務環境の整備や医師を引きつける診療機能の充実など、魅力ある病院づくりに努めた。

２　医療の質と調和した経営改善について
◆　「病院経営戦略会議」（構成員：病院事業管理者、病院局長、各病院の院長・看護部長・事務長）を開催し、平成２１年度決算見込、改革プランの行動計画等について検討を行った。

◆「病院経営検討会」（構成員：各病院の事務次長）

平成２１年５月２２日	病院職員による提言と意見交換、改革プランの行動計画
１２月　３日	医事業務の論点整理について、経営セミナー　など
平成２２年３月２４日	改革プランの進行管理、診療報酬の改定について　など

〇共通目標指標

常勤医師数

２１年度目標値	２１年度実績値	２２年度目標値	２３年度目標値
５７人	５８人	６７人	７１人

目標２	医療安全対策の強化	目標値達成状況評価		取組状況評価	
		【３】	目標値をほぼ達成できた	【４】	積極的に行われている

［不断の意識啓発］
医療の安全性を高め、患者さんにより信頼される病院となるため、職員全員の医療事故防止に向けた一層の意識啓発と病院全体の危機管理を不断に取り組む。

［組織的な体制整備］
医療安全を総合的に推進する医療安全担当の配置、医療事故防止マニュアルの不断の見直し、医療事故防止対策委員会で医療事故の発生防止対策の検討、医療事故防止に関する研修会の定期的な開催など、医療安全対策に病院全体で組織的に取り組み、安全な医療の確保を図る。

［マニュアルの周知徹底］
危機発生時に迅速かつ的確な対応が図られるよう、普段から研修会等において、医療事故防止マニュアルの周知徹底に努める。

○平成２１年度の取組状況

１　医療安全対策の推進について

◆医療安全担当の配置	◇定期的に院内ラウンドを行い、医療事故や院内感染を防止し医療安全対策を組織的に推進した。
◆医療安全対策委員会等の開催	◇アクシデント、インシデント事案について、発生事例の分析や今後の対応策について協議した。
◆医療事故防止対策研修会の開催	◇第一線で実務に従事している外部講師を迎え、職員の医療安全に対する意識向上と医療安全の強化に努めた。
◆「医療安全対策プロジェクトチーム」の開催	◇各病院の医師、医療安全担当者を構成メンバーとして、院内暴力対応マニュアル、インシデント・アクシデントの情報の共有化、医療安全情報等についての協議を行った。

◆　より一層安全な医療の提供を行うため、各病院の医療安全対策委員会や医療安全担当責任者で構成される「医療安全対策プロジェクトチーム」を開催し、リスク情報収集や調査分析を行うなど、引き続き、医療事故防止対策の強化に組織的に取り組んでいきます。

○共通目標指標

医療安全研修参加率

２１年度目標値	２１年度実績値	２２年度目標値	２３年度目標値
８５％	７６.１％	９０％	９０％

□目標１：診療体制及び経営基盤の強化（各病院の取組状況）

<table>
<tr><th>番号</th><th>取組機関</th><th>アクションプラン</th><th>取組内容</th><th>進捗状況</th><th>取組評価</th></tr>
<tr><td>1</td><td>共通取組</td><td>◇常勤医師の確保（再掲）</td><td>安定的な診療体制の確立を図るため、関係機関等と連携しながら、常勤医師を確保する。</td><td>○再掲</td><td>4</td></tr>
<tr><td>2</td><td>会津総合病院
南会津病院</td><td>◇臨床研修医の受入</td><td>県立医科大学や自治医科大学等との連携の下、臨床研修病院として研修医の受入を行う。</td><td>○臨床研修医の受入<table><tr><td></td><td>会津総合病院</td><td>南会津病院</td></tr><tr><td>種別</td><td>管理型臨床研修病院</td><td>協力型臨床研修病院</td></tr><tr><td>受入人数</td><td>２名（自治医大卒）</td><td>１名（地域保健・医療）</td></tr></table></td><td>5</td></tr>
<tr><td>3</td><td>宮下病院
南会津病院</td><td>◇家庭医プログラムに基づく実習生の受入</td><td>県立医科大学の家庭医プログラムに基づき、ホームステイにより実習生の受入を行う。</td><td>○家庭医研修プログラム（福島県立医科大学）に基づく実習生の受入<table><tr><td></td><td>宮下病院</td><td>南会津病院</td></tr><tr><td>受入れ人数</td><td>３名</td><td>３名</td></tr></table></td><td>4</td></tr>
<tr><td>4</td><td>宮下病院</td><td>◇自治医科大学福島県人会夏期研修等の受入</td><td>自治医科大学福島県人会のへき地医療体験研修を積極的に支援することで、本県出身の医学部生への将来的なへき地医療従事の動機付けとなることを目指す。</td><td>○自治医科大学福島県人会夏期研修等の受入<table><tr><td>８月２１日</td><td>○地域医療現場見学
（医学部進学を希望する会津地区の高等学校２年生１３名参加）</td></tr><tr><td>８月２８日</td><td>○へき地医療体験研修（夏期）
（地域医療に関心を持つ医学部生３名参加）</td></tr><tr><td>２月２５日</td><td>○へき地医療体験研修（冬期）
（地域医療に関心を持つ医学部生１２名参加）</td></tr></table></td><td>4</td></tr>
<tr><td>5</td><td>南会津病院</td><td>◇研修病院としての役割</td><td>自治医科大学の実施する院外ＢＳＬ研修の受入を行う。</td><td>○院外ＢＳＬ研修の受入
１名（自治医科大学）</td><td>4</td></tr>
<tr><td>6</td><td rowspan="3">病院局</td><td>◇医科大学との連携による医師確保の強化</td><td>県立医科大学や自治医科大学等との連携強化、近隣県や東京都内の医科大学への医師派遣依頼などにより、医師確保対策の強化を図る。
また、県の医師確保緊急対策プログラムに基づき、医師確保を図る。</td><td>○県立医科大学や自治医科大学等への派遣要請の強化を行った。
○県立医科大学の支援を受けて、平成２５年２月開院予定の会津医療センター（仮称）となる会津総合病院や２３年４月にＪＡ厚生連と統合を予定している大野病院への医師確保を前倒しで行った。</td><td>4</td></tr>
<tr><td>7</td><td>◇公募による医師確保</td><td>医師紹介事業者の活用、インターネットを始め様々な広報媒体の活用、本県に興味を持っている県外在住者へのＰＲ等、公募による医師確保対策の強化を図る。</td><td>○ホームページや雑誌をはじめ医師紹介事業者の活用等、様々な広報媒体の活用を行い、公募による医師確保対策の強化を図った。</td><td>3</td></tr>
<tr><td>8</td><td>◇医師の処遇改善</td><td>県立病院に勤務する医師について、給与の見直し、医療事務作業補助者の配置などによる勤務負担の軽減、研修制度の充実など処遇改善を図り、医師にとって魅力ある職場づくりを行う。</td><td>○各病院の医師と病院事業管理者をはじめとした病院局幹部職員との意見交換会を実施し、現場医師の意見を把握しながら、顔の見える関係の構築を図り、魅力ある病院づくりを行った。
○医師の処遇改善を図るため、手当の見直し（初任給調整手当の引き上げ）を行った。
○意見交換会実施状況
・第１回　８月４日（会津総合病院）
・第２回　８月６日（宮下病院・喜多方病院）
【目標】<table><tr><td>◇医師が安心して働ける勤務環境整備</td><td>院内リスク管理体制、給与体系、生活面サポート</td></tr><tr><td>◇医師を引きつける診療機能の充実</td><td>医療設備、スタッフによるサポート体制</td></tr><tr><td>◇医師にとって魅力ある病院づくり</td><td>医師の意見把握のための組織風土</td></tr></table></td><td>4</td></tr>
</table>

9		◇中長期的な医師確保	将来に向けた医師の確保を図るため、医学部生への修学資金の貸与、臨床研修医の受入れなどを行う。	○将来、県立病院に勤務する意思のある医学部生に対して修学資金の貸与を行った。 ○県立病院の現状を認識してもらうために、修学資金貸与者との交流会を実施し、現場医師との交流を深めた。 【実施状況】 ８月２４～２５日　南会津病院 ○平成２２年度から保健福祉部の修学資金制度と統合し、「へき地医療等医師確保修学資金」を創設した。 なお、従来貸与を受けていた医学部学生については、これまで同様貸与。	4
10		◇目標管理の実施	５つの視点に沿った基本方針を踏まえ、良質な医療の提供と健全な病院経営の実現に向けた取組みを実施していくとともに、定期的に取組みの進捗状況や課題の検討などを行う。	○平成２１年５月に策定した改革プランの進捗管理を行うために、１０月の事業計画策定時に合わせて、ＢＳＣに基づく行動計画シートの進行管理・自己評価を実施し、下半期に向けたさらなる取組に向けた確認を行った。	4

□目標2：医療安全対策の強化（各病院の取組状況）

<table>
<tr><th>番号</th><th>取組機関</th><th>アクションプラン</th><th>取組内容</th><th>進捗状況</th><th>取組評価</th></tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>共通取組</td>
<td>◇専任の医療安全担当による管理体制の強化や研修会の開催等による安全対策の強化</td>
<td>○専任の医療安全担当を配置する。
○医療安全対策委員会等の活動を強化して、医療事故防止や院内感染防止に関する情報の収集やアクシデント・インシデント事例の検証等を行う。
○定期的に医療事故防止のための研修会を開催し、マニュアルの見直しや改善事項等について職員への指示を徹底するなど、医療の安全確保に総合的かつ組織的に取り組む。</td>
<td>□医療安全の取組状況
<table>
<tr><th>病院名</th><th>取組状況</th></tr>
<tr><td>矢吹病院</td><td>○医療安全に関する研修会
<table><tr><td>７回開催　（安全な業務遂行能力の向上や意識向上）</td></tr></table>
○医療安全管理委員会及び院内感染対策委員会
<table><tr><td>毎月１回開催（医療事故の防止や感染症予防等の対策）</td></tr></table>
</td></tr>
<tr><td>喜多方病院</td><td>○医療安全研修会
<table><tr><td>９月（医療ガスの取扱いに関する講習会）</td></tr><tr><td>２月（取扱いに注意を要する医薬品に関する講習会）</td></tr></table>
計５７名の職員が参加。
○医療安全及び院内感染の対策会議
<table><tr><td>毎月１回開催</td></tr></table>
</td></tr>
<tr><td>会津総合病院</td><td>○医療事故防止対策委員会
<table><tr><td>毎月開催（事例発生の分析や対応策について協議）</td></tr></table>
○医療安全研修会
<table>
<tr><td>開催時期</td><td>テーマ</td><td>出席者数（出席率）</td></tr>
<tr><td>２１年６月</td><td>急変時の迅速対応</td><td>１４８名（４３％）</td></tr>
<tr><td>７月</td><td>手洗研修会</td><td>２４９名（７３％）</td></tr>
<tr><td>９月</td><td>新型インフルエンザ</td><td>７６名</td></tr>
<tr><td>２２年２月</td><td>標準予防策（手洗い）</td><td>８７名※</td></tr>
<tr><td>３月</td><td>肺塞栓血栓症の予防</td><td>６４名</td></tr>
</table>
※２月は、７月の研修会に参加できなかった者を対象に開催
</td></tr>
<tr><td>宮下病院</td><td>○医療安全対策委員会
<table><tr><td>毎月開催</td><td>・ヒヤリ・ハット報告及びその対策
・医療安全情報の周知徹底
・毎月の医療安全標語の策定　　　等</td></tr></table>
○医療安全研修会
<table><tr><td>１０月２３日</td><td>医療ガス保安講習会</td></tr><tr><td>１月２８日</td><td>針刺し事故の防止について</td></tr></table>
○医療安全担当（医師１名、看護師５名、薬剤師　１名、臨床検査技師１名、事務１名）による転倒・転落防止対策「院内パトロール」を実施した。
○院内感染防止委員会
<table><tr><td>毎月開催</td><td>新型インフルエンザ対策（まん延期診療・業務継続計画の策定）、院内感染対策、抗菌薬使用状況、院内ラウンドを実施</td></tr></table>
○院内感染防止研修
<table><tr><td>９月１７日</td><td>病院感染対策における手指衛生と新型インフルエンザ対策</td></tr></table>
</td></tr>
</table>
</td>
<td>4</td>
</tr>
</table>

				南会津病院 ○医療安全研修会 ６月４～１１日 ｜ グリッターバグによる手洗い実践研修 委託業者を含め１４２名が参加。 転倒転落の事例を取り上げ、月１回定例化して原因分析を行った。 大野病院 ○医療安全研修会 ５月 ｜ 「医療 KYT・４R 法」 ２月 ｜ 「薬剤事故防止」 ２月 ｜ 不当要求防止の観点からの研修会（３回） ３月 ｜ 「感染・針刺し事故防止」 ３月 ｜ 「安全機能付翼状針」実技訓練研修会（６回） ○医療事故防止対策 医療安全管理委員会 ｜ ９回開催 リスクマネジメント部会 ｜ １１回開催 ※　ヒヤリハット事例の共有や院内事例等について検討を行い、医療事故防止に努めた。 ○院内感染対策 院内感染対策委員会 ｜ ９回開催 ICT 委員会（実行組織） ｜ １１回開催（21 年度新設） ※　主に新型インフルエンザ対策として、発熱外来の設置や治療対応やワクチン接種、院内感染の防止について検討した。 ○薬事委員会 定期的に開催。	
12	会津総合病院	◇オーダリングシステム･電子カルテシステムの導入による安全･安心な医療の提供	システムによる禁忌投薬等の防止やバーコードチェックによる患者誤認の防止など、安全安心な医療の提供を行う。	○オーダリングシステム･電子カルテシステムによる禁忌投薬等の防止やバーコードチェックによる患者誤認の防止など、安全・安心な医療の提供に努めてきた。	5
13	病院局	◇医療安全対策プロジェクトチームの開催	各病院の医療安全担当責任者で構成される医療安全対策プロジェクトチームを定期的に開催し、一層の安全な医療の提供を図るため、リスク情報収集や調査分析を行うなど、医療事故防止対策の強化に組織的に取り組む。	○平成２１年１０月２３日に各病院の医療安全担当者で構成する県立病院医療安全対策プロジェクトチームを開催した。 ◇院内暴力対応マニュアルについて ◇インシデント・アクシデントの状況 ◇アクシデント報告の情報共有化 ◇医療安全情報等について	4

基本方針４：職員の資質向上と人材育成（人材育成の視点）

改革プラン方針	平成２１年度取組状況及び自己評価
地域住民に良質な医療サービスを提供するという基本姿勢に立ち、部門間の連携や積極的な対話をすすめ、コミュニケーション能力の向上を図りながら、職員の経営参加に対する意識の向上、職場の活性化、組織風土の改善を図る。 また、院内外の人的資源を有効に活用しながら、次世代を担う職員や核となるリーダーの育成、職員の専門性向上への支援を実施する。	

目標１	人材の育成と確保	目標値達成状況		取組状況	
		【５】	目標値を上回った	【３】	取り組んでいる

［人材の積極的活用］
組織の活性化や職員のモチベーションの向上を図るため、人的資源としての院内の優秀な人材の積極的な活用を図る。

［リーダー育成］
地域住民から信頼される病院となるため、職員の育成を図るとともに、核となるリーダーの育成に努める。

〇平成２１年度の取組状況

１　人的資源の積極的な活用とリーダーの育成について

◆医療スタッフの専門性向上への支援

認定看護師、福島県看護教員養成講習会、精神科看護修士、ＢＬＳ（Basic Life Support（一次救命処置））、ＮＳＴ専門療法士等への支援を継続的に実施し、業務推進に当たってのリーダー育成を行ってきた。今後も、認定看護師等の取得について支援を行っていく。

【認定看護師の状況】（平成２２年６月末）

認定分野	取得人数
◇集中ケア	１人
◇感染管理	１人

【資格取得支援状況】

病院名	平成２１年度資格取得・受講等	人数
矢吹病院	精神科看護修士	１人
喜多方病院	看護教員養成講習会受講	１人
会津総合病院	ＮＳＴ専門療法士	１人
宮下病院	ＢＬＳ	９人
南会津病院	看護教員養成講習会受講	１人
	特定化学物質・四アルキル鉛作業主任者	４人
	ＢＬＳ　ＨＣＰコース（一次救命措置）	１７人
	ＡＣＬＳコース（二次救命措置）	２人
	医療安全管理者養成研修受講	１人
大野病院	認定看護師（感染管理）	１人
合　計		３８人

◆民間実務経験者の採用

医療を取り巻く環境の変化に的確にかつ継続的に対応していくため、病院経営や医療業務における専門知識を備えた民間実務経験者の採用試験を実施したが、採用には至らなかった。

［資質向上の環境づくり］
各種研修会や学会等への参加機会の拡充や教育体制の充実などにより、全体の水準向上を図るとともに、資質向上に取り組める環境づくりに努める。

２　資質向上の環境づくりについて

◆主な取り組み

◇看護部における活動	○「あたたかさと安心の看護を実践します」を理念として、自己の臨床実践能力を評価するシステムとして「クリニカルラダー」を導入し、目標管理を行った。 【ねらい】 １　看護実践能力を評価し、意欲向上への動機付け ２　教育的サポート基準の導入 ３　仕事の満足度向上 ４　個々の看護師のキャリア開発を支援 ５　看護実践能力を高めることにより、より良いケアの提供 ＊目標管理による目標面接等に使用 ○看護管理検討会（看護部長）、看護部教育企画委員会（師長）、看護研究指導委員会等を定期的に開催し、業務課題について検討を行った。 ○病院経営参画に係わる取組として、研修会参加後における振り返り実践シートの取組を行った。 ○平成２２年１月６日に県立医科大学看護学部において「第２３回県立病院看護研究発表会」を開催し、各テーマに基づいた研究報告を行い活発な意見交換を行った。

【第２３回県立病院看護研究発表会】

病院名	研究テーマ	研究者
矢吹病院	◇頑固に退院を拒否する患者の関わりを通し見えてきたこと	○北澤利江
	◇身体拘束中断基準の有効性～拘束中断基準スコア表を導入して～	○増子宗宏、菅野慎一、相楽昌寿
	◇退院の見通しがない精神科長期入院患者が願うこととは	○大津久美
	◇職場で暴力を受けた精神科看護師が望むサポートとは～暴力発生後にディブリーフィングを実施して～	○渡辺真成、安生朝子、小林由美子、相楽昌寿、佐久間せい子、菅野慎一、鈴木泰子、関根洋子、長谷川玲子
喜多方病院	◇入退院をくり返し、化学療法を受ける患者と家族の思いの実態	○清川智子、中川みどり
会津総合病院	◇ワーファリン内服治療中患者のビタミンＫ含有食物への認識と摂取状況に対する調査	○押部香澄、近藤タカ子
	◇手術室看護師の看護実践能力獲得の実態	○安達法子、齋藤恵美子、川崎優子
	◇家族の立場に立って死後のケアを考える～看護師の意識調査から～	○鈴木祐子
宮下病院	◇Ｂ病院におけるせん妄ケア改善	○佐藤あゆみ
	◇胃内視鏡検査における不安に関する実態調査	○冨田佳加

南会津病院	◇口腔ケアに対する家族の満足度	○湯田貴子、佐藤由利、湯田真紀
大野病院	◇病院における人工膝関節全置換術後の眠剤服用を希望した患者の体験	○金山敬子
	◇清潔ケアに対する患者ニーズと看護師が考えている患者のニーズ	○渡邊恵美、本山恵子
	◇A病院における看護師の標準予防策に関する行動の実態と認識	○大橋純子、川村真理子

◇収益確保プロジェクトチーム	○事務部門の実務担当者レベルで、経営改善に向けた対応策を検討するため、診療報酬制度や契約関係などの様々な角度から、収益確保や費用削減に向けた検討を行った。（５回開催）

【実施状況】

回数	検討内容
第１回	◇医事業務委託内容、医療クラーク、施設基準、ＤＰＣ
第２回	◇講演「収益確保に向けた医事部門の在り方と医事業務委託」
第３回	◇医事業務論点整理、診療報酬改定、インフルエンザ対応
第４回	◇医事業務の在り方論点整理、診療報酬改定
第５回	◇改革プラン進行管理、収益確保プロジェクト報告書

◇ランチタイムミーティング	○病院局職員で昼食時を利用した若手職員の自主勉強会を実施し、横の連携を強化しながら、業務の活性化を図った。（６回開催）

【実施状況】

回数	内容
第１回	◇改革プラン行動計画について
第２回	◇ＤＰＣとは何なのか～誰でもわかるＤＰＣ平成２１年度版
第３回	◇県立病院における医師確保の取組について
第４回	◇平成２０年度県立病院の決算について
第６回	◇病院事業会計と起債について
第７回	◇県立病院の医療安全対策について

○共通目標指標

資格取得者支援者数 ↗

２１年度目標値　２０人

２１年度実績値　３８人

２２年度目標値　２０人

２３年度目標値　２０人

目標２	職員の意識改革	目標値達成状況		取組状況	
		【３】	目標値をほぼ達成できた	【３】	取り組んでいる

［病院経営研修会の開催］

職員一人一人の経営に対する意識改革を図るため、職員が病院経営に主体的に参加することが重要なことから、経営改善に関わる病院経営研修会を開催する。

［職員満足度調査の実施］

職員のモチベーションの向上を図るため、満足度調査を行い、問題点を把握し改善を行うことで、働きがいを感じる良好な職場環境づくりに努める。

○平成２１年度の取組状況

１　病院経営研修会について

医療を取り巻く環境について意見交換を行うため、各病院を訪問して「第１回病院経営セミナー」を開催し、最近の医療行政の動向として、「地域医療再生計画」について説明を行った。

◆「病院経営セミナー」

病院名	開催日	テーマ
矢吹病院	１２月１７日	◇医療観察法の状況について ◇地域医療再生計画について
喜多方病院	１２月２２日	◇地域医療再生計画について 会津地域ＩＴネットワーク構想
会津総合病院	１２月　４日	
南会津病院	１２月２１日	◇病院のイメージアップを図るには
宮下病院	１２月１０日	◇地域医療再生計画について 会津地域ＩＴネットワーク構想
大野病院	１２月１６日	◇地域医療再生計画について 相双医療圏の現状と課題

２　職員満足度調査について

◆各病院における職員提案制度を通じて、職員一人ひとりの病院経営に対する参画意識が高まっている。

◆業務改善及び職員の資質向上等を目的とした課題・目標管理を実施し、特に評価の高かった取り組みについて表彰を行い、職員のモチベーション向上を図ってきた。

○共通目標指標

職員提案件数

２１年度目標値	２１年度実績値	２２年度目標値	２３年度目標値
１４０件以上	１０５件	１５５件以上	１６５件以上

□目標１：人材の育成と確保（各病院の取組状況）

<table>
<tr><th>番号</th><th>取組機関</th><th>アクションプラン</th><th>取組内容</th><th>進捗状況</th><th>取組評価</th></tr>
<tr><td>1</td><td>共通取組</td><td>◇各分野のスペシャリストの育成</td><td>病院内の組織の活性化と職員のモチベーションの向上を図るため、業務推進に当たってのリーダーを育成するとともに、職員の資質向上を図ることを目的に、医療スタッフの専門的で高度な知識や技能の習得を計画的に進める。</td><td>○認定看護師の取得状況（平成２２年６月末日現在）
<table>
<tr><td>病院名</td><td>認定分野</td></tr>
<tr><td>会津総合病院</td><td>集中ケア１名</td></tr>
<tr><td>大野病院</td><td>感染管理１名</td></tr>
</table>
○各病院の資格取得状況
<table>
<tr><td>病院名</td><td>資格取得における状況</td></tr>
<tr><td>矢吹病院</td><td>○精神科看護修士を１名が取得。</td></tr>
<tr><td>喜多方病院</td><td>○看護教員養成講習会を１名が受講。</td></tr>
<tr><td>会津総合病院</td><td>○現在の資格取得者
認定看護師（集中ケア）１人、ＮＳＴ専門栄養士２人（Ｈ２１は１人）

○今後の認定看護師取得予定（糖尿病看護１人、感染管理１人）</td></tr>
<tr><td>宮下病院</td><td>○ＢＬＳ資格を９名が取得。</td></tr>
<tr><td>南会津病院</td><td>○看護教員養成講習会を１名が受講。

○特定化学物質・四アルキル鉛作業主任者を４名が取得。

○ＢＬＳ ＨＣＰコースを１７名が取得。ＡＣＬＳを２名が取得。

○医療安全管理者養成研修１名が受講</td></tr>
<tr><td>大野病院</td><td>○認定看護師（感染管理）の資格を１名取得（平成２２年６月）</td></tr>
</table></td><td>3</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td>◇人材育成のための各種研修会への参加や院内教育の充実</td><td>職員の資質向上と組織全体の活性化のため、各種研修会や学会等への参加機会の拡充を図るとともに、病院内における職員教育・研修計画に基づき各種研修会等を定期的に開催する。</td><td>○各病院の実施状況
<table>
<tr><td>病院名</td><td>実施状況</td></tr>
<tr><td>矢吹病院</td><td>○精神障がい者地域生活移行支援特別対策事業に取り組んだほか、院内リハビリテーション組織に「心理教育部」を立ち上げて、社会復帰支援体制を強化することとした。

○目標管理委員会を年１４回実施しており、各レベルに応じた自己評価・師長評価を実施して能力向上を図っている。</td></tr>
<tr><td>喜多方病院</td><td>○主な院内研修会
<table>
<tr><td>人工呼吸器の使用方法（１回）</td><td>ＢＬＳ（１回）</td></tr>
<tr><td>血液疾患について（４回）</td><td>伝達研修（４回）</td></tr>
<tr><td>心電図の読み方（１回）</td><td></td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>会津総合病院</td><td>○栄養サポートチーム（ＮＳＴ）の充実を図るため、毎月ＮＳＴ勉強会を開催している。

○業務改善及び職員の資質向上を目的とした課題・目標管理の取組みが２０件行われ、特に評価の高かった取組みについて表彰した。</td></tr>
</table></td><td>3</td></tr>
</table>

<table>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>
<table>
<tr>
<td>宮下病院</td>
<td>○各種研修会等への参加状況
<table>
<tr><td>５月１９日～２８日</td><td>医療安全管理者養成研修（２名受講）</td></tr>
<tr><td>７月３日</td><td>感染管理セミナー（１名受講）</td></tr>
<tr><td>７月９日</td><td>県看護協会研修（感染管理）（２名受講）</td></tr>
<tr><td>８月８日～９日</td><td>全国看護セミナー（感染予防と看護ケア）（１名受講）</td></tr>
<tr><td>１０月２日～３日</td><td>医療安全管理者フォローアップⅡ(１名受講)</td></tr>
<tr><td>１０月１５日</td><td>高度在宅看護技術実務研修（１名参加）</td></tr>
<tr><td>１１月２日～１６日</td><td>高度在宅看護技術実務研修（１名参加）</td></tr>
<tr><td>１月７日</td><td>高度在宅看護技術実務研修（１名参加）</td></tr>
<tr><td>１月２５日～２６日</td><td>院内感染対策講習会（１名受講）</td></tr>
</table>
○院内教育・研修等の実施状況
<table>
<tr><td>４月２日～３日</td><td>新・転入職員オリエンテーション</td></tr>
<tr><td>７月２４日・３０日</td><td>接遇研修Ⅰ</td></tr>
<tr><td>９月１７日</td><td>院内感染防止研修</td></tr>
<tr><td>１０月２８日
１１月１１日</td><td>個人情報保護・診療録管理研修</td></tr>
<tr><td>１月２８日</td><td>医療安全研修</td></tr>
<tr><td>３月１５日・２３日</td><td>接遇研修Ⅱ</td></tr>
<tr><td>毎月</td><td>看護部教育委員会</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
<tr>
<td>南会津病院</td>
<td>○クリニカルラダー別院内研修会（年間２３回開催　延べ３９５人参加）

○看護教員養成講習会に参加

○看護研究発表会（全国自治体病院学会１名、全国自治体協議会福島県学会１名、病院局看護研究発表会１名）</td>
</tr>
<tr>
<td>大野病院</td>
<td>○褥瘡対策として、山形県 舟山病院 鬼満先生を講師に「舟山病院におけるＮＳＴ活動と褥瘡管理」と題した勉強会を開催した。

○看護部教育委員会、看護研究委員会とも月１回開催（看護研究委員会の最後の１回は研究発表会を兼ねて開催）した。

○看護部の伝達研修
<table>
<tr><td>看護部全員を対象</td><td>６回開催</td></tr>
<tr><td>病棟単位</td><td>１０回開催</td></tr>
</table>
○事務部の勉強会
<table>
<tr><td>５回開催</td><td>医療情報の開示や複式簿記について</td></tr>
</table>
</td>
</tr>
</table>
</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>矢吹病院</td>
<td>◇県立医大看護学部企画の「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の積極的参加</td>
<td>職員の資質向上に取り組む環境づくりを進めるため、地域ケアに必要な知識・技術の習得や事例検討、実践によって、長期在院精神疾患患者に対する看護のレベルアップを目指す「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」への参加を促進する。</td>
<td>○社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム
目標を大きく上回る４０人が参加した。</td>
<td>5</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr><td>4</td><td>会津総合病院</td><td>◇既取得資格の更新に係る支援検討</td><td>病院経営上有益な資格を既に有する者に対して、その資格更新に係る経費の支援を検討する。</td><td>○資格更新に係る経費の支援検討までには至らなかった。</td><td>1</td></tr>
<tr><td>5</td><td rowspan="3">病院局</td><td>◇資格取得支援</td><td>専門的な知識と技能を持った職員の育成を図るため、全職種で資格取得等のスキルアップの支援体制を確立する。</td><td>○認定看護師をはじめとした職員の専門性向上への支援を実施した。
（２２年度においても認定看護師取得への支援を行う。）</td><td>3</td></tr>
<tr><td>6</td><td>◇民間実務経験者の採用</td><td>これまで培った豊富な経験や専門知識を活用しながら、県立病院の経営改善を図るため、病院経営の管理・監督、企画立案、医療事務等の能力を備えた民間実務経験者を採用する。</td><td>○１２月２５日に民間実務経験者の採用試験を実施したが、該当者はいなかった。</td><td>3</td></tr>
<tr><td>7</td><td>◇経営感覚を持った職員の育成</td><td>経営感覚を持った職員の育成を図るため、初任者研修会や部門横断的な研修会等でワークショップを開催し、各職員が主体的に業務の問題点を洗い出すとともに、解決策を見いだしていく。</td><td>○病院局内で昼食時を利用した若手職員の自主勉強会である「ランチタイムミーティング」を開催し、各担当者の業務遂行状況や課題等について報告してもらい、お互いの業務について共通認識を持って意見交換を行い、横の連携を強化しながら局内の活性化を図った。

<table><tr><th>開催</th><th>プレゼン内容</th></tr><tr><td>第１回</td><td>◇改革プラン行動計画について</td></tr><tr><td>第２回</td><td>◇ＤＰＣとは何なのか～誰でもわかるＤＰＣ平成２１年度版～</td></tr><tr><td>第３回</td><td>◇県立病院における医師確保の取組について</td></tr><tr><td>第４回</td><td>◇平成２０年度県立病院の決算の状況について</td></tr><tr><td>第５回</td><td>◇病院事業会計と起債について</td></tr><tr><td>第６回</td><td>◇県立病院の医療安全対策について</td></tr></table></td><td>3</td></tr>
</table>

□目標２：職員の意識改革（各病院の取組状況）

<table>
<tr><th>番号</th><th>取組機関</th><th>アクションプラン</th><th>取組内容</th><th>進捗状況</th><th>取組評価</th></tr>
<tr><td>8</td><td>共通取組</td><td>◇職員提案制度の実施</td><td>職員の病院経営への参加意識の向上を図るため、患者サービスの向上や業務の効率化、経費の削減・収益の向上に向けた職員提案制度を充実する。</td><td>○各病院の実施状況
<table>
<tr><th>病院名</th><th>実施状況</th></tr>
<tr><td>矢吹病院</td><td>○職員提案　８件
○医療安全や訪問看護、薬剤などの院内広報活動を実施している。
○目標管理委員会
年１４回実施（各レベルに応じた自己評価・師長評価を実施）。</td></tr>
<tr><td>喜多方病院</td><td>○平成２２年度の年間行動指針について職員公募を実施し策定（６４件）
○行動指針は職員のネームプレートの裏面に添付し、常時参照できるようにし、職員の意識向上を図っている。</td></tr>
<tr><td>会津総合病院</td><td>○職員提案　なし（２０年度には５件、平成１９年度に６件）
○課題・目標管理
２０件の取組みが行われ、特に評価の高かったものを表彰した。
○病院改善プロジェクト（平成２１年９月～）
院内の若手職員が病院運営及び経営の改善策などについて院長に提言等を行った。
その結果、「マンモ撮影時の女性看護師の立会い」が実現した。</td></tr>
<tr><td>宮下病院</td><td>○職員提案　１８件
○主な提案
<table>
<tr><td>診療部</td><td>「病床利用率の維持改善」、「放射線画像の検索を快適にする」、「献立のマンネリ化を防止しよう」</td></tr>
<tr><td>看護部</td><td>「癒しのある空間の提供」、「急変時の看護実践能力を高める」、「高血圧予防教室の開催」、「地域との看護連携がとれるシステムづくり」、「物品庫を整理して使いやすくしよう」、「退院調整スクリーニングシートの作成」、「看護の日イベント企画の実施」、「使いやすい包交車の工夫」</td></tr>
<tr><td>薬剤部</td><td>「ジェネリック薬品採用に係る基準づくり」、「内服薬の簡易懸濁法による新たな取組」</td></tr>
<tr><td>事務部</td><td>「業務委託費削減の取組」、「忘れ物等拾得物削減の取組」、「見やすい掲示板づくり」</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>南会津病院</td><td>○職員提案　１１件
（２月を職員提案月間と定め提案を促した結果、提案が増加）
年度毎の行動指針の応募数と合わせて３２件の提案があった。</td></tr>
<tr><td>大野病院</td><td>○職員提案　なし
○院内広報紙「ほすぴたる通信」
３回発行。県立病院改革プランや２０年度決算の状況を掲載し、病院経営の視点の醸成等、職員の意識向上に取り組んだ。</td></tr>
</table></td><td>3</td></tr>
</table>

9	病院局	◇病院経営セミナーの開催	職員一人一人の病院運営への主体的参加の意識を促すため、医療を取り巻く環境について、各病院職員に周知するセミナーの実施などにより、病院経営の情報の共有化を図る。	○６病院合わせて２６０人程度の参加があり､今後の病院経営への前向きな質問や病院局に対する厳しい意見が出るなど、核となる現場職員と率直な意見交換を行った。 今後も継続して情報提供を行い、お互いに知恵と力を出し合い創意工夫を行いながら、地域と密着した病院運営を行っていく。 【実施状況】（下表）	3

【実施状況】

日程	病院名	内容	参加人数
１２月　４日	会津総合病院	◇地域医療再生計画について 会津地域ＩＴネットワーク構想	１２０人
１２月１０日	宮下病院	◇地域医療再生計画について 会津地域ＩＴネットワーク構想	２２人
１２月１６日	大野病院	◇地域医療再生計画について 相双医療圏の現状と課題	５０人
１２月１７日	矢吹病院	◇医療観察法の状況について ◇地域医療再生計画について	３０人
１２月２１日	南会津病院	◇病院のイメージアップを図るには 民間病院の視察を通じて	３１人
１２月２２日	喜多方病院	◇地域医療再生計画について 会津地域ＩＴネットワーク構想	１９人
		合計	２７２人

基本方針５：地域との連携・共生（地域連携の視点）

改革プラン方針		平成２１年度取組状況及び自己評価			
地域のニーズに対応した質の高い医療の提供や収益確保のため、各地域の医療機関や介護福祉施設等との役割分担を図りながら、連携を一層強化していく。 　また、地域に親しまれる病院を目指して、地元市町村をはじめとする保健・医療・福祉等の行政機関や各種企業・団体との連携を強化し、地域住民との交流や連携事業を積極的に行う。					
目標１	地域医療機関等との連携	目標値達成状況評価		取組状況評価	
		【３】	目標値をほぼ達成できた	【４】	積極的に行われている

〔紹介率の向上〕
　紹介率を向上させながら患者数の増加を図るため、地域の医療機関等との機能分担や訪問を通じての顔の見える連携を積極的に進める。

［社会復帰に向けた体制整備］
　患者さんを地域全体でサポートしていくため、医療機関や保健・介護福祉施設、行政機関との連携を強化し、患者さんが適切な治療を受け早期の社会復帰を果たせるような体制整備を図る。

［医師派遣等による支援機能発揮］
　へき地医療拠点病院として、国保診療所や介護保健施設への医師派遣による診療応援を実施するなど、地域の病院等との相互協力・支援の取組みを充実する。

○平成２１年度の取組状況

１　地域医療連携について

◆　地域の医療・保健・福祉・消防機関への医師の専門分野の紹介や院内行事等の広報活動を通じて、地域の医療機関等との連携を強化し、紹介率の向上に努めてきた。

◆　患者さんの退院支援にも取り組み、逆紹介率の向上を図るなど後方支援にも努めてきた。

【紹介率・病床利用率の状況】

	矢吹病院	喜多方病院	会津総合病院	宮下病院	南会津病院	大野病院
紹介率	15.8%	18.0%	21.8%	8.7%	13.4%	18.2%
病床利用率	70.6%	85.1%	51.3%	55.9%	50.1%	27.2%

２　医師派遣等による支援機能について

◆　会津総合病院は、「へき地医療拠点センター病院」として、宮下・南会津・喜多方病院等へ医師派遣を行って、地域に不足している医療の提供に努めた。

◆　宮下病院と南会津病院は、診療圏唯一の「へき地医療拠点病院」として常勤医師の確保を図り、地域の診療所や介護施設への診療応援を行い、患者情報の共有化を進めながら相互協力・連携のもとに、地域の特性に応じた医療の提供を行った。

【医師の派遣状況】

矢吹病院	○矢吹救護院天風寮「緑風園」　嘱託診療（２４回／年） ○特別養護老人ホーム「寿光園」　嘱託診療（３６回／年） ○福島県太陽の国病院　嘱託診療（２４回／年）
会津総合病院	○宮下病院（整形外科・耳鼻科・皮膚科・神経精神科）、南会津病院（神経精神科・神経内科）、喜多方病院（整形外科）に非常勤医師派遣
宮下病院	○柳津町国民健康保険診療所（毎週月曜日に１名派遣（４６回／年）） ○金山町国民健康保険診療所（毎週火曜日から金曜日１名派遣（１９２回／年）） ○特別養護老人ホーム桐寿苑（毎週金曜日に１名派遣（４７回／年））
南会津病院	○只見町国民健康保険朝日診療所（整形外科の診療応援２４回、当直応援７回）

［地域生活移行に向けた体制整備］
患者さんの地域生活移行に向けた体制の充実を図るため、ボランティアによる地域住民との交流やグループホームなどとの連携を強化する。

３　地域生活移行に向けた体制整備について

◆　矢吹病院における取組み

◇医療相談関係	○「入院医療中心から地域生活中心へ」という精神保健医療福祉改革ビジョンの基本的な考え方を踏まえ、長期の社会的入院患者の退院、社会復帰の促進のために取り組んだ。 ○「精神障がい者地域生活移行支援特別対策事業」に取り組んだ。
◇心理教育部	○地域との連携や患者の地域生活移行への支援体制の強化を図るため、院内リハビリテーション組織において立ち上げた。
◇レクレーション療法部	○入院患者全員を対象にし、自発性を回復させ社会性を身につけるきかっけとなるような場を提供することを目標に実施。 ○７回実施（カラオケ大会、七夕飾り、ミニ運動会等）
◇作業療法部	○実施状況
◇デイケア医療部	○実施状況
◇訪問看護室	○個人宅の訪問の他にグループホームへの夜間訪問も行った。 ○登録者数６３人（平成２１年４月） ○実施状況

作業療法部 実施状況

Ｈ２１年度	Ｈ２０年度	平成１９年度
１３，７４１人	１４，４６２人	１６，０１１人

デイケア医療部 実施状況

Ｈ２１		Ｈ２０	
延べ人数	登録者数	延べ人数	登録者数
３，７９０人	４４人	３，９５４人	５０人

訪問看護室 実施状況

Ｈ２１年度	Ｈ２０年度	平成１９年度
１，８２０人	１，７７６人	１，４０５人

○共通目標指標

紹介率

２１年度目標値	２１年度実績値	２２年度目標値	２３年度目標値
１８％以上	１６.７％	１９％以上	２０％以上

病床利用率（一般）

２１年度目標値	２１年度実績値	２２年度目標値	２３年度目標値
５４％以上	４７.６％	５９％以上	６８％以上

目標２	県民への情報提供	目標値達成状況評価		取組状況評価	
		【－】	目標値の設定なし	【２】	消極的である

［効果的な情報発信］
地域に親しまれる病院となるため、院外広報誌の発行等を通じて医療に関する情報や院内活動などの情報発信に取り組む。

［出前講座等の実施］
地域に信頼される病院を目指し、行政や団体機関等における講演会等への講師派遣、各県立病院が主催する研修会や出前講座などのイベントなど、職員が積極的に地域に出向いた活動を行う。

○平成２１年度の取組状況
１　情報発信について
◆　ホームページの定期的な更新や市町村広報誌への記事掲載、院内外情報誌の発行を通じて、医師の紹介や院内イベント、診療情報等の積極的な発信に心がけた。

【院外広報誌発行状況】

矢吹病院	○「彩雲」の発行（２回）
大野病院	○「望双」の発行（６回）
病院局	○「県立病院ニュース」発行（２回）

２　出前講座等の実施について
◆市民公開講座
日本消化器病学会東北支部（平成２１年度は会津総合病院が事務局）の市民公開講座を下記のとおり開催した。

名　　称	日本消化器病学会東北支部 第５３回市民公開講座 「消化器がん治療の現況～どこまで進歩しているの～」
日　　時	平成２１年１０月１８日（日）
場　　所	会津大学講堂
内　　容	１　『がんが見えるＰＥＴ』 ◇竹田綜合病院　放射線科　間島一浩　医師 ２　『内視鏡による早期胃がんの切除（内視鏡的胃粘膜剥離術）～腹を切らずに治せるがんもあります～』 ◇福島県立宮下病院　内科　黒澤正喜　医師 ３　『抗がん剤治療～がん治療における抗がん剤の役割～』 ◇福島県立会津総合病院　外科　竹重俊幸　医師 ４　『がんワクチン療法～第４のがん治療法～』 ◇福島県立医科大学　臓器再生外科（旧第一外科）　木村　隆　医師 ５　『新しい放射線治療～陽子線治療について～』 ◇南東北がん陽子線治療センター　不破　信和　医師 ６　『がんの緩和医療・緩和ケアとは～がんになったら、「緩和ケア」～』 ◇会津中央病院　外科　島貫　公義　医師
参加者数	２６０名程度

◆出前講座
地域住民の健康づくりなどに役立たせるため、医師、看護師・薬剤師・栄養士等の病院スタッフが地域に出向いて出前講座を実施した結果、地域住民と接する機会が増加し、交流を深めることができた。

【出前講座実施状況】

病院名	実施件数	内訳
宮下病院	２４回	三島町１３回（参加者数２９８名） 金山町　１回（参加者数　５２名） 柳津町１０回（参加者数３１７名）
大野病院	８回	大熊町　３回（参加者数　６０名） 双葉町　３回（参加者数１９２名） 葛尾村　１回（参加者数　３０名） 楢葉町　１回（参加者数　２５名）

◆院内アメニティの充実

病院に来院される患者様らが、より心豊かに和やかに過ごしていただけるよう、季節の風物詩やきれいな花などを通して、癒しの空間づくりを行った。

【院内展示状況】

喜多方病院	○病院玄関前に花の植栽（花いっぱいの環境づくり）
宮下病院	○七夕飾り、お月見飾り、クリスマス飾り、正月飾り、雛飾り ○病院敷地内に四季折々の草花の植栽
南会津病院	○桜、鯉のぼり、ハロウィーン、クリスマスツリー、お正月、ひな人形
大野病院	○七夕飾り、クリスマス飾り ○大野病院ギャラリー（１４回） ○地域住民からの寄贈あった絵画・美術工芸品の正面玄関への展示

◆その他取組み

院内で健康講座や看護の日のイベント、バザー、ミニコンサート、ふれあい写真展などを開催し、地域の人々に講話や音楽を楽しんでもらいながら病院を身近に感じてもらう取組を行った。

【その他イベントの状況】

矢吹病院	○院外講演 ○クリスマス会
喜多方病院	○健康講座 ○ミニコンサート（病院職員によるサクソフォーンとピアノ演奏） ○バザー（収益金６２，７７０円は日本ユニセフ協会に寄附） ○ふれあい写真コンクール（４３名の応募・病院長賞やほのぼの賞の選定）
会津総合病院	○市民公開講座 ○会津若松市健康祭り参画、栄養教室 ○消防本部との意見交換
宮下病院	○看護の日イベント ○フルートによる七夕・クリスマスコンサート ○院内健康教室（転倒予防・インフルエンザ予防・高血圧予防）
南会津病院	○学術セミナー
大野病院	○看護フェアー、敬老の日関連イベント、クリスマスハンドベル演奏

□目標１：地域医療機関等との連携（各病院の取組状況）

<table>
<tr><th>番号</th><th>取組機関</th><th>アクションプラン</th><th>取組内容</th><th>進捗状況</th><th>取組評価</th></tr>
<tr><td>1</td><td>共通取組</td><td>◇地域の医療機関、介護施設、訪問看護ステーション等との連携強化</td><td>地域の医療機関や保健･介護福祉施設と連携を強化し、新規患者数の増加を図るとともに、退院支援体制を構築する。</td><td>○各病院の取組状況
<table>
<tr><th>病院名</th><th>取組状況</th></tr>
<tr><td>矢吹病院</td><td>○紹介率は目標を下回ったが、病床利用率は目標値を上回った。
○介護施設等の訪問
年１６回（延べ３６回）
（北天寮、地域活動支援センター「こころん」、グループホーム「こころんホーム・ケアホーム」など）</td></tr>
<tr><td>喜多方病院</td><td>○地域医療連携室による市内の病院・診療所等の訪問強化
２１年４月から血液専門外来の標榜に伴い、血液疾患の入院患が増加し、特に、化学療法措置の患者の入・退院が増加したため、地域医療連携室の活動をさらに活性化させた。
○社会福祉施設会議への参加
○消防署、保健福祉事務所などの行政機関を訪問。
○なお、新型インフルエンザ感染拡大防止の観点から、各医療機関への訪問は中止。</td></tr>
<tr><td>会津総合病院</td><td>○当院の医療機能、医師の専門分野等を情報提供。
○平成２１年度の紹介率は２１.８％、逆紹介率は２９.１％。
○会津地方の医療機関等への訪問　２４箇所。</td></tr>
<tr><td>宮下病院</td><td>○地域連携推進担当（兼務で配置）
地域の医療・保健・福祉施設との連携強化を図り、定期的な情報交換を図るため、２１年７月に合同ケア会議を設置した。
○医療・保健・福祉関係機関連絡会議
２回（１１月５日、３月８日）
○認知症サポーター養成講座への講師派遣
６月３０日　認知症キャラバンメイト養成研修（４名受講）
○医療講演会への医師派遣
７月２９日　「うつについて」（宮下病院等後援会総会）
２月２５日　「薬物乱用防止教室」（郡山市日和田小学校）</td></tr>
<tr><td>南会津病院</td><td>○地域医療協議会は、平成２２年２月１７日に、保健所長、郡医師会長、地方町村会事務局長、町副町長、消防本部消防長の出席を得て開催した。
○南会津地方広域市町村圏組合地域医療支援センター
院内に設置されているセンターのチャンネルを介して介護施設等と連携している。</td></tr>
<tr><td>大野病院</td><td>○病院・診療所・介護施設等の訪問
内科病棟の入院態勢が整った３月に実施し、外科の PR 等を行った。
○双葉厚生病院への応援　３９回実施（外科手術）
○南相馬市立総合病院夜間小児救急への小児科医師を派遣。
○同病院脳神経外科とは、送信システムによる画像診断連携を実施。
○総合磐城共立病院とは、同病院の地域連携機関として登録。</td></tr>
</table></td><td>3</td></tr>
<tr><td>2</td><td>矢吹病院</td><td>◇地域生活移行へ向けた支援体制の強化</td><td>地域医療担当部門を設置し、地域との連携や患者の地域生活移行への支援体制の強化を図る。</td><td>○長期入院患者の地域生活移行については、目標を上回る７名の移行となった。</td><td>5</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>3</td><td rowspan="2"></td><td>◇患者のグループホームへの円滑な移行</td><td>「入院医療中心から地域生活中心へ」という精神保健医療福祉改革ビジョンの基本的な考え方を踏まえ、長期の社会的入院患者の退院、社会復帰を促進するため、関係機関との連携を強化しながら、患者のグループホームへの円滑な移行支援を行う。
また、こうした取組みにより平均在院日数の短縮を図る。</td><td>○「地域障がい者地域生活移行支援特別対策事業」を実施した。
○院内リハビリテーション組織に、「心理教育部」を立ち上げて社会復帰支援体制を強化した。</td><td>5</td></tr>
<tr><td>4</td><td>◇県立医大看護学部との共同研究実施による患者の地域生活移行に向けた活動の強化</td><td>県立医科大学看護学部との共同研究では、入院患者を三群に分類し、社会復帰支援に向けたアプローチを行っているが、今後、リハビリテーション組織の在り方や会議の定期開催数などの見直しを図る。</td><td>○「在院短縮検討事業」
地域生活移行に向けて、県立医科大学看護学部との共同研究を実施。
（２２年度に、当該事業を受け継ぎ、地域連携をさらに推し進めるための委員会を発足させる予定）</td><td>5</td></tr>
<tr><td>5</td><td>会津総合病院</td><td>◇へき地医療拠点センター病院としての支援</td><td>喜多方病院、宮下病院、南会津病院へ診療応援を実施することで、へき地医療拠点センター病院としての役割を果たす。</td><td>○へき地医療拠点センター病院として、喜多方病院、宮下病院、南会津病院へ診療応援を行った。
○当院と只見町朝日診療所をＮＴＴ光回線及び画像診断システムを利用して、ＣＴ画像等の遠隔画像診断及びカンファランスを実施した（Ｈ２１年度　６４４件）</td><td>5</td></tr>
<tr><td>6</td><td>宮下病院
南会津病院</td><td>◇国保診療所への診療応援</td><td>常勤医師の確保・定着を図り、地域の国保診療所へ医師を派遣するなど、へき地医療拠点病院としての役割を果たす。</td><td>○宮下病院
<table>
<tr><td>柳津町国民健康保険診療所</td><td>毎週月曜日に代診医１名派遣（４６回／年）</td></tr>
<tr><td>金山町国民健康保険診療所</td><td>毎週火曜日から金曜日まで代診医１名派遣
（１９２回／年）</td></tr>
<tr><td>特別養護老人ホーム桐寿苑</td><td>毎週金曜日に管理医として医師１名派遣
（４７回／年）</td></tr>
</table>
○南会津病院
<table>
<tr><td>只見町国民健康保険朝日診療所</td><td>整形外科の診療応援で２４回、当直応援で７回の計３１回の診療応援を行っている。</td></tr>
</table>
</td><td>5</td></tr>
<tr><td>7</td><td rowspan="2">病院局</td><td>◇地域連携の取組に対する各病院への支援</td><td>各病院と連携を図りながら、地域連携の取組みへの支援を行う。</td><td>○地域の医療機関や医師会を訪問し、連携の協力をお願いした。</td><td>2</td></tr>
<tr><td>8</td><td>◇県立病院収益確保プロジェクトの実施（再掲）</td><td>平成２２年度診療報酬制度改定や、ＤＰＣ導入への対応、地域連携の強化による患者確保などに向けた対策を講じるため、経営改善に向けて組織されている病院経営検討会に、実務担当者レベルのメンバーを加え発展させ、定期的に部門横断的な検討を行い、具体的に取り組む。</td><td>○再掲</td><td>4</td></tr>
</table>

□目標２：県民への情報提供（各病院の取組状況）

<table>
<tr><th>番号</th><th>取組機関</th><th>アクションプラン</th><th>取組内容</th><th>進捗状況</th><th>取組評価</th></tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>共通取組</td>
<td>◇ホームページの充実と院外広報誌の発行</td>
<td>医療に関する情報や院内活動等を地域に幅広く伝えるため、ホームページの充実や院外広報誌の発行を通じて、情報発信機能の強化を図る。</td>
<td>◇取組状況
<table>
<tr><th>病院名</th><th>取組状況</th></tr>
<tr><td>矢吹病院</td><td>○ホームページ
アクセス件数　８，５０５件／年（目標８，４００件／年）
○院外広報誌「彩雲」
９月に第２号、３月に第３号を発行。
病院の理念や活動等を広報。
（院長主導による経営改善推進事業を活用して作成）</td></tr>
<tr><td>喜多方病院</td><td>○ホームページ
健康講座やふれあい写真コンクールなどの院内活動等を広報。</td></tr>
<tr><td>会津総合病院</td><td>○ホームページ
当院の医療情報及び院内活動等を広報。
○研修医の日々の研修内容などを紹介する、研修医の部屋ブログ版を開設した。</td></tr>
<tr><td>宮下病院</td><td>○ホームページ
新任医師の紹介や院内イベント、診療情報等の情報を発信。
アクセス件数は７,２５０件（１日平均１９．９件)。
○地元町村広報誌等への掲載
<table>
<tr><th></th><th>三島町</th><th>金山町</th><th>柳津町</th></tr>
<tr><td>掲載回数</td><td>１０回</td><td>８回</td><td>１４回</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>南会津病院</td><td>○ホームページ
ふれあいギャラリーの展示の情報など適宜更新し、情報発信した。</td></tr>
<tr><td>大野病院</td><td>○ホームページ
ＣＭＳで新規作成し、新たなメニューを７項目追加した。
年７２回更新。
○院外広報紙「望双」
６回発行（計画どおり）
（うち１回は、内科医師の病気入院に伴い、内科の入院患者の調整を行う際、大熊町、富岡町、川内村の町内会へ回覧板による広報を行った。）
○自治体発行広報紙への掲載
大熊町広報紙に掲載。
（新型インフルエンザの予防接種を当院で行っていることや、大野病院の医師公舎の修繕を町が実施することについて）
○その他ＰＲ
・初期被ばく医療訓練について新聞社へ情報提供（３紙で報道）。
・双葉地域の医療や大野病院の現状及び統合について、新聞社へ情報提供（特集記事として報道）。</td></tr>
<tr><td>病院局</td><td>○ホームページ
県立病院改革の動き等、定期的な更新を図りながら、情報提供。
○「県立病院ニュース」
<table>
<tr><td>７月</td><td>県立病院の経営状況</td></tr>
</table></td></tr>
</table>
</td>
<td>2</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td><table><tr><td></td><td><table><tr><td>１月</td><td>病院経営セミナーの話題</td></tr></table></td></tr></table></td><td></td></tr>
<tr><td>10</td><td></td><td>◇イベントの開催による地域住民との交流促進</td><td>健康講座や音楽コンサート等の開催、地元市町村等が主催する医療講演会等への職員派遣などにより、病院の持つ専門的な知識や最新情報を提供し、地域の方々の医療に関する理解促進と普及啓発を図る。</td><td>◇取組状況
<table>
<tr><th>病院名</th><th>取組状況</th></tr>
<tr><td>矢吹病院</td><td>○クリスマス会（１２月）
和太鼓愛好会６名の方にボランティアとして参加いただいた。</td></tr>
<tr><td>喜多方病院</td><td>○花いっぱいの病院環境づくり
<table><tr><td>６月中旬</td><td>ﾌﾟﾗﾝﾀｰに花苗を植え、病院玄関を飾った。</td></tr><tr><td>９月</td><td>新たに苗を準備し、咲き終わった苗と交換。</td></tr><tr><td>１０月中旬</td><td>来春の球根の植え付け（来年の準備）。</td></tr></table>
○健康講座
<table><tr><td>６月２７日、開催。　約１１０名が参加。</td></tr></table>
会津大学短期大学部安江教授による健康講話「防ごうメタボリックシンドローム」やサクソフォーンのミニコンサート、バザーなど
※バザーの収益金６２,７７０円は日本ユニセフ協会に寄附。
○ふれあい写真コンクール
<table><tr><td>応募期間</td><td>９月２４日～１０月２８日</td></tr><tr><td>テーマ</td><td>秋</td></tr><tr><td>応募者数・応募作品数</td><td>４３人、８２作品</td></tr></table>
※院内ふれあいコーナー及び１階廊下に設置した掲示板に展示した。病院長賞やほのぼの賞などの選定を行い、１１月の全体会に３名の方を招いて授賞式を行った。</td></tr>
<tr><td>会津総合病院</td><td>○会津地方３消防本部（会津若松、喜多方、南会津）との情報交換の開催
○第５３回日本消化器病学会東北支部（当院が事務局、会津大学を会場）において、「消化器癌治療の現況」と題する市民公開講座を開催した。
○会津若松市健康祭（会津若松市主催）に参画した。
○「きく・みる・たべる栄養教室」（会津若松市主催）に当院栄養士が講演を行った（５回開催）。</td></tr>
<tr><td>宮下病院</td><td>○院内イベントの開催
<table><tr><td>開催日</td><td>５月１２日（看護の日：ナイチンゲールの誕生日）</td></tr><tr><td>テーマ</td><td>「心ある地域医療を目指して」</td></tr><tr><td>主な内容</td><td>看護の日記念グッツの配付（絆創膏、タオルハンカチ等）、血圧・骨密度・腹回測定、血圧手帳を配付し、自分自身で記録し健康チェックに役立たせるよう指導・啓発を行った。</td></tr></table>
○心ある医療出前講座の開催
・地域住民の健康づくりなどに役立たせるため、病院のスタッフ（看護師・薬剤師・栄養士）が各地に出向いて講座を開いた。
<table><tr><td>三島町</td><td>１３回（参加者数　２９８名）</td></tr><tr><td>金山町</td><td>１回（参加者数　　５２名）</td></tr><tr><td>柳津町</td><td>１０回（参加者数　３１７名）</td></tr></table>
※参加者アンケートの結果は、概ね好評。
○心ある癒しの空間づくり
・患者様をはじめ来院される方々が、四季折々の風物詩や草花に触れ、より心豊かに和やかに過ごしていただけるよう、癒しの空間づくりを行った。
<table><tr><td>７月</td><td>七夕飾り（七夕コンサートも実施）</td></tr><tr><td>９月</td><td>お月見飾り</td></tr></table></td></tr>
</table></td><td>3</td></tr>
</table>

	｜１２月｜クリスマス飾り（クリスマスコンサートも実施）｜ ｜１月｜正月飾り｜ ｜３月｜雛飾り｜
南会津病院	○季節を感じる癒しの空間づくり事業 ・エントランスホールに、四季折々に合った装飾物を展示することで、患者の方々により心豊かに和やかに過ごしていただける空間を演出した。 ｜お正月｜正月門松２個｜ ｜ひな祭り｜ひな人形｜ ｜春｜桜スタンド、桜ポッド｜ ｜子どもの日｜鯉のぼり｜ ｜秋｜すすきアレンジ｜ ｜ハロウィーン｜かぼちゃオブジェ２個、パンプキンスワッグ｜ ｜クリスマス｜クリスマス・ツリー、オーナメント、星｜ ※中庭を修繕して整備するとともに、季節ごとに各種の装飾を行い、ふれあいギャラリーと連携してエントランスホール等における交流を促進した。 ○学術セミナー ４回開催 （うち１回は南会津地方広域市町村圏組合 地域医療支援センターと共催で南会津町御蔵入交流館で禁煙セミナーを実施。） ○南会津町主催の「救急フェア」への共催参加 今年度は新型インフルエンザの流行のため開催中止となった。
大野病院	○「大野病院ギャラリー」 病院ロビーに、地域住民の作品の展示コーナーを設置している。 今年度は、１４回の展示を実施した。 ○出前講座 ８回職員を派遣した。（院外広報紙等を利用してＰＲ） ○院内イベント ｜５月｜看護フェア｜ ｜７月｜七夕飾り｜ ｜９月｜敬老の日関連イベント｜ ｜１２月｜クリスマス飾り、職員によるハンドベル演奏｜ ※患者サービス向上委員会が計画・実施。 ○福島県原子力広報協会が主催する「原子力を考える」事業　エネルギーチャレンジフェスタに大野病院コーナーを出展し、訪れた地域住民との交流や病院の PR に努めた。 ○地域住民の病院に対する信頼、連帯感、感謝、地域住民が支える病院のイメージ醸成につなげるため、地域住民から寄贈のあった絵画、美術工芸品を病院正面入口にコーナーを設け展示した。

平成２１年度県立病院事業会計決算の概要

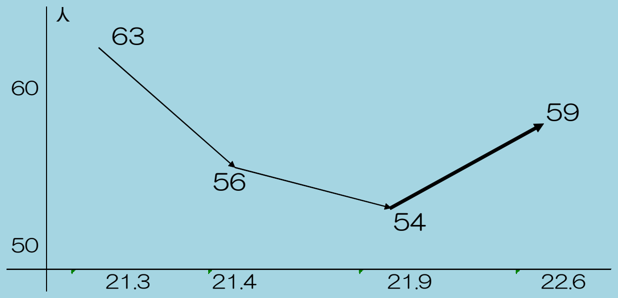
〇改革プランにおける経営健全化に向けた収支目標

目標１：単年度赤字の漸次解消を図り、平成２５年度までに収支均衡を目指す。
目標２：平成２３年度までに不良債務の解消を目指す。

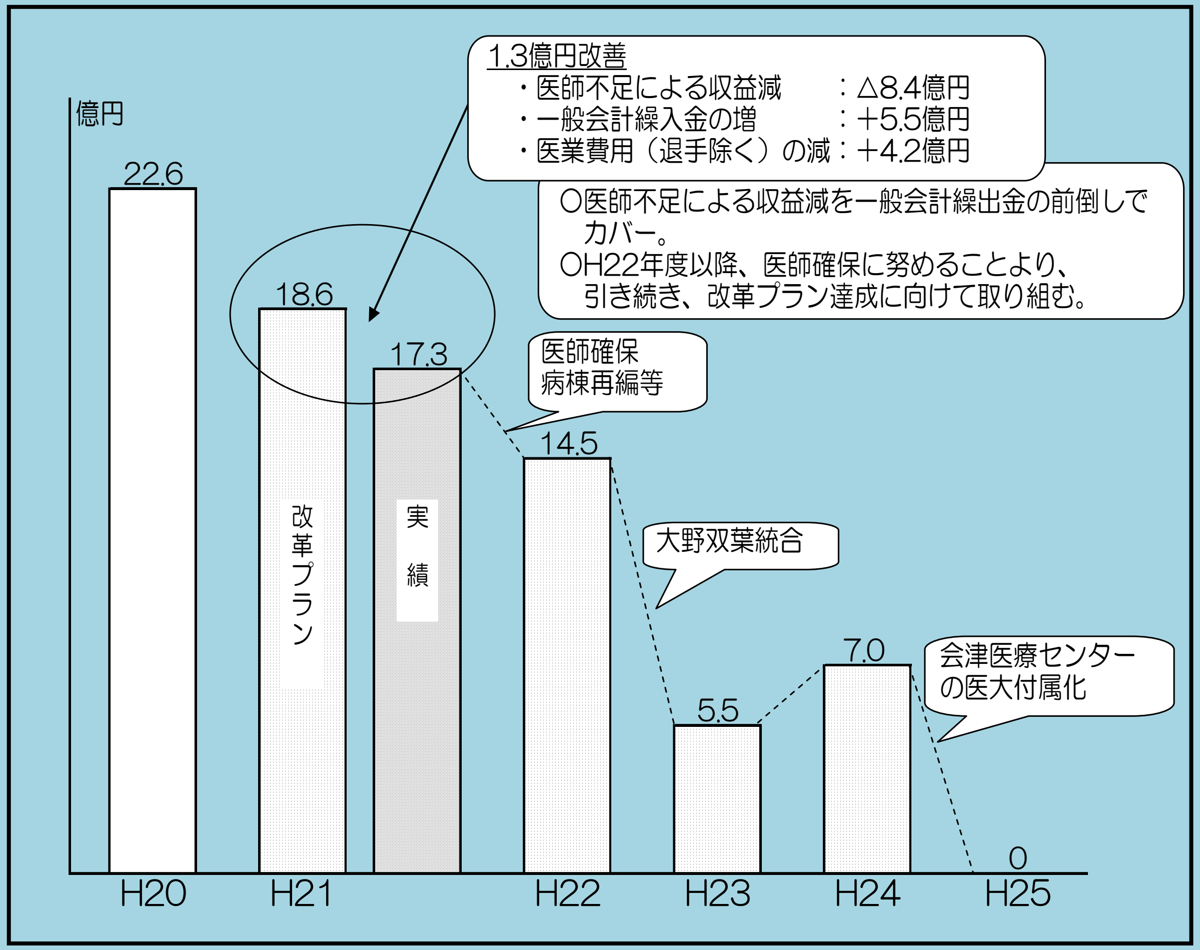
決算の概要

- 〇　平成２１年度の純損益は、17.3 億円の損失（前年比 5.3 億円の損失減）
- 〇　国の「地域活性化・経済危機対策臨時交付金」の活用により、一般会計から「県立病院事業支援経費補助金」14.2 億円を繰り入れたことによるもの。
- 〇　主な要因は、医師不足による入院収益の減（前年比 12.1 億円の減）、外来収益の減（前年比　1.3 億円の減）など。
- 〇　平成 22 年 6 月 1 日現在で医師数は 59 名であり、さらに、会津医療センター準備室を中心に医師確保に努めることにより、平成 22 年度以降、引き続き改革プランの達成に向けて取り組んでいく。

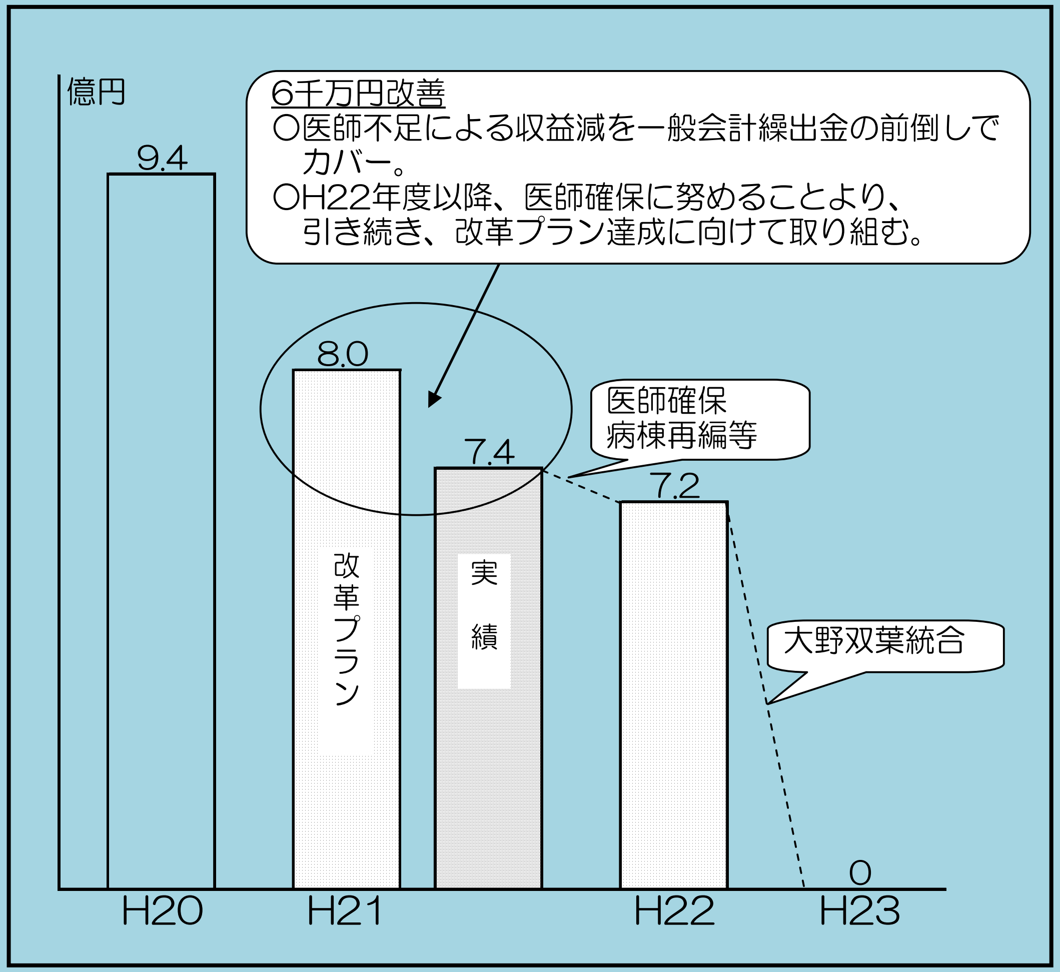
医師の状況



純損失



不良債務



収支計画について

平成２１年度実績	平成２１年度の取組状況及び自己評価

○県立病院事業の収支計画

（単位　百万円）

年度	21 計画	21 実績	22 計画	23 計画	24 計画	25 計画
総収益	11,582	11,734	11,629	10,535	10,168	5,110
医業収益	7,985	7,578	8,394	7,265	7,351	3,470
うち入院収益	4,950	4,038	5,337	4,608	4,794	2,177
うち外来収益	1,993	2,063	2,099	1,717	1,724	829
うち一般会計繰入	845	1,283	761	773	666	402
医業外収益	3,582	4,134	3,203	3,270	2,817	1,640
うち一般会計繰入	3,553	4,102	3,175	3,244	2,681	1,626
総費用	13,446	13,468	13,083	11,089	10,870	5,110
医業費用	12,938	12,956	12,600	10,606	10,610	4,850
うち給与費	8,092	8,345	7,691	6,777	6,743	3,202
うち材料費	1,650	1,499	1,762	1,516	1,553	592
うち経費	1,768	1,689	1,764	1,432	1,432	608
うち減価償却費	1,221	1,253	1,182	701	702	314
医業外費用	483	457	483	483	260	260
純損益	▲1,864	▲1,734	▲1,454	▲554	▲702	0
不良債務	804	743	721	0	0	0
経常収支比率	86.2%	87.3%	88.6%	95.0%	93.5%	100.0%
給与費対医業収益比率	101.3%	110.1%	91.6%	93.3%	91.7%	92.3%
うち一般病院	96.4%	106.9%	86.5%	87.1%	85.4%	82.6%
給与費対経常収益比率	70.0%	71.3	66.3%	64.3%	66.3%	62.7%
病床利用率（一般）	54%以上	47.6%	59%以上	68%以上	69%以上	73%以上

目標値達成状況自己評価			取組状況自己評価	
経常収支比率	【５】	目標値を上回った	【４】	積極的に行われている
職員給与比率	【２】	目標値を下回った	【３】	取り組んでいる
病床利用率	【３】	目標値をほぼ達成できた	【３】	積極的に行われている

○平成２１年度の経営状況

◇　医業収益は、改革プランと比較して約４億円の減少となっている。７対１（会津、南会津、宮下、大野）や１０対１（喜多方）の看護配置基準の維持や服薬指導の充実を図ることなどにより収益の確保を図ったが、医師不足に伴う診療体制の変更などに伴う入院、外来患者数が減少したことが影響した。

◇　医業費用については、薬品等の材料費が患者数の減少などにより減少したことや経費削減にも取り組んできたことから、費用の増加がおさえられた。

◇　医業外収益については、国の「地域活性化・経済危機対策臨時交付金」の活用による一般会計繰入金の増加などにより約５億円増加した。

◇　純損益は、１７億円の損失となっているが、改革プランと比較すると国の交付金などの活用により１.３億円改善されている結果となった。

○平成２２年度に向けた取組

◇　地域住民に対して良質な医療の提供を行うとともに、健全な病院経営を実現していく。

◇　改革プランに基づき、医師確保や収益確保に向けた取組みを継続して実施し、経営基盤の確立を図っていく。

◇　会津医療センター（仮称）の整備については、昨年度に引き続き実施設計を行うとともに、本年度中の建築工事の着工を行っていく。

◇　大野病院と双葉厚生病院の統合については、平成２３年４月の統合を目指して、ＪＡ福島厚生連をはじめ関係機関と具体的な協議を行っていく。

◇　平成２１年に策定された「福島県地域医療再生計画」を活用しながら、県立病院の機能向上を図っていく。

矢吹病院収支計画について

平成２１年度実績	平成２１年度自己評価

○矢吹病院

（単位　百万円）

年度	２１計画	２１実績	２２計画	２３計画	２４計画	２５計画
総収益	(984) 1,640	(1,344) 1,828	(973) 1,593	(979) 1,616	(1,240) 1,771	(1,321) 1,796
医業収益	866	1,061	856	861	1,011	1,204
うち入院収益	699	715	686	690	839	1,031
うち外来収益	160	163	163	164	165	166
うち一般会計繰入	0	174	0	0	0	0
医業外収益	774	759	737	755	760	592
うち一般会計繰入	771	756	735	752	646	590
総費用	1,640	1,828	1,593	1,616	1,771	1,796
医業費用	1,616	1,804	1,570	1,593	1,760	1,786
うち給与費	1,230	1,378	1,174	1,197	1,331	1,331
うち材料費	166	170	164	165	194	231
うち経費	118	140	117	116	116	116
うち減価償却費	90	95	102	106	110	99
医業外費用	23	23	23	23	11	10
純損益	(▲656) 0	(▲484) 0	(▲620) 0	(▲637) 0	(▲531) 0	(▲475) 0
経常収支比率	100.1%	99.6%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
給与費対医業収益比率	142.2%	129.9%	137.1%	139.0%	131.7%	110.5%
給与費対経常収益比率	75.0%	75.7%	73.7%	74.1%	75.2%	74.1%
病床利用率	70.4%	70.6%	68.4%	68.1%	85.7%	90.5%
入院１日当たり患者数	145.0 人	145.4 人	141.0 人	140.0 人	146.5 人	154.8 人
外来１日当たり患者数	65.1 人	61.2 人	65.9 人	66.3 人	66.3 人	66.3 人

（注）（　）書きの額は、政策医療に係る経費等を繰り入れる前の額

目標値達成状況自己評価		
経常収支比率	【５】	目標値をほぼ達成できた
職員給与比率	【２】	目標値を下回った
病床利用率	【５】	目標値を上回った

○平成２１年度の状況

◇　民間医療機関の充実や当院の立地条件、入院患者の高齢化、県南地域の人口減など当院を取り巻く環境が厳しくなっている中、収益の確保は厳しい状況である。

◇　平成 21 年度決算における総収益は 1,828 百万円で、対ﾌﾟﾗﾝでは 188 百万円の増収となったことに対して、総費用は 1,828 百万円で、対ﾌﾟﾗﾝ 188 百万円の増額となった。

◇　医業収益は 1,061 百万円で、このうち入院収益は 715 百万円で、対ﾌﾟﾗﾝ 16 百万円の増収、外来収益は 163 百万円で、3 百万円の増収となった。

◇　外来収益については、医薬品の長期投与の増加等によるものと考えらる。

◇　医業費用については、1,804 百万円と対改革ﾌﾟﾗﾝ比で 11.6%の増となった。要因は、退職手当の増加に伴う給与費の増加によるものである。

◇　一方、医業費用の主要な材料費及び経費の対改革ﾌﾟﾗﾝ比は、高額医薬品の使用や検査試薬の診療材料扱いなどにより、材料費が 2.4%の増（薬品費と診療材料費の増）、経費は 18.6%の増となっている。経費増の主な要因は、報償費（宿日直応援業務の増）や委託料（病院機能評価委託などによる増）の増によるものである。

◇　純損益は、△484 百万円と対改革ﾌﾟﾗﾝと比較すると 172 百万円改善しているが、「県立病院事業支援」で 166 百万円が繰り入れられた。

○平成２２年度に向けた取組

◇　改革ﾌﾟﾗﾝに基づき、収益の確保と費用削減などによる経営改善に努力していく。

◇　医療機関、福祉施設及び市町村との連携を強化し、積極的に患者を受け入れていく。

◇　在院期間短縮検討委員会の活動を継続して入院期間の短縮化に努め、引続き精神科地域移行実施加算（５点/日）の検討を行っていく。

◇　医療観察法に基づく指定入院医療機関の検討を進めていく。

◇　薬剤の長期投与が急速に進行してきたが、よりきめ細かな診療を行う意味から適切な処方期間を検討していく。

喜多方病院収支計画について

平成２１年度実績	平成２１年度自己評価

○喜多方病院

（単位　百万円）

年度	２１計画	２１実績	２２計画	２３計画	２４計画	２５計画
総収益	764	1,122	771	802	802	-
医業収益	717	962	724	755	755	-
うち入院収益	419	441	419	449	447	-
うち外来収益	269	287	276	277	278	-
うち一般会計繰入	0	205	0	0	0	-
医業外収益	47	159	47	47	47	-
うち一般会計繰入	46	158	46	46	46	-
総費用	1,029	1,297	1,037	1,053	1,053	-
医業費用	1,023	1,289	1,031	1,047	1,034	-
うち給与費	613	826	628	645	637	-
うち材料費	180	223	182	189	189	-
うち経費	166	166	166	162	162	-
うち減価償却費	58	62	49	44	38	-
医業外費用	6	6	6	6	1	-
純損益	▲265	▲175	▲266	▲251	▲233	-
経常収支比率	74.2%	86.6%	74.3%	76.2%	77.5%	-
給与費対医業収益比率	85.5%	85.9%	86.7%	85.4%	84.4%	-
給与費対経常収益比率	80.2%	73.7%	81.5%	80.4%	79.4%	-
病床利用率	90.0%	85.1%	90.0%	96.0%	96.0%	-
入院１日当たり患者数	45.0	42.5	45.0	48.0	48.0	-
外来１日当たり患者数	149.7	142.1	152.9	152.9	152.9	-

目標値達成状況自己評価

経常収支比率	【５】	目標値を上回った
職員給与比率	【３】	目標値をほぼ達成できた
病床利用率	【４】	目標値を達成できた

○平成２１年度の状況

◇　平成21年度決算における総収益は1,122百万円で、対ﾌﾟﾗﾝでは358百万円の増収となったことに対して、総費用は1,297百万円で、対ﾌﾟﾗﾝ268百万円の増額となった。

◇　医業収益は962百万円で、このうち入院収益は441百万円で、対ﾌﾟﾗﾝ22百万円の増収、外来収益は287百万円で、18百万円の増収となった。

◇　入院収益は、平均在院日数が19．9日（20年度は20．8日）確保でき、10対1入院基本料の施設基準21日以内は確保できた。

◇　外来収益は、診療日数の減（整形外科）や長期投与の増で平均通院日数の減少（△0．7日）などで患者数が減少した。このような中で、各種健診関係の受診者は増加しており、増収にもなっている。(⑲2537件　19,423千円→⑳2,854件　22,784千円→21年度は3,179件　25,269千円)

◇　医業費用については、1,289　百万円と対改革ﾌﾟﾗﾝと比較すると266百万円の増となった。

◇　給与費は、改革ﾌﾟﾗﾝと比で213百万円増加している。病棟再編により看護師が6名減となった一方で、退職手当が205百万円で前年度より120百万円増加したことなどが影響した。

◇　材料費もﾌﾟﾗﾝと比較すると43千円増加しているが、化学療法や血液疾患の患者の増加によるところが大きい。その分、診療単価のアップにもつながった。

◇　純損益は、△175百万円と対改革ﾌﾟﾗﾝと比較すると90百万円改善しているが、「県立病院事業支援」で113百万円が繰り入れられた。

○平成２２年度に向けた取組

◇　入院・外来患者数の確保のため、健診業務の確保・維持、強化を図っていく。

◇　地域医療連携室の活用を図り、より一層の地域医療連携を推進していく。

◇　院内感染や医療事故等のない、安全で安心できる地域医療の提供に努めていく。

◇　会津医療センター（仮称）へのスムーズな移行を確保するために、更なる患者サービスの向上に努めていく。

会津総合病院収支計画について

平成２１年度実績	平成２１年度自己評価

○会津総合病院

（単位　百万円）

年度	２１計画	２１実績	２２計画	２３計画	２４計画	２５計画
総収益	3,287	3,734	3,484	3,609	3,616	-
医業収益	2,808	2,595	3,007	3,132	3,139	-
うち入院収益	2,114	1,509	2,285	2,395	2,399	-
うち外来収益	575	612	602	618	620	-
うち一般会計繰入	44	406	44	44	44	-
医業外収益	477	1,130	477	477	477	-
うち一般会計繰入	466	1,112	466	466	466	-
総費用	4,554	4,673	4,533	4,563	4,517	-
医業費用	4,519	4,632	4,508	4,538	4,509	-
うち給与費	2,725	3,029	2,669	2,691	2,661	-
うち材料費	730	554	782	814	816	-
うち経費	665	620	662	662	662	-
うち減価償却費	359	369	356	330	330	-
医業外費用	25	32	25	25	8	-
純損益	▲1,267	▲939	▲1,049	▲954	▲901	-
経常収支比率	72.3%	79.9%	76.9%	79.1%	80.1%	-
給与費対医業収益比率	97.0%	116.7%	88.8%	85.9%	84.8%	-
給与費対経常収益比率	83.0%	81.3%	76.6%	74.6%	73.6%	-
病床利用率	51.3%	50.1	56.5%	59.5%	59.5%	-
入院１日当たり患者数	139.9	132.4	150.5	156.5	156.5	-
外来１日当たり患者数	372.1	369.9	387.9	396.5	396.5	-

目標値達成状況自己評価

項目	評価	内容
経常収支比率	【５】	目標値をほぼ達成できた
職員給与比率	【２】	目標値を下回った
病床利用率	【４】	目標値を達成できた

○平成２１年度の状況

◇　平成 21 年度決算における総収益は 3,734 百万円で、対ﾌﾟﾗﾝでは 447 百万円の増収となったことに対して、総費用は 4,673 百万円で、対ﾌﾟﾗﾝ 119 百万円の増額となった。

◇　医業収益は 2,595 百万円で、このうち入院収益は 1,509 百万円で、対ﾌﾟﾗﾝ 605 百万円の減収、外来収益は 612 百万円で、37 百万円の増収となった。

◇　入院・外来収益減の要因としては、ほとんどの診療科で患者数が減少（入院についてはすべての診療科で減少、外来については産婦人科のみ増加）したことによるものであり、これは、平成２１年４月から４名（心臓血管外科(休診)２名、整形外科１名、消化器内科１名の医師が減り、更に、１０月から消化器内科の医師１名が減ったことによるものと考えられる。

　なお、診療単価は対前年度比で入院が 5,348 円の減(△14.6%)、外来が 103 円の増(＋1.5%)となっており、手術件数は対前年度比で 995 件の減（△45.73%)となった。

◇　医業費用については、材料費が患者数の減少等により 176 百万円の減、経費が消耗品費、修繕費等の減により 45 百万円の減となった。

◇　純損益は、△939 百万円と対改革ﾌﾟﾗﾝと比較すると 328 百万円改善しているが、「県立病院事業支援」で 616 百万円が繰り入れられた。

○平成２２年度に向けた取組

◇　今後経営を改善していくためには、会津医療センター（仮称）開設を視野に入れた医師を確保しながら収益増を図っていくことが最も重要な課題であり、そのためには、今後とも病院局、県立医科大学をはじめ、自治医科大学とも連携も密にしていく。

◇　平成 22 年度については、平成 21 年 7 月から導入した DPC の対象病院として堅持をしていくため、「新入院（退院）患者の月 198 人以上確保」」を絶対目標として掲げるとともに、情報発信の強化による医療連携の推進、DPC に対応した医薬品のジェネリック採用拡大等コスト管理の推進、会津医療センター（仮称）の開設準備に向けた取組みを最重点目標として掲げて経営に取組んでいく。

宮下病院収支計画について

平成２１年度実績	平成２１年度自己評価

○宮下病院

（単位　百万円）

年度	２１計画	２１実績	２２計画	２３計画	２４計画	２５計画
総収益	(398) 593	(437) 618	(421) 603	(438) 604	(438) 593	(438) 592
医業収益	366	344	391	407	407	408
うち入院収益	203	179	219	235	234	234
うち外来収益	140	137	148	148	149	150
うち一般会計繰入	0	5	0	0	0	0
医業外収益	227	274	212	197	186	184
うち一般会計繰入	226	274	212	197	185	184
総費用	593	619	603	604	593	592
医業費用	589	613	599	600	589	588
うち給与費	353	378	356	356	344	344
うち材料費	69	63	74	77	77	77
うち経費	95	92	97	95	95	95
うち減価償却費	57	59	56	56	57	56
医業外費用	4	4	4	4	4	4
純損益	(▲195) 0	(▲181) ▲1	(▲182) 0	(▲166) 0	(▲155) 0	(▲154) 0
経常収支比率	100.0%	100.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
給与費対医業収益比率	96.4%	109.9%	91.0%	87.5%	84.5%	84.3%
給与費対経常収益比率	59.5%	61.1%	59.0%	58.9%	58.0%	58.1%
病床利用率	62.5%	55.9%	67.2%	71.9%	71.9%	71.9%
入院１日当たり患者数	20.0	17.9	21.5	23.0	23.0	23.0
外来１日当たり患者数	80.0	79.7	84.1	84.2	84.2	84.2

（注）（　）書きの額は、政策医療に係る経費等を繰り入れる前の額

目標値達成状況自己評価

経常収支比率	【５】	目標値をほぼ達成できた
職員給与比率	【２】	目標値を下回った
病床利用率	【３】	目標値をほぼ達成できた

○平成２１年度の状況

◇　平成 21 年度決算における総収益は 618 百万円で、対ﾌﾟﾗﾝでは 25 百万円の増収となったことに対して、総費用は 619 百万円で、対ﾌﾟﾗﾝ 26 百万円の増額となった。

◇　医業収益は、344 百万円で、このうち入院収益は 179 百万円で、対ﾌﾟﾗﾝ 24 百万円の減収、外来収益は 137 百万円で、3 百万円の減収となった。

◇　医業費用については、ﾌﾟﾗﾝに対して 24 百万円の増加にとどめることができた。医師の初任給調整手当の見直し等に伴う給与費の増加はあったものの、職員の意識改革や業務委託内容の見直しによる経費削減(△3 百万円）のほか、材料費が減少した(△6 百万円）ことによる。

◇　純損益は、△181 百万円と対改革ﾌﾟﾗﾝと比較すると 14 百万円改善しているが、「県立病院事業支援」で 60 百万円が繰り入れられている。今後は、福島県県立病院改革プラン「行動計画」に基づき、次の二つの視点から医業収益の増収を図り、さらなる病院経営の健全化に取り組んでいく。

○平成２２年度に向けた取組

〔入院収益〕

①　会津若松市等の病院との連携を強化し、回復期やリハビリ期など、亜急性期患者の獲得を目指す。

②　へき地診療所への代診医派遣の継続と介護老人福祉施設への定期訪問等を通じて、新患者の獲得につなげていく。

〔外来収益〕

①　会津若松市等の病院との連携により専門外来の強化を図る。

②　新任医師の紹介や院内イベント案内等の病院情報を積極的に発信して、患者数の維持・確保につなげていく。

③　医療講演会や出前講座など、職員が地域に出向いて行う活動を積極的に展開して、患者数の維持・確保につなげていく。

南会津病院収支計画について

平成２１年度実績	平成２１年度自己評価

○南会津病院

（単位　百万円）

年度	２１計画	２１実績	２２計画	２３計画	２４計画	２５計画
総収益	(1,560) 2,113	(1,843) 2,288	(1,686) 2,111	(1,728) 1,976	(1,764) 1,967	(1,803) 1,971
医業収益	1,256	1,383	1,386	1,427	1,464	1,502
うち入院収益	708	627	801	840	874	911
うち外来収益	471	513	508	510	512	514
うち一般会計繰入	47	212	47	47	47	47
医業外収益	855	903	725	549	503	469
うち一般会計繰入	851	898	723	546	501	466
総費用	2,113	2,289	2,111	1,976	1,967	1,971
医業費用	1,927	2,103	1,929	1,794	1,791	1,795
うち給与費	1,079	1,206	1,060	1,060	1,048	1,048
うち材料費	237	247	262	270	277	284
うち経費	288	317	288	288	288	288
うち減価償却費	296	299	302	159	161	158
医業外費用	182	183	182	182	176	176
純損益	(▲553) 0	(▲445) ▲1	(▲425) 0	(▲248) 0	(▲203) 0	(▲168) 0
経常収支比率	100.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
給与費対医業収益比率	85.9%	87.2%	76.5%	74.3%	71.6%	69.8%
給与費対経常収益比率	51.1%	52.7%	50.2%	53.6%	53.3%	53.2%
病床利用率	57.9%	50.1%	65.4%	68.4%	71.4%	74.4%
入院１日当たり患者数	57.9	50.1	65.4	68.4	71.4	74.4
外来１日当たり患者数	236.7	219.6	254.1	254.1	254.1	254.1

（注）（　）書きの額は、政策医療に係る経費等を繰り入れる前の額

目標値達成状況自己評価

経常収支比率	【５】	目標値を上回った
職員給与比率	【２】	目標値を下回った
病床利用率	【３】	目標値をほぼ達成できた

○平成２１年度の状況

◇　平成 21 年度決算における総収益は 2,288 百万円で、対ﾌﾟﾗﾝでは 175　百万円の増収となったことに対して、総費用は 2,289 百万円で、対ﾌﾟﾗﾝ 176 百万円の増額となった。

◇　医業収益は 1,383 百万円で、このうち入院収益は 627 百万円で、対ﾌﾟﾗﾝ 81 百万円の減収、外来収益は 513 百万円で、42 百万円の増収となった。

◇　医業費用については、給与費がﾌﾟﾗﾝ比 127 百万円増、材料費がﾌﾟﾗﾝ比 10 百万円増、経費がﾌﾟﾗﾝ比 29 百万円増となった。

◇　純損益は、△445 百万円と対改革ﾌﾟﾗﾝと比較すると 108 百万円改善しているが、「県立病院事業支援」で 164 百万円が繰り入れられた。

○平成２２年度に向けた取組

◇　南会津医療圏内の唯一の病院として、へき地医療の中心的な役割を担うため、地域ニーズにあった医療体制や医療機能の充実を図る。

◇　常勤医の確保による産婦人科・小児科入院受け入れの再開を目指す。

◇　７対１入院基本料の維持のため引き続き看護師の確保に努めるとともに、理学療法士が２名体制となったことからリハビリテーション料の上位の施設基準取得を図る。

◇　他施設からの患者紹介の窓口を地域連携室に一本化し、患者を紹介してもらいやすい体制づくりに取り組むことにより、紹介入院患者の増加を図る。

◇　非常勤医対応の皮膚科・神経精神科では、診療日数を増やすことによる患者の分散と待ち時間の短縮、予約枠の増加により、新たな患者の確保を図る。

大野病院収支計画について

平成２１年度実績	平成２１年度自己評価

○大野病院

（単位　百万円）

年度	２１計画	２１実績	２２計画	２３計画	２４計画	２５計画
総収益	1,426	1,703	1,568	-	-	-
医業収益	1,257	1,231	1,401	-	-	-
うち入院収益	807	568	927	-	-	-
うち外来収益	379	351	403	-	-	-
うち一般会計繰入	41	281	41	-	-	-
医業外収益	168	470	167	-	-	-
うち一般会計繰入	164	467	164	-	-	-
総費用	2,056	2,277	1,976	-	-	-
医業費用	2,038	2,242	1,963	-	-	-
うち給与費	1,098	1,315	1,017	-	-	-
うち材料費	268	242	298	-	-	-
うち経費	327	329	327	-	-	-
うち減価償却費	328	335	309	-	-	-
医業外費用	13	13	13	-	-	-
純損益	▲630	▲574	▲408	-	-	-
経常収支比率	69.5%	75.5%	79.4%	-	-	-
給与費対医業収益比率	87.4%	106.8%	72.6%	-	-	-
給与費対経常収益比率	77.1%	77.3%	64.9%	-	-	-
病床利用率	40.3%	27.2%	46.0%	-	-	-
入院１日当たり患者数	60.4	40.9	69.0	-	-	-
外来１日当たり患者数	279.3	245.3	296.2	-	-	-

目標値達成状況自己評価

経常収支比率	【５】	目標値を上回った
職員給与比率	【２】	目標値を下回った
病床利用率	【２】	目標値を下回った

○平成２１年度の状況

◇　平成 21 年度決算における総収益は 1,703 百万円で、対ﾌﾟﾗﾝでは 277 百万円の増収となったことに対して、総費用は 2,277 百万円で、対ﾌﾟﾗﾝ 221 百万円の増額となった。

◇　医業収益は 1,231 百万円で、このうち入院収益は 568 百万円で、対ﾌﾟﾗﾝ 239 百万円の減収、外来収益は 351 百万円で、28 百万円の減収となった。

◇　整形外科医師の定年退職に伴う後任医師の確保ができなかったことや内科医師の年度中途退職に伴い内科が１名体制となったことが大きく影響した。

◇　医業外収益は、470 百万円で、ﾌﾟﾗﾝに比べ 302 百万円の増となった。

◇　医業費用については、全体として、収益の減少に比して、減少が少なかった。

◇　これは、材料費が患者数の減少等により 9.7%減少したものの、退職者の増に伴い給与費が 19.8%増加となったことや経年による施設や医療機器の修繕費用が嵩んだことによる。

◇　純損益は、△574 百万円と対改革ﾌﾟﾗﾝと比較すると 56 百万円改善しているが、「県立病院事業支援」で 296 百万円が繰り入れられた。

○平成２２年度に向けた取組

◇　今後は、「福島県県立病院改革プラン及び行動計画」に基づき、その実現に向け経営改善に取り組んでいきたい。また、平成２２年度も部署別重点目標を定め、これを重点的に行うことにより、収益の改善に努めていく。

◇　平成２２年１月には、内科、外科各１名、３月にも同じく各１名の常勤医師が配置されたことから、「県立大野病院と双葉厚生病院の統合に係る基本計画」を踏まえ、医療安全の確保と医療水準の維持に努めるとともに、双葉厚生病院等地域の医療機関や双葉郡医師会と連携し、職員のモチベーションを維持しながら、地域医療の確保に努めていく。

（参考）　福島県立病院＿病院別経営指標一覧

＊同規模病院は「自治体病院経営指標自治体病院比較経営診断表」（平成２２年３月総務省自治財政局）による

病院名			矢吹病院		喜多方病院		会津総合病院		宮下病院＊		南会津病院＊		大野病院	
（類型区分）			（精神）		（一般Ⅲ）		（一般Ⅰ）		（一般Ⅰ）		（一般Ⅰ）		（一般Ⅱ）	
No.	指　　標		21決算	同規模病院	21決算	同規模病院	21決算	同規模病院	21決算	同規模病院	21決算	同規模病院	21決算	同規模病院
①	総収益比率（%）（＝総収益／総費用×100）	⇧	100.0	104.5	86.6	104.8	80.0	103.6	100.0		100.0		74.9	100.0
②	医業収益比率（%）（＝医業収益／医業費用×100）	⇧	58.8	105.2	74.8	105.0	56.1	103.4	56.4		65.8		55.0	102.8
③	他会計繰入金対医業収益比率（%）（＝他会計繰入金／医業収益×100）	⇩	71.2	4.6	16.4	1.9	42.8	3.1	79.1		64.8		37.9	3.3
④	病床利用率（%）（＝年延入院患者数／年延許可病床数×100）	⇧	70.6	92.6	85.1	68.3	50.1	86.9	55.9		50.1		27.2	55.8
⑤	１日平均患者数（入院）（＝年延入院患者数／入院診療日数）	⇧	145	279	43	50	132	304	18		50		41	100
	１日平均患者数（外来）（＝年延外来患者数／外来診療日数）	⇧	61	79	142	168	370	783	80		220		245	454
⑥	外来入院患者比率（%）（＝年延外来患者数／年延入院患者数×100）	－	27.9	18.9	221.5	248.2	185.3	171.6	295.3		290.3		398.1	300.9
⑦	医師１人１日当たり患者数（入院）（＝年延入院患者数／年延職員(医師)数）	⇧	22.1	31.0	7.2	8.6	5.4	4.8	3.4		3.9		4.0	6.6
	医師１人１日当たり患者数（外来）（＝年延外来患者数／年延職員(医師)数）	⇧	9.3	5.9	24.1	21.3	15.0	8.2	15.0		16.9		23.8	19.9
	看護職員１人１日当たり患者数（入院）（＝年延入院患者数／年延職員(看護)数）	⇧	1.9	2.8	1.5	1.7	1.0	1.0	1.0		1.0		0.8	0.7
	看護職員１人１日当たり患者数（外来）（＝年延外来患者数／年延職員(看護)数）	⇧	3.1	0.5	9.0	4.1	5.8	1.7	14.3		8.6		4.9	2.2
⑧	患者１人１日当たり診療収入（入院外来）（＝入院外来収益／年延入院外来患者数）	⇧	12,927	11,767	14,583	11,543	11,403	25,618	12,252		15,964		12,376	20,568
	患者１人１日当たり診療収入（入院）（＝入院収益／年延入院患者数）	⇧	13,469	12,330	28,389	25,641	31,255	47,188	27,353		34,241		38,065	34,965
	患者１人１日当たり診療収入（外来）（＝外来収益／年延外来患者数）	⇧	10,989	8,785	8,350	5,862	4,443	13,046	7,137		9,669		5,922	15,783
⑨	職員１人１日当たり診療収入（＝入院外来収益／年延職員数）	⇧												
⑩	患者１人１日当たり薬品費（＝薬品費／年延入院外来患者数）	－	1,715	1,295	3,428	870	1,973	5,294	1,813		1,890		1,388	5,859
	患者１人１日当たり薬品費（投薬）（＝投薬薬品費／年延入院外来患者数）	－	1,665	1,240	1,584	210	341	2,376	1,076		445		172	3,297
	患者１人１日当たり薬品費（注射）（＝注射薬品費／年延入院外来患者数）	－	36	55	1,017	660	763	2,918	540		875		994	2,561
⑪	入院患者１人１日当たり給食材料費（＝患者用給食材料費／年延入院患者数）	⇩	794.0	303.0	649.0	385.0	719.0	－	630.0		797.0		753.0	661.0

（参考）　福島県立病院＿病院別経営指標一覧

＊同規模病院は「自治体病院経営指標自治体病院比較経営診断表」（平成２２年３月総務省自治財政局）による

病院名			矢吹病院		喜多方病院		会津総合病院		宮下病院＊		南会津病院＊		大野病院	
（類型区分）			（精神）		（一般Ⅲ）		（一般Ⅰ）		（一般Ⅰ）		（一般Ⅰ）		（一般Ⅱ）	
No.	指　　標		21決算	同規模病院	21決算	同規模病院	21決算	同規模病院	21決算	同規模病院	21決算	同規模病院	21決算	同規模病院
⑫	薬品使用効率（投薬） （＝投薬薬品収入／投薬用薬品費）	⇧	116.5	116.2	115.8	101.7	149.0	131.4	121.0		113.6		116.6	122.4
	薬品使用効率（注射） （＝注射薬品収入／注射用薬品費）	⇧	143.7	143.6	129.4	123.6	81.9	104.4	169.9		132.3		124.9	92.9
⑬	診療収入に対する割合（投薬注射収入）（%） （＝投薬注射収入／入院外来収益×100）	―	15.4	12.9	21.6	8.9	9.9	24.1	18.1		10.4		11.6	31.2
	診療収入に対する割合（検査収入）（%） （＝検査収入／入院外来収益×100）	―	1.8	1.9	13.4	9.4	9.1	9.1	12.8		11.2		10.2	10.9
	診療収入に対する割合（放射線収入）（%） （＝放射線収入／入院外来収益×100）	―	0.2	0.2	3.3	4.8	5.0	6.1	5.2		7.9		8.6	4.4
⑭	患者100人当たり検査件数 （＝年間検査件数／年延入院外来患者数×100）	⇧	44.6	20.8	206.1	241.4	225.3	447.0	160.8		238.4		162.2	543.1
	患者100人当たり放射線件数 （＝年間放射線件数／年延入院外来患者数×100）	⇧	0.9	1.0	14.8	14.0	18.1	32.4	12.9		28.0		25.8	15.7
	検査技師１人当たり検査件数 （＝年間検査件数／年度末検査技師数）	⇧	12,104	16,779	20,576	61,215	18,261	64,137	20,762		34,068		30,125	114,059
	検査技師１人当たり検査収入 （＝検査収入／年度末検査技師数）	⇧	6,262	17,666	19,485	27,644	11,330	33,630	20,295		25,638		23,359	47,269
	放射線技師１人当たり検査件数 （＝年間放射線件数／年度末検査技師数）	⇧	623	1,580	2,456	6,013	2,776	6,970	3,329		5,008		3,199	5,765
	放射線技師１人当たり放射線収入 （＝放射線収入／年度末検査技師数）	⇧	1,851	6,633	7,931	23,594	11,684	33,701	16,552		22,590		13,158	33,632
⑮	入院収益に対する室料差額収入の割合 （＝室料差額収入／入院収益×100）	―	―	―	0.4	2.9	0.3	0.6	0.1		1.0		1.7	3.4
	総収益に対する室料差額収入の割合 （＝室料差額収入／総収益×100）	―	―	―	0.2	1.4	0.1	0.4	0.0		0.3		0.6	1.4
⑯	病床100床当たり職員数 （＝年度末(各種)職員数／年度末許可病床数×100）	―	63.9	46.2	141.8	72.8	109.7	141.4	122.8		115.0		100.5	115.7
⑰	一床当たり償却資産 （＝(償却資産(建物・機械)－減価償却累計額)／年度末許可病床数）	―		6,674		7,704		17,877						25,958
⑱	医業収益に対する医療材料費の割合（%） （＝医療材料費／医業収益×100）	⇩	16.0	9.2	23.2	14.6	21.3	30.4	18.2		17.9		19.7	36.9
	医業収益に対する職員給与費の割合（%） （＝職員給与費／医業収益×100）	⇩	129.9	64.9	85.9	52.3	116.7	47.5	109.9		87.2		106.8	42.9

＊対象病院なし